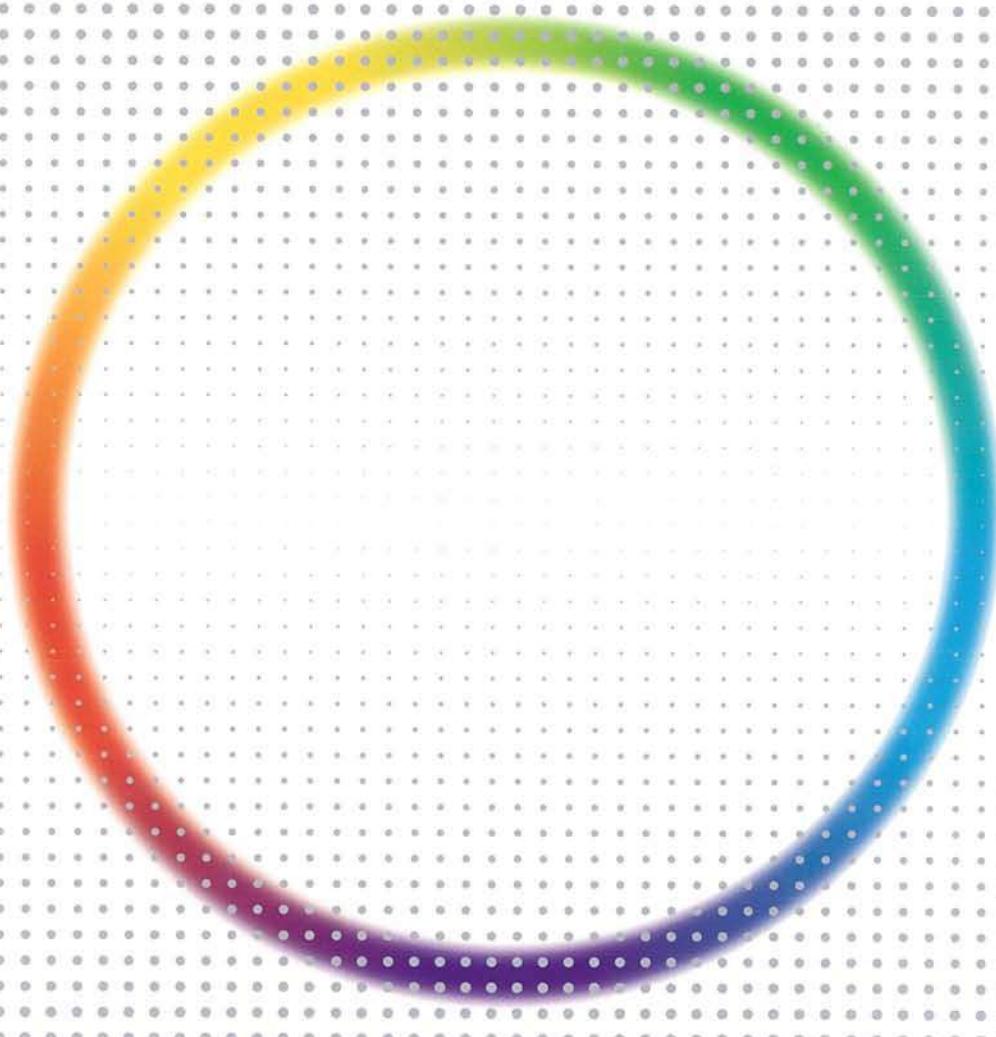


アーバン・アドバンス

Urban Advance

NO.7 1996.6



[特集]情報化と都市

Intelligence-Oriented City

アーバン・アドバンス

Urban Advance

NO.7 1996.6

目次

CONTENTS

[特集] Special Issues

情報化と都市 *Intelligence-Oriented City*

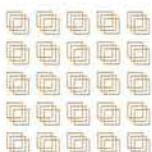
| | | | |
|----|--|------------------------------|-------------------------|
| 6 | 情報化と都市 Intelligence-Oriented City | 名古屋大学情報文化学部 助教授 | 安田 孝美 Takami Yasuda |
| 13 | ITS（高度道路交通システム）の推進 —自動車の自動運転実験を開始— Promotion of Intelligent Transport System - Experience of Guided Driving System for Cars - | 建設省九州地方建設局 鹿児島国道工事事務所調査課長 | 渡辺 学 Manabu Watanabe |
| 21 | 高齢化社会と公営住宅 –築い・ふれあい・千種台– Aging Society and Public Housing - In Case of Chikusa-Dai Housing Estate - | 名古屋市建築局千種台 ふれあいタウン推進室主査 | 各務 芳巳 Yoshimi Kagami |
| 26 | 名古屋市における駐車場案内システム整備 Parking Guidance System in Nagoya | 名古屋市計画局街路計画課 街路調査係長 | 森 利夫 Toshio Mori |
| 34 | 電話からマルチメディアへ Emerging of Multi-Media Society from Telephone Communication | 日本電信電話株式会社 東海法人営業本部 | 下條 豊 Yutaka Shimono |
| 41 | ケーブルテレビと地域生活 Cable Television and Community Life | 名古屋ケーブルネットワーク 株式会社常務取締役 | 奥村 見治 Kenji Okumura |
| 54 | 情報化の動向と地域の取組み Recent Groth of Telecommunication and Local Civic Initiatives | 株地域計画建築研究所 名古屋事務所 | 小竹 暢隆 Nobutaka Odake |

エッセイ *Essays*

| | | | |
|----|--|------------|-----------------------|
| 60 | 海外便り ードイツ・チュービンゲン— Overseas Correspondence , from Tübingen , Germany | 翻訳家 | 大川 温子 Atsuko Okawa |
| 68 | イギリスにおける最近の都市開発について (1) Recent Urban Development Issues in the U.K. (1) | 名古屋都市センター長 | 加藤 晃 Akira Kato |

| | | | |
|----|--|--|--|
| 77 | 名古屋都市センターシンポジウム 「名古屋ってどんな街、どんな顔！？」 兵藤ゆき、堀内守ほか Symposium on " What Kind of Town, Nagoya is, and what a feature. " | | |
|----|--|--|--|

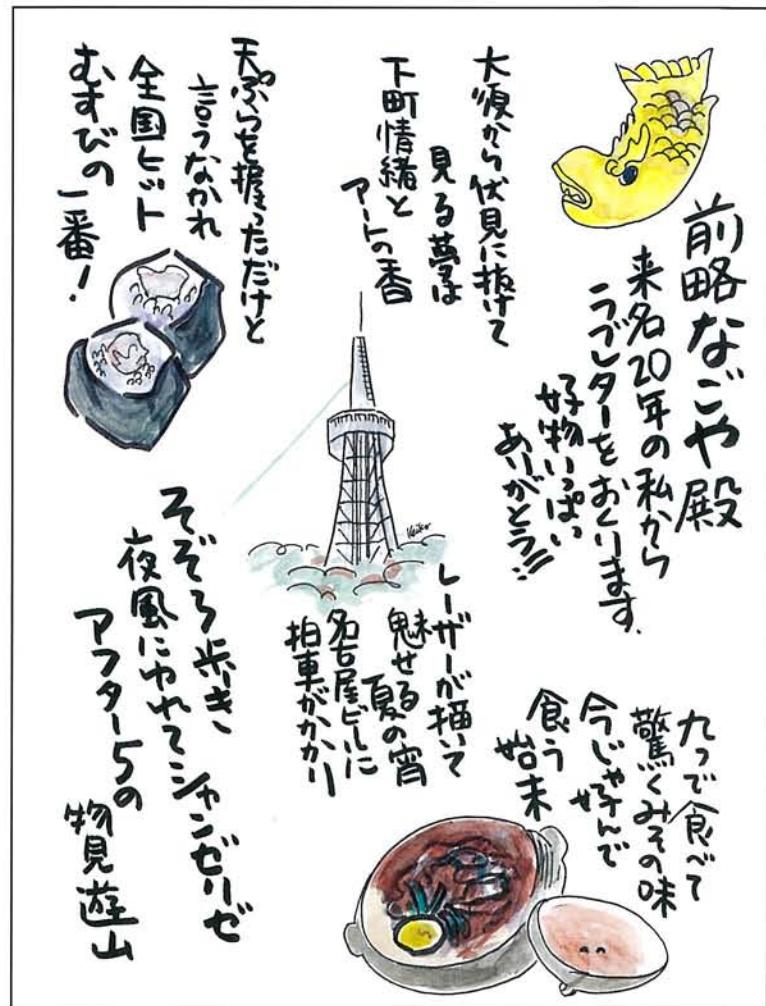
| | | | |
|----|---|--|--|
| 90 | 提案コンクール「名古屋へのラブレター」結果報告 A Report of Proposal Competition for " Love Letter to Nagoya " | | |
|----|---|--|--|



LOVE
LETTER
TO
NAGOYA

名古屋への ラブレター

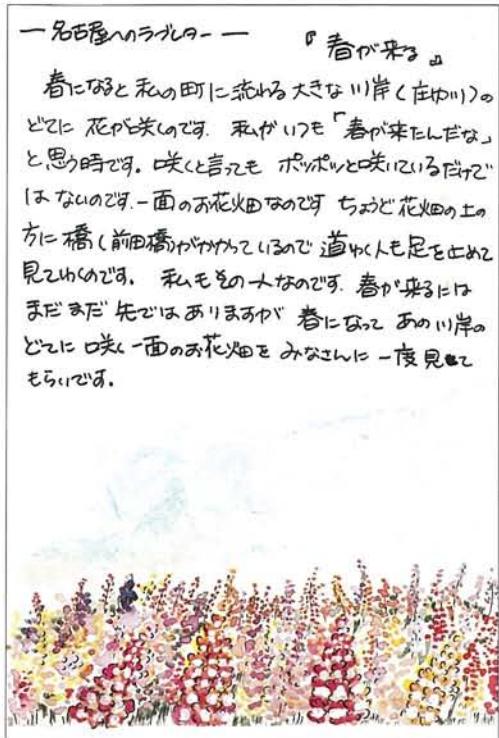
「名古屋への熱い“想い”を手紙に託してください。」
応募されたラブレターには、こんなすてきな絵や写真もたくさんありました。
文字ではお伝えできないこれらをここに紹介します。



これを読んで思わず頷いてしまいました。名古屋をよく表しています。



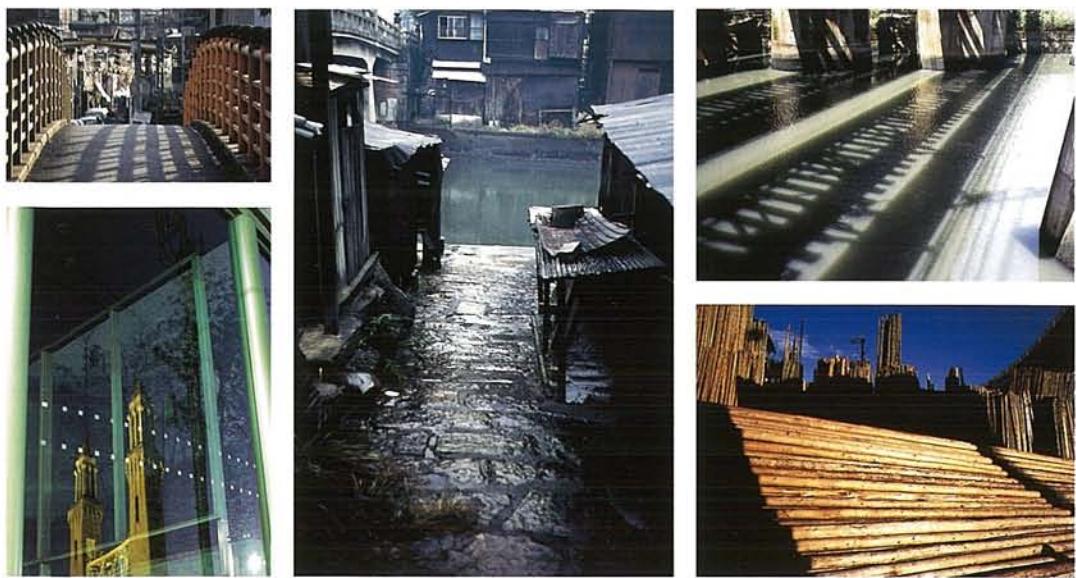
はがきに書いた味噌煮込み、ぐつぐつとゆれる雰囲気が伝わってきます。



繊細な花畠の絵に思わず心惹かれる作品です。



「小学校に入学した娘。
カバンを開けるたびに名古屋弁がホイホイでます。」



堀川に魅せられて撮りためた写真。さまざまから観いた美しい堀川です。



1

ドイツ・チュービンゲン

Tübingen, Germany



2



3

- 1 ネッカーリー川から旧市街を望む
- 2 手工業職人・農民・ワイン栽培農家などが住んでいた地区からお城を望む
- 3 アンマー通り。右に見えるのがアンマー水路

〔特集〕

情報化と都市

情報化と都市

名古屋大学情報文化学部助教授 安田孝美

1. 高度情報システムと都市の情報化

最近では、新聞、テレビなどでインターネットという言葉を見聞きしない日がないほどである。そのお陰というべきか、インターネットという多くの可能性を秘めた夢の道具となり得ると思われ始めている。確かに、遠く離れたコンピュータ等の高度情報機器が世界中に張り巡らされたコンピュータ・ネットワークで互いに結ばれ、それらの間を文字、画像、音声等のデジタルデータが往来できるようになれば人々の社会生活に多大な恩恵をもたらすことは間違いない。商業、製造業における流通プロセスに大きな変革をもたらすことは勿論のこと、教育や医療、福祉にまでその効果は及ぶことになる。

ここで重要なのは、これらの情報機器により可能となる利便性を多角的に探求することに加えて、情報インフラストラクチャの現状を的確に捉え、目標へ到達するまでの段階的進行プロセスを正しく立案することである。従来、新しい技術に関してはとかくイメージが先行し、実体がなかなかついてこられないうちに人々の関心が冷めていくことがよく見られた。これから訪れるであろう新しい情報化社会は、慎重かつ冷静な現状把握と多角的に吟味された目標設定を行うことにより初めて人々の生活に有意義なものとして実現する。そのためには技術的発展はもとより、それら技術を真に価値あるものにするため、可能な限り多くの分野の人々の知恵を結集していくことが重要である。

21世紀を間近に控えた今、都市をデザインするということは目に見える形の従来型の発想に加えて、デジタル情報やコンピュータ・ネットワークという目には見えない「情報化」を真剣に考えることが必須条件であるといえる。感性豊かな若者が自然に集まり、彼らによって世界中の最新情報が時空を越えて送受信される仕組みを作ることが大切である。加えて、最先端の医療が在宅のまま受けられるようになるといった、高齢者にとっても安心な社会を築いていくことが重要なのである。特に、高齢化が顕著となる21世紀においては、高齢者一人一人が社会を構成する一員であることを十分に認識でき、生き甲斐のある人生を送れるような社会システムの構築が必要である。

これらの条件を満足させるための都市をデザインするには「情報化」は必要不可欠の要素となるものである。以下では、21世紀型都市をデザインする際にデジタル情報やコンピュータ・ネットワークがどのように利用可能



安田孝美 (やすだ たかみ)

1959年 名古屋市生まれ。

1987年 名古屋大学大学院博士課程(情報工学)修了。同年、同大学助手。

1993年 同大学情報文化学部助教授となり、現在に至る。

この間 1986年、日本學術振興会特別研究員。1989年、市村學術貢献賞。

CG、VRの基礎手法とその各種応用に興味をもつ。最近ではネットワークを利用したマルチメディアにCG、VRの新たな可能性を求めて研究を行っている。

1994年、シーメンス・カーレビー第9回世界の木星衝突に関するインター ネットを利用してCG映像を制作し、これに対し科学技術庁長官賞を受賞。

であるのかを具体的な事例を交えながら述べていきたいと思う。

2. インタラクティブCGによる都市デザイン

～都市をデザインする上で重要なのはそこに生活があることを認識することである～

最近の新たに開発された地域や再開発された街には現代技術の粋を極めた近代的なビル群が目に留まる。それらはとても美しく、機能的なものが多い。芸術作品としての建築という言葉がまさにあてはまるものも少なくない。芸術性と最先端技術による機能性を合わせ持った空間を有する都市が「デザイン都市・名古屋」にふさわしいものである。

現在の都市景観設計にはデザイナー、プランナー、建築家など、これに関わる人々の能力を余すことなく發揮させるためにコンピュータが有効に利用されている。この分野でいま最も注目され、大規模な建造物デザインには必ずといってよいほど利用されているのが3次元コンピュータ・グラフィックス(3DCG)映像である。専門家ではない一般の人々、あるいは専門家にとってさえも、2次元の平面図からは想像するしかなかった計画の空間的把握を、3DCGは与えてくれるものである。3DCGによって描かれた街並みをアニメーションで動画として表示することにより、完成後のその街の雰囲気を事前に掴むことができるようになる。しかし、この種の映像は画期的ではあるが一方的であり、まさに予め作られた映像を見せられている、といった感が否めない。これはいわば静的な手法による都市デザインで、スタティック・シミュレーションであるといえる。21世紀型都市景観設計ではより良い進んだ技術が必要不可欠である。

そこで浮上するのが「インタラクティブCG」である。「インタラクティブ」つまり「対話型」の3DCGアニメーション、これがこの

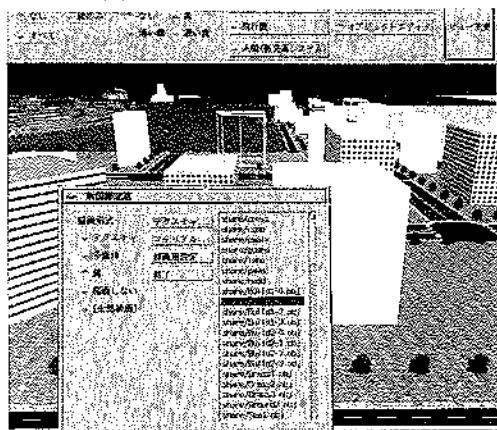
章の冒頭で述べた「生活者を考慮した都市デザイン」に通ずるのである。都市とは人が関与することで成り立つものである。人々がその街でどのように暮らしていくのか、そこを訪れた人達の行動パターンはどのようなものなのかをシミュレートすることなくして真的都市設計はあり得ない。ただ美しいだけでは不十分なのである。幸い、現在我々が手にすることのできるコンピュータはこのシミュレーションを行うのに十分な能力を有している。そして、今後その能力が益々増大することは明らかである。計画者側からの一方的ではない、そこを利用する人々をも含めた双方向的な都市デザイン、これこそが今後の都市開発に重要な要素となるのではないだろうか。これが人々の動きまでも考慮した都市デザインという意味で動的な、つまりダイナミック・シミュレーションということになる。

インタラクティブCGでは、コンピュータ内に仮想的に構築された都市空間を参加者自らが体験することを可能にする。その人が1ブロック前に進みたければそのように3DCGアニメーションが即座に生成され、その景色をあたかも自分が歩いて見ているように体験することができる。少し前、マスコミ界を「バーチャル・リアリティ(Virtual Reality; VR)」という言葉が席巻した。仮想現実感と訳されたこの技術は人間の五感情情報を人工的に生成させる、という非常に夢のある技術である。しかし一般には、最終目的に対して実現されている技術レベルはさほどのことはないと、熱が急に冷めているのが現状である。実現すれば素晴らしいものだからこそ夢がある訳で、VRの研究開発に携わっている研究者は今こそ落ち着いて仕事に打ち込める時期であると、意欲に燃えている。インタラクティブCGはまさに、このVRの五感情報生成の視覚的部分の実現形態である。

具体的研究事例として、著者らの研究グループでは建設予定の都市空間をインタラクテ

ィブCGにより体験することができるコンピュータ・ソフトウェア・システムの開発を行っている。このシステムでは建物の3次元形状や外観はもとより、道路、新交通システム軌道、芝生、ガードレールなど、街並みに必要な要素をパースペクティブな視点からインタラクティブに設計、変更することが可能で、それらを材質感をもって表示することができる。図-1は1600haほどの海洋部の人工島に造られることを想定した都市空間をコンピュータ画面上から対話的にデザインしている様子を示している。また、デザインされた都市空間をマウス操作によりインタラクティブに体験している様子を図-2に示す。実際には、体験者の操作に従った3DCGアニメーションが1秒間に数コマ生成され、これがコンピュータ画面に表示されることになる。勿論、より性能の優れたCG用コンピュータであるグラフィック・ワークステーションを利用すれば、1秒間に生成可能なコマ数が増すと共に、CG映像のクオリティも向上することは言うまでもない。現システムでは表示される3DCGの画質を利用するコンピュータの描画能力によって、材質感豊かでアリティのあるものからワイヤー・フレームと呼ばれる高速描画可能な線画のレベルまで自由に変更

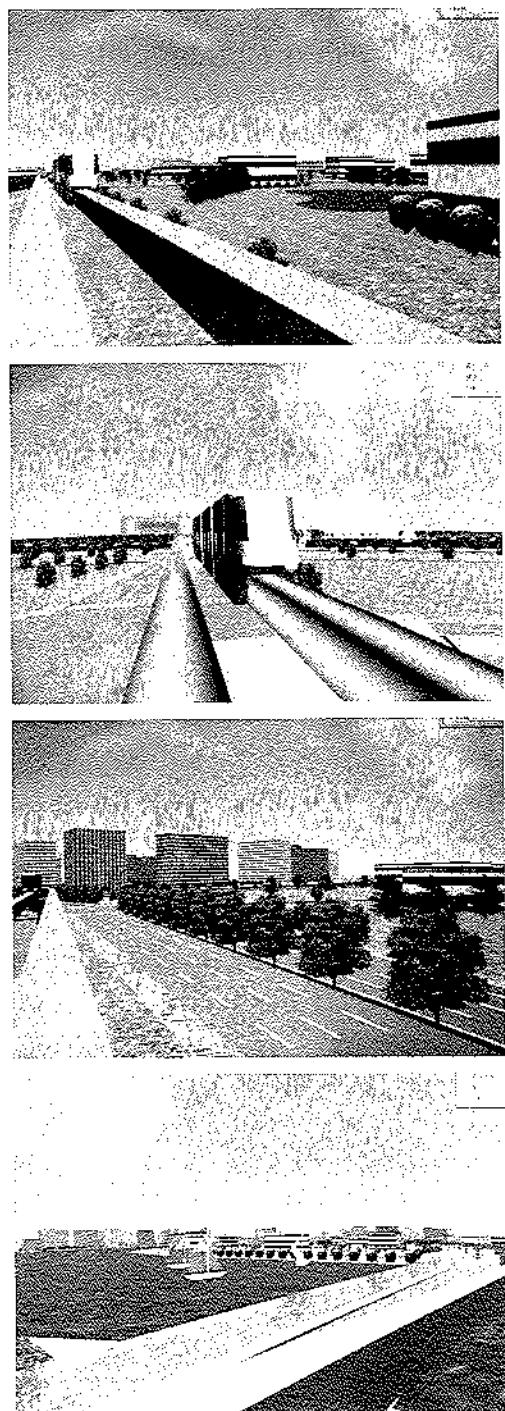
図-1 3DインタラクティブCGによる
都市デザイン



できるようになっている。

現在、このシステムはインターネットへ接

図-2 3DCGによる仮想都市の体験



続することで新たな機能拡張を行おうとしている。その目標はインターネットに接続することが可能な場所なら誰でもこのシステムを遠隔から利用でき、建設予定の新しい都市を仮想的に散策することができるようにしてしまうものである。そのためにはインターネット経由で不特定の人々がこのシステムを利用することができる仕組みが必要で、かつ利用に際しては特別な操作手順を必要としないことが重要である。ところで、インターネットの世界では WWW (World Wide Web) サーバーと呼ばれるコンピュータからのさまざまなマルチメディア・データの情報発信が急増している。WWW サーバーでは文字はもちろん音声、画像、動画までを世界中の人々に提供することが可能で、この特徴を宣伝やイメージアップに利用しようとする企業も増加している。テレビコマーシャルで自社の WWW サーバーの接続用アドレスを伝える企業も増えつつある。WWW がこのような広がりを見せているのはそれを見るあるいは聞くためのブラウザと呼ばれるソフトウェアの利用方法が直感的であり、非常にシンプルだからである。この利用の容易さこそが一般に普及するための鍵となっているのである。

このような機能を利用して多くの人々が都市生活シミュレーションに参加できるようになれば、より的確な都市計画が可能になるものと期待される。インタラクティブ CG によるダイナミックな都市デザインでは平常時の人々の行動のみではなく、緊急時における群衆の行動パターンをシミュレーションすることもできる。これにより災害・緊急時の都市の持つべき危機管理体制を充分に検討することが可能となるのである。

3. 最新情報技術を利用した新しい文化創造

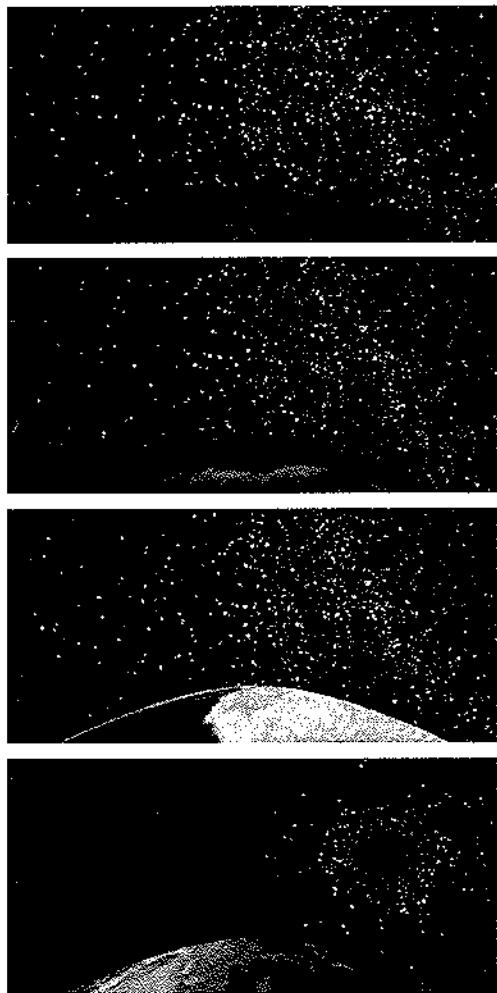
名古屋を含めた中部圏は製造業を中心として発展し、いわゆる文化の香りがあまりしな

い、という批評をよく耳にする。確かに、中部圏における製造業はわが国を代表するものであることは、その証拠となる統計量と共によく引用される。だからといって文化が不毛であるということには断固否定したい。ここには様々な文化的財産が有形、無形を問わず存在している。ただそれをこれまであまり巧く他の地域にアピールしてこなかったということではないだろうか。この奥ゆかしさが名古屋気質の良いところかもしれないが、これから時代は無理をしない自己 PR は積極的に行なうことが必要であろう。ただその方法については熟慮する必要があり、いわゆるセンスが問われるるのはこの部分である。理系に強い中部地域が文化を巧みに取り入れたとき、新たな文化創造のチャンスが訪れるのではないだろうか。

最近、歌舞伎役者が歌舞伎についてのさまざまな情報を前述の WWW で発信し、世界各地から大きな反響を呼んでいるとのことである。これこそ「文化と最新情報技術の融合」が新たな可能性を生んでいる好例であるといえよう。

名古屋市科学館天文係と愛知県立芸術大学作曲科のグループは芸術と技術を融合させた新しい試みを行っている。これは毎年秋に名古屋市科学館のプラネタリウムで行われる「コンピュータ・アット・ザ・プラネタリウム」コンサートで、コンピュータ・ミュージックとプラネタリウム内の様々な機器およびレーザー光線により新しい芸術表現を探求するものである。この試みは今年1996年で10周年を迎える。著者らもこの実験に数年前より参加しており、コンピュータによるデジタル・ミュージックとプラネタリウムによる星に 3 DCG を加えた総合デジタル芸術コンサートとなっている。図-3 は去年のコンサートで利用されたもので、宇宙空間を高速に近い速度で移動したとき、視野が次第に狭まり、周囲の恒星が青方変移を伴って視点の中心に集

図-3 恒星の青方変移のCGアニメーションの数コマ



まつてくる様子を表しているCGアニメーションの1コマである。コンサートでは毎年新しい試みが芸術的、技術的に実施され、情報技術と芸術との融合の奥深さを実感している。このような試みは国内外を通して他に類を見ないものであり、名古屋からの新しい文化発信としての価値は十分にある。

ここ名古屋の地に文科的発想と理科的発想が巧く融合するような仕組みを作り、この例のような新たな文化創造、発信の実験が行うことのできる環境を整えることが重要である。よく言われることではあるが、21世紀を切り

開く道の一つとして理科系、文科系を問わず複数の専門領域を含むような境界領域的重要性が広く認識されていかねばならない。幸い当地域の大学ではそのような新たな学問領域にチャレンジする体制が整備されつつあり、このような能力に秀でたジェネラリストを育む学問的土壤は整ってきている。

4. 快適生活のための都市情報化プランニング

都市の情報化がもたらすべきもの、それはそこに住む人々に快適な生活を提供することである。それは住民がCATVや衛星放送あるいはコンピュータ・ネットワークなど多くのメディアからの溢れんばかりの情報を均しく自由に享受できるようになることだけでは満足されないものである。情報化によってライフスタイルそのものが変容されなければならない。「労働」、「医療・福祉」、「教育」、「エンターテイメント」、「ショッピング」など多角的かつ総合的に都市の情報化を検討することが重要である。特に、有線、無線を問わず大容量の通信ネットワークが家庭に広く行き渡った情報インフラ整備先進都市においては、世界のどの場所とも空間的時間的距離を超越した双方向のコンタクトが可能となり、生活に計り知れない変革と恩恵を与えることになる。

労働について考えてみると、現在の通勤時間にかけるエネルギーの多くはテレコミュニケーション、テレワーキングの言葉で呼ばれる自宅勤務あるいは遠隔勤務によって解消される。終身雇用制度が疲弊し能力主義が台頭する21世紀においては、勤務時間などさほど問題視されなくなる。大切なのは計画に従った成果があげられるかどうかである。そのような社会では如何に効率よく仕事をこなしていくかが重要で、自宅から世界的規模で接続可能なコンピュータ・ネットワークはビジネスにとって必要不可欠の道具となる。このよう

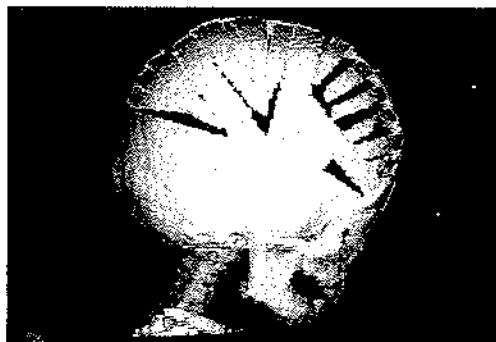
な勤務形態により、より人間らしい仕事、つまり創造性のある仕事にかけられる時間が増える。現在、ソフトウェア産業など一部の業種ではこの兆候が散見されるようになってきている。よく「新たなテクノロジーは失業を生む」といわれる。勿論、産業革命によって手工業的な労働は激減した。同様に情報化革命によってもまた多くの労働が減少することは否定できない。ただ、これまでの歴史も示しているように新たなテクノロジーはまた、より多くの労働機会を生むものである。これから本格的に訪れるであろうインターネットを含む高度情報化社会においても人間にとつてより好ましい労働が新たに生まれることは間違いない。

医療・福祉は情報化先進都市においては重要な要素である。高度情報機器を充分に利用した、「メディカルケア」「ヘルスケア」「メンタルケア」の3つのケアが住民全てに与えられなければならない。

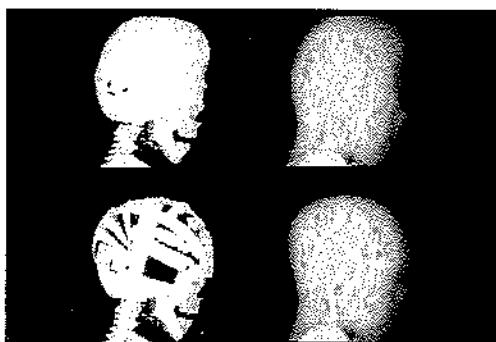
3つのケアのうち最も実現しやすいのが「ヘルスケア」であろう。現在、遠隔診断の試みは世界各地においてさまざまな実験が行われている。特に健康診断的なものであれば、テレビ電話と簡単な診断データの送受信を行うパソコン通信等を利用することで一応のレベルは実現できよう。この他さまざまな医療相談、家庭の医学辞典のようなオンライン・サービスも高齢化社会では益々重要になってくる。

「メディカルケア」で最も困難な問題に遠隔治療がある。これは遠隔の専門医がコンピュータ・ネットワーク等を通して治療装置を制御することにより患者を治療するものである。診断と異なり実際に治療行為を行うため精密・高度な制御技術が必要である。米国ではすでに軍が緊急時の治療の一手段として実用を考慮した遠隔制御ロボットによる手術の研究を行っている。このような近未来の遠隔治療を実現するためにも、コンピュータ上で

図-4 3DインタラクティブCGによる手術シミュレーション



頭蓋形成手術シミュレーション(1)



頭蓋形成手術シミュレーション(2)
左上：術前頭蓋 右上：術前顔面
左下：シミュレーション後の頭蓋 右下：術後予想顔面



人工大腿骨置換手術シミュレーション

の手術シミュレーション技術を確立することは重要な意味を持つ。図-4は著者らが開発している外科手術シミュレーション・システムによる手術計画例である。この種のシステムでは、X線CTやMRIなどの人体断層像から再構築された3DCGによる患者像に対して、仮想的に手術を行い、各患者にとって

最適な手術計画を立案することが可能である。更に、VR技術を利用することによってより現実に近い感覚で外科医は手術シミュレーションを行うことが可能となる。

「メンタルケア」は今後その重要性が益々大きくなる分野である。長期療養を余儀なくされている患者にとって外界とのコンタクトは精神衛生上、非常に重要である。ところが実際に外界に出られることは困難な場合が多い。このような患者に対して、インターネットなどの通信を利用してことで外界との接触を行うことができる。国立小児医療センターでは、衛生通信等を用いて最新のVR技術により患者である子ども達にユニークな体験をさせている。院内に設定されたVR装置で子ども達がサッカーボールをシュートすると、遠く離れた練習場のゴール前にいるJリーグの選手がそれをキャッチしようという遠隔VRシステムを構築したのである。担当医師によると、いつも病院の中だけで生活している子ども達がいかにも生き生きと楽しんだ、ということである。このように先進的な技術は人々のメンタルケアにも利用されなければならない。ただ、先進的な技術ばかりでなくとも現在普通に利用可能な技術でも患者の精神状態を良くすることは可能である。同センターでは、別々の病院への入院を余儀なくされた親子に対してテレビ電話を与え、ベッドから好きなときに親子の会話が互いの顔を見ながらできるようにした。母親はその後暫くして亡くなつたが、最後まで子どもの顔を見て話ができた、と心から感謝していたそうである。

都市の情報化の最大の目的は都市空間としての快適性であろう。それはスタティックなものだけではなく、人々の活動、生活を考慮したダイナミックな意味での快適性を求めるべきならない。本文では限られた部分の考察しかできなかつたが、それらに共通することは

社会、文化、技術、人間、環境を総合的に理解するジェネラリストによって初めて21世紀型の情報化都市はデザインされるべきものである、ということである。緑豊かな環境の中にある真の快適生活を実現した先進的な社会作り、これこそが新しい都市のイメージであるといえよう。

以下、本特集では各分野で都市の情報化に実践的に取り組んでおられる方々の具体的な事例が紹介される。これらの事例が示すように今後の都市デザインには情報技術は必要不可欠の存在である。そして情報技術をさまざまな分野にとって最適な形で加工し、かつ統合することのできる能力を有する人材が必要になってくる。

ITS(高度道路交通システム)の推進 —自動車の自動運転実験を開始—

建設省九州地方建設局鹿児島国道工事事務所調査課長 渡辺 学

1. 高度情報化社会の実現

国土の均衡ある発展、経済の持続的発展、高齢化社会への対応等のわが国の直面する課題に対応し、真に豊かさを実感できる社会を実現するため、情報通信基盤の早急な整備が求められている。

情報通信基盤の整備により、高速、大容量の映像を中心とする情報通信が本格化し、テレビ会議、在宅勤務、遠隔療法、遠隔教育等が可能となり、地域間の時間・距離の制約を大幅に縮小させ、国土構造の自由度を高め、高度情報化社会の実現が可能となる。

米国においては、「N II構想(全米情報通信基盤)」として、全米のコンピュータシステム、テレビ、ファックス、電話等を光ファイバー網のデジタル情報ネットワークで接続し、すべての米国民が、必要な情報を必要な時に、必要な場所で、適正価格で入手することを可能にすることを計画している。

わが国においても、平成6年5月19日、通産省の産業構造審議会が「高度情報化プログラム」を報告、5月31日、郵政省の電気通信審議会が「21世紀の知的社会への改革に向けて」を答申、6月17日、建設省の情報政策推進委員会が「情報化に対応した国土基盤・生活空間づくり」を中間報告、さらに8月2日には、政府に高度情報通信社会推進本部が設置され、平成7年2月21日に「高度情報通信社会推進に向けた基本方針」が決定されている。

2. 道路交通をとりまく状況

道路交通は、自動車のもつパーソナル性、戸口性、随時性等の優れた特性により、わが国の社会・経済の発展に大きく寄与してきたところである。しかしながら、日本における本格的な道路整備の歴史は40年と浅く、質、量ともに未だ十分とはいえない状況にあり、交通事故による死者数が昭和63年以来連続7年間1万人を越え、渋滞による時間損失が年間12兆円にも及ぶなど、道路交通問題は今なお深刻な状況にある。

3. ITS(高度道路交通システム)の推進

(1) 新しい交通システム ITSへの期待

これらの課題に対して建設省では、交通安全対策として、5次にわたる特定交通安全施設等整備事業5箇年計画を策定し、自歩道整備、交差点の改良、わかりやすい標識等の整備を進めている。また、渋滞対策としては、新渋滞対策アクションプログラムを策定し、平成5~9年度の5年間で全国約700ヶ所の渋滞ポイントの解消を図るとともに、利用者の協力を得ながら道路利用の効率化を図る交



渡辺 学 (わたなべ まなぶ)

平成2年3月 北海道大学工学部土木工学科
大学院修了
同年4月 建設省入省
平成6年4月 建設省道路局道路交通管理課
道路交通情報係長
平成8年4月 現職

通常需要マネジメント施策を導入する等、ハード、ソフト両面からの施策を推進している。

しかしながら、交通事故、渋滞等の課題の解決の抜本的な解決を図るために、これらの施策に加えて新たな対策が強く求められている。

このような中、現在直面している課題解決への画期的な切り札として期待されているのが、ITS (Intelligent Transport Systems ; 高度道路交通システム) である。

ITS は、最先端の情報通信技術を用いて、人と道路と車両とを一体化することで新しく創り出す道路交通システムであり、リアルタイムな道路交通情報の提供、自動料金収受、自動運転等の実現により、安全性、輸送効率、快適性の飛躍的な向上と環境の改善に大きな効果をもたらすものと期待されている。さらに、民間の試算によるとシステムの研究開発・普及を通じて50兆円規模の大きな新市場の創出が期待されている。

高度道路交通システム
(ITS : Intelligent Transport Systems)とは



- 安全性の向上
- 輸送効率の向上
- 快適性の向上
- 環境の改善
- 新たな市場の創出

(2) 日欧米での積極的な研究開発

欧米においては、米国の ITS 計画、欧州の TELEMATICS 計画等、既に国家的なプロジェクトとして ITS の研究開発が推進されて

おり、特に米国は1993年以降4年連続で200億円を超える研究開発費を投入、全米で約80のフィールドテストを実施しているところである。

日本においても、約10年前から ITS の取り組みが進められており、1989年世界に先駆けてデジタル道路地図データベースが完成、これを基本としたナビゲーションシステムが現在までに約100万台普及しており、リアルタイムな道路交通情報を提供する VICS (道路交通情報通信システム) が世界に先がけ今春4月より運用が開始される等、積極的な取り組みが行われてきている。

(3) 政府として積極的な推進を決定

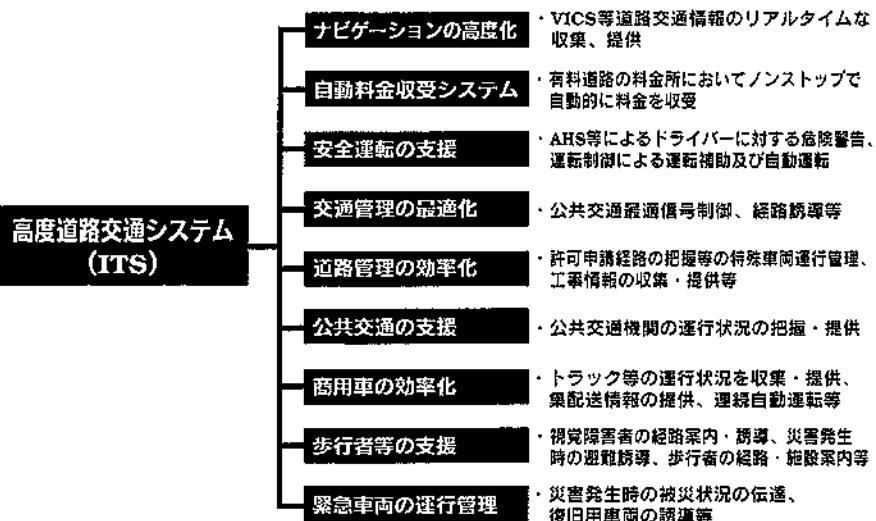
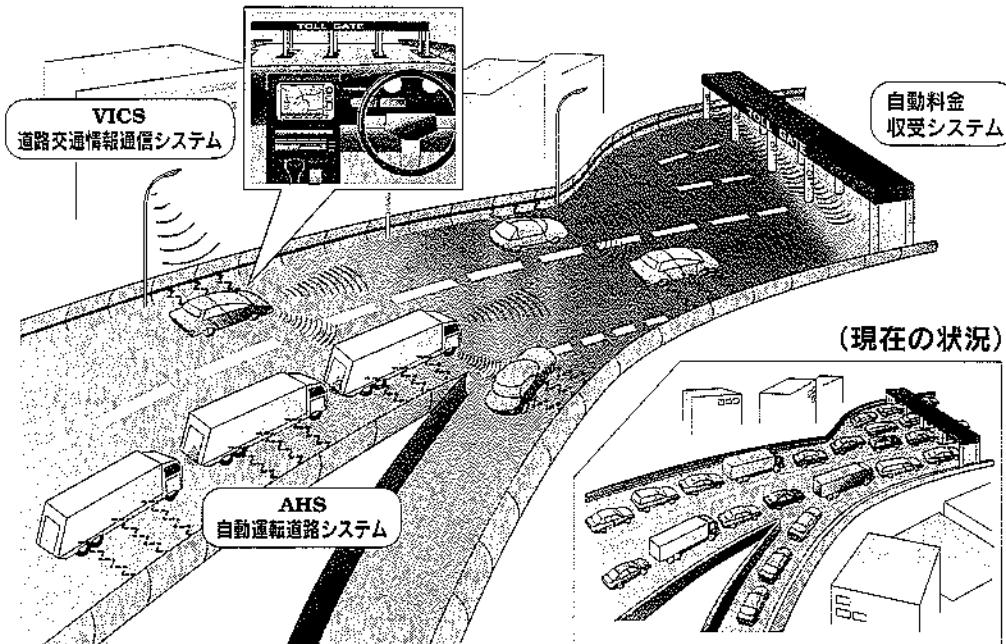
このような状況の中、日本政府においては、日本の高度情報通信社会の構築に向けた施策を総合的に推進することを目的として設置された高度情報通信社会推進本部が平成7年2月21日に策定した「高度情報通信社会推進に向けた基本方針」の中で ITS の積極的な推進を決定している。

この基本方針を受け、建設省では警察・通産・運輸・郵政の関係省庁と連携して今後の日本としての ITS の進め方、方向性を示した「道路・交通・車両分野の情報化実施指針」をとりまとめ、平成7年8月28日に公表したところである。

この実施指針では、21世紀初頭に ITS を構成させることを目標において、今後、その目標を達成するために、官学民の連携のもとでの研究開発の積極的な推進、システムの構築に必要な計画的なインフラ整備、国際標準化の検討、技術協力等の積極的な国際協力等、政府として取り組むべき11の施策を明示している。

さらに、今後、積極的に研究開発を進める分野として、リアルタイムな道路交通情報を提供する VICS (Vehicle Information and Communication System ; 道路交通情報通信

ITSの具体的なシステム



システム) 等によるナビゲーションシステムの高度化、有料道路の料金所等で停止することなく自動的に料金を支払うことを可能とする自動料金収受システム、危険の警告、運転

補助による危険回避、さらには自動運転を実現するAHS(Automated Highway System; 自動運転道路システム) 等による安全運転の支援等の 9 つの開発分野を明示している。

(4) 建設省の取り組み

建設省では、実施指針に示された方針を受け、研究開発予算の確保、研究開発基盤の整備を推進することとしており、平成8年度においては、ITSを構成する9つの開発分野について、実用化とインフラ整備を進めるとともに、研究開発の総合的な推進を図ることとしている。

① 実用化とインフラ整備の推進

○ VICSの整備推進

- ・平成8年から首都圏、東名・名神高速道路、阪神高速道路等で車載機器(ナビゲーションシステム等)にリアルタイムで渋滞情報、所要時間情報、工事情報、規制情報等の提供を開始。
- ・平成9年度から全国の高速道路での情

報提供を目標に、ピーコン(発信器)・情報処理基盤の整備を概成。

○ ノンストップ自動料金収受システムの試験運用開始

有料道路の料金所において、自動的に料金の支払うことの出来るノンストップ自動料金収受システムについて、平成7年度に実施中の共同研究の成果を踏まえ、平成10年度を目途に実用化に着手できるよう、平成8年度中に試験運用開始。

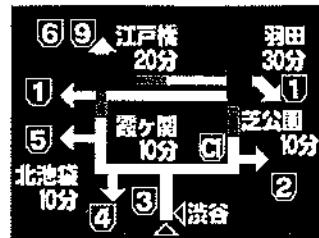
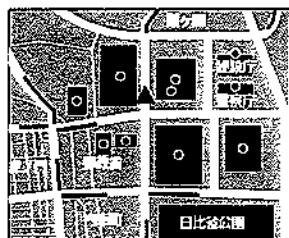
② AHSなどの研究開発の総合的な推進

研究開発の計画的・積極的な推進に向けた全体計画の策定と研究推進体制の整備を推進する。また、2001年の試験運用の着手を目指してAHSの研究開発を進める等各種研究開発プロジェクトを本格的

VICS(道路交通情報通信システム)

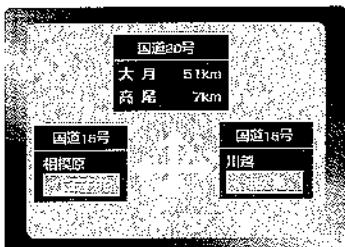


首都高 箱崎 I.C.渋滞4k
首都高 向島 I.C.渋滞2k

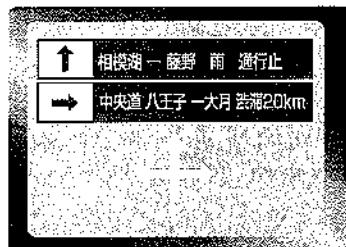


「VICSの表示事例」

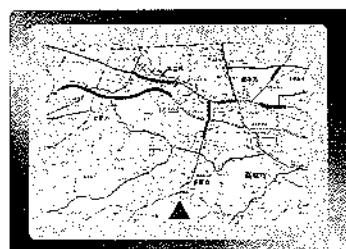
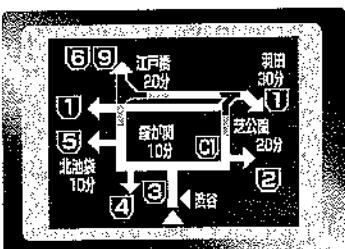
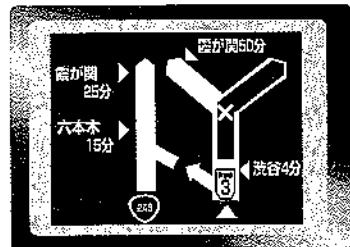
1 道路案内



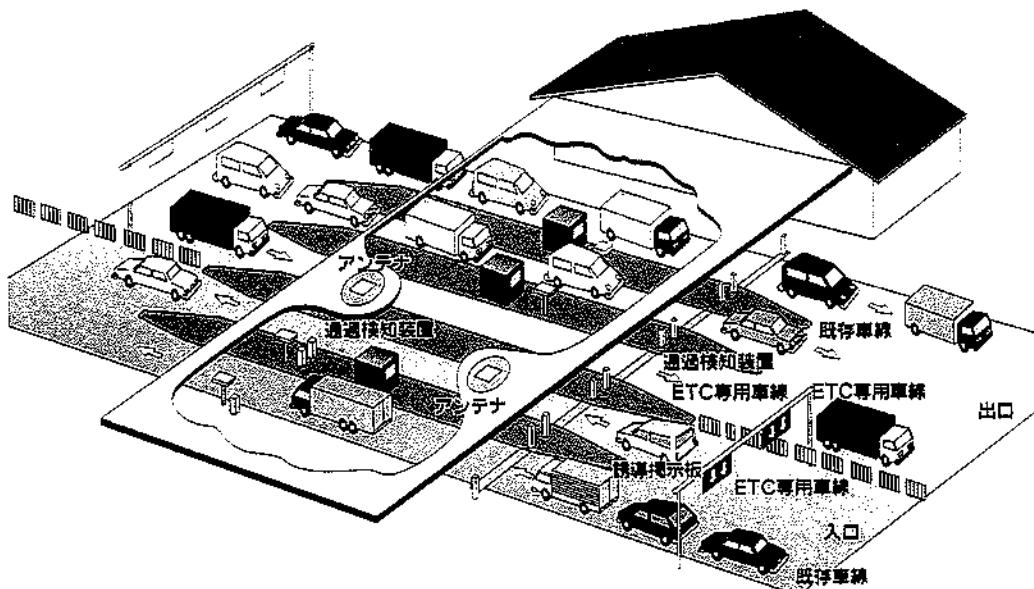
2 陸空情報(文字)



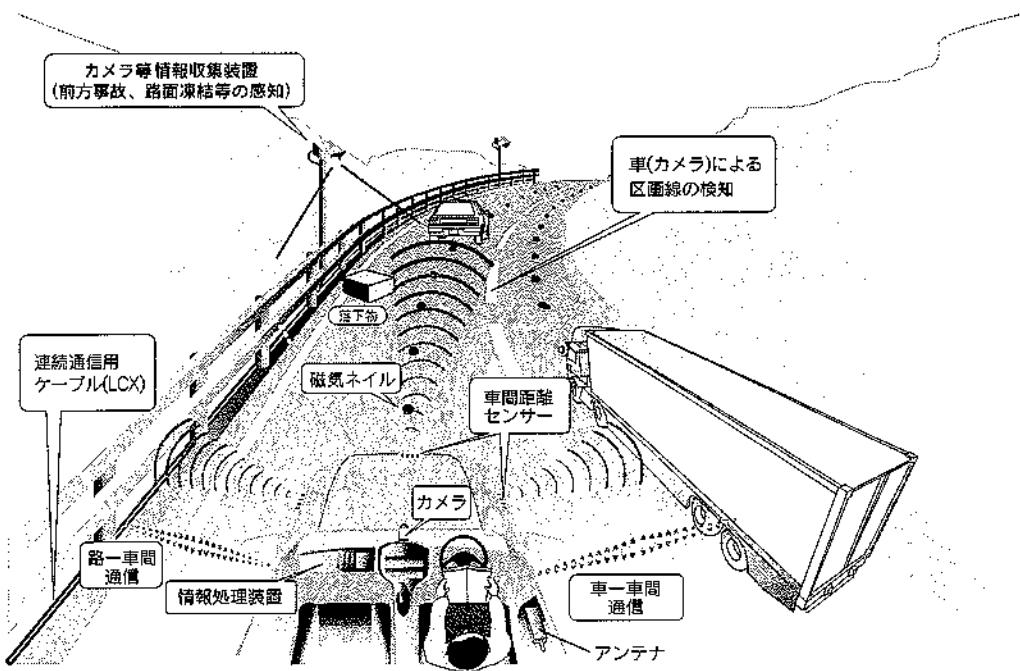
3 区間旅行時間



ノンストップ自動料金収受システム



自動運転道路システム(AHS)



に推進するとともに、国際標準化活動への積極的な対応を図る。

○ 全体計画の策定

- ・自動料金収受システム等の主要なシステムについて、21世紀初頭の実用化に向けて、研究計画等を ITS 推進五箇年計画（仮称）として策定。

○ 官学民協力による研究推進体制の整備

○ 本格的な研究開発の推進

- ・安全運転の支援については、AHS に関する、建設省土木研究所実験施設の拡充、土木研究所テストコースでの分合流走行実験、供用前の高速道路でのフィールド実験、カメラ・センサ等の道路・交通情報インフラの研究開発等の実施。
- ・道路管理の効率化等の他の分野について、特殊車両管理システム、新物流システム等の研究開発を推進。

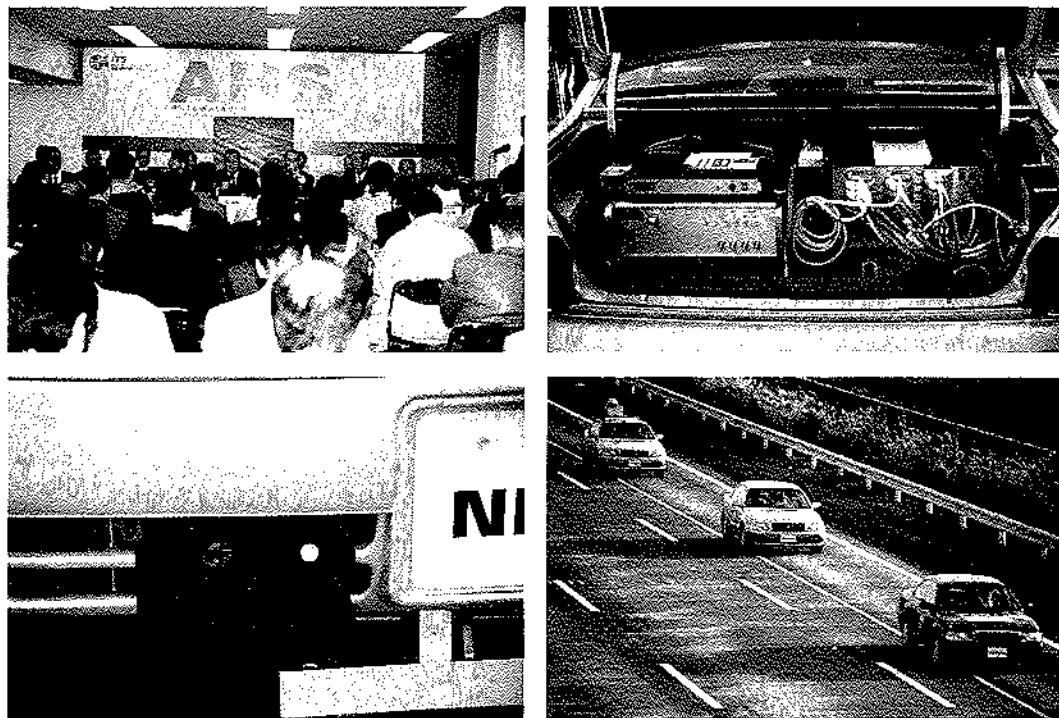
○ 国際標準化活動への積極的な対応

- ・日本のシステムの国際標準化機関 (ISO 等)への提案等。

4. AHS(自動運転道路システム)の公開実験

昨年11月1日、土木研究所で我が国初のAHS の公開実験が行われた。

AHS は建設省が取り組んでいる ITS 研究開発の中で最も重要なプロジェクトのひとつとして位置づけられているシステムであり、現在、民間との共同研究により、研究開発を積極的に推し進めているところである。AHS は、路側に設置した連続通信ケーブルと車両との間の情報のやりとりを用いて、前方の事故発生や故障車の存在等の情報を車載ディスプレイや音声等によりドライバーへ提供・警告したり、万一の時は一時的に自動で車両を制御したり、さらには自動運転を実現するシステムである。



AHSが実現されていくと、まず、ドライバーは事前に前方の危険を感じることが可能となり、余裕をもった運転が可能となる。さらにシステムが進歩すると、道路と車両とでドライバーの危険に対し自動的に車両を制御することが可能となり、ヒューマンエラーのカバーによる運転時の安全性の飛躍的向上が期待できる。AHSの最終目標である完全自動運転が可能となれば、快適なドライブと輸送効率の飛躍的な向上が実現されるのである。

公開実験では、約100人の報道関係者の参加を得て開催された。当日は、土木研究所内にある一周約6kmあるテストコースのうち約3kmを使用し、2~3台の実験車が車群を組み同じ間隔（車間距離1秒）で、ハンドル、アクセル、ブレーキ等のすべての操作が自動的に行われる実験が公開された。また、前方カーブの先の事故車を接近する車のドライバーに危険を警告するシステムの体験試乗も行われた。

実験の仕組みをさらに詳細に説明すると、テストコースには、路側3kmにLCX（漏洩同軸ケーブル）と故障車の存在を自動的に認識するカメラが設置され、さらに、車線の中央には1m間隔で磁気を発生する釘（磁気ネイル）が埋設されている。また、実験車には、磁気を感知する磁気センサ、白線を認識するカメラ、前方との車間距離を測定する車間センサ、さらには、情報処理を行うコンピューターが搭載されている。

車両の速度や前方の道路線形（直線、カーブ等）の情報は、LCXから発生されるマイクロ波を通じて車両に伝えられ、それをもとにアクセルやブレーキの制御が自動的に行われる。また、磁気ネイルを車両のセンサが感知して、それをもとにハンドルの制御が行われる。さらに、車に搭載されたカメラやレーダー等が、自動制御を行う際の補助として用いられている。また、危険警告については、カメラで自動認識された事故の情報がやはり

LCX を通じて車に提供されている。

本システムは、まだ基礎的な実験の段階であるが、今年、供用前の高速道路でのフィールド実験が計画されているなど、建設省では引き続き実用化に向けて積極的な研究開発を進めていくこととしている。

おわりに

ITS は、道路交通問題解決の切り札であるとともに、大きな経済効果を生み出すものとして大きな期待を集めている。昨年11月に横浜で開催された世界会議で確認されたように、ITS の研究開発は基礎的な段階から実用化にむけた段階に移りつつあり、欧米では、国際標準化を念頭に置いた更に強力な取り組みが行われていくものと考えられる。

日本においても昨年、基本的な方針が定められたところであり、建設省としては平成8年を ITS 元年とすべく関係省庁と連携して研究開発や実用化を積極的に推進してゆく考えであり、ITS の推進に向けた産学官の力の結集を心から願う次第である。

高齢化社会と公営住宅 —集い・ふれあい・千種台—

名古屋市建築局千種台ふれあいタウン推進室主査 各務芳巳

平成8年が明けた1月10日、事務所の電話は朝から鳴りっぱなしである。名古屋市で最初の「千種台シルバーハウジングプロジェクト」が名古屋の主要新聞の市民版トップを飾ったためだ。

「住宅の入居募集はいつ頃からですか?」「夫婦二人暮らしで昨年夫を亡くし、一人になってしまったが入居はできますか?」はたまた、最近の就職難、とりわけ女子学生のそれを反映してか、「現在福祉関係の学校に通っており、シルバーハウジングに併設される福祉施設(特別養護老人ホーム・デイサービスセンター)に勤めたいのですがどうしたらよいですか?」など、電話の向こうの表情はさまざまである。

(はじめに)

千種台は名古屋市の中心部より北東に約5.5km。千種区の東部、緑豊かな丘陵地に広がる住宅戸数2,400戸に及ぶ市内でも有数の規模を誇る市営住宅団地である。

戦後間もない昭和24年より住宅建設が始まり、30年代初期を中心に入居が進んだ。また、市住宅供給公社による分譲住宅が市営住宅を取り囲むように建設され、大規模団地でありながら街並みによくなじんだ「千種台団地」が完成された。

あれから40年、新しい土地、新しい住宅での生活に胸を膨らませた若き家族も、住宅と同じように年月を重ね、65歳以上の高齢者世帯となった。豊かに育った桜や樹がやけにたくましくそびえている。

ちなみに、千種台の市営住宅での65歳以上の単身または夫婦だけの世帯は、全世帯の35%を超えている。

(高齢者用住宅と情報システム)

シルバーハウジングプロジェクトは高齢化がますます進むなか、高齢者が地域社会の中で自立して安全で快適な生活を営むことができるよう、その在宅生活を住宅・福祉の密接な連携のもとにハード・ソフトの両面にわたり配慮された住宅を供給するものである。

名古屋市においては、65歳以上の単身世帯・夫婦のみの世帯は全国平均を上回る状況にあり、今後もその傾向が続くことが予想される。このため、増加するこのような世帯に対応した住環境づくりが緊急の課題となっている。

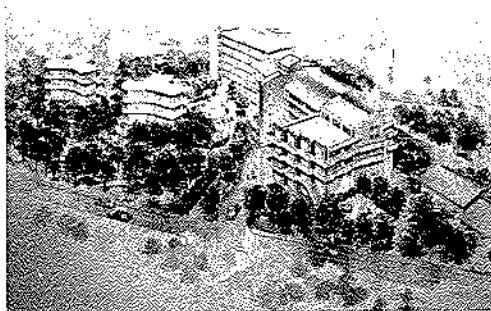
千種台のシルバーハウジング(高齢者専用住宅)は次のように一般の公営住宅と異なり、また考え方を一步進めている。

(1) 生活援助員(LSA=Life Support Adviser) の配置

入居者に対して「良き隣人」として日常の

各務芳巳(かがみ よしみ)

1958年 岐阜県生まれ
1979年 電電公社(現NTT)建築部入社
1981年 名古屋市役所入庁
計画局を経て1995年4月より現職



千種台シルバーハウジングプロジェクト完成予想図

生活を見守り、必要に応じて手助けをするLSAを配置する。

一般的に高齢化が進み、日常の家事などに不都合が生じた場合、地域のホームヘルパーがお世話することが基本であるが、ここでは生活の自立が前提となっている。

急病やけがなどで、一時的に自立生活が困難となつた場合には「良き隣人」として、買い物や調理から高い所の荷物の上げ下ろしに至るまで、生活全般にわたつて援助を行うものである。

ただ、LSAという呼び方はあまり適切ではなく、高齢者に対して「LSAがまいりました。」などとけっして言わないでほしい。

(2) 高齢者の生活特性に配慮した住宅設計

住宅の設計にあたつては、まず安全性へのいっそうの配慮である。室内外の段差解消、手摺りの設置はもちろんのこと、電気温水器による給湯や電磁調理器用の配線など熱源としてオール電化が可能となるようにしている。そして、「緊急時対応システム」の導入である。一般に高齢者は健康であつてもしばしば容態が急変することがある。本来なら家族や、普段から付き合いのある隣近所の人が、この事態を察知し駆けつけることが理想であるが、現在の都市の社会状況では非常に困難である。そういう状況での、人と人との関わりだけではカバーしきれない非常事態への対応を保障し、入居者の日常生活に精神的な安心感を

与えるものとして位置づけ、通信システムとして3つのシステムに分け緊急時対応システムの柱としている。

① 緊急通報システム

電話回線を利用してデイサービスセンターへ緊急通報するシステム。

これだけであると、どこが緊急通報システムかと思われるだろうが、電話機は緊急通報用(NTT-SL5号)を用い、第一通話先を併設されるデイサービスセンターとしている。デイサービスセンターの営業時間内は前述のLSA事務室へつながり、営業時間外はこれも併設される特別養護老人ホームに切り換えられる。LSAが「良き隣人」として入居者訪問中はデイサービスセンターの職員がこの通報を受けるので心配することはない。

さらに、住戸内の居室・台所・トイレ・玄関に設置されている押しボタン、そして入居者自身が見に付けることになるペンダント型発信機を通じても通報することができる。このほか、ガスセンサーにより自動的に異常を通報することも可能であり、さまざまな状況を想定し通報可能なシステムとなっている。

通報を受けた者は初期の状況確認のため、通報者の住宅へハンズフリーポックスを用いて連絡をとる。これは緊急通報用電話機に内蔵されているもので、通報者が受話器を取らなくても会話できるものである。最近は市販のコードレス電話機にも、同じ様な機能がついているものがある。

緊急通報用の電話機自体その歴史は比較的浅く、昭和51年に「シルバーホン・あんしん」という電話機名称でサービスが開始された。これは、あらかじめ定められた電話番号(身よりの方や知人など)に通報されるもので、現在のSL5号はこれを改良、発展させたものである。

② 安否確認システム

水道水の計量センサー、玄関ドアキー・センサー、住戸内のキーボックスによる生活リズムの異常を閲知するシステム。

玄関ドアの外からの施錠の有無、玄関にあるキーボックスの中のキーの有無を判断し、入居者の不在・在室を認識し、連続的に在室し且つ一定時間以上水道水を利用しなかった場合、生活リズムの異常と見なしてこれを外部に通報するシステムである。生活リズムオンシステムと呼んでいる。

③ 緊急サポートシステム

緊急通報があった時には LSA が必要な対応を行うことになるが、単に LSA だけが対応するのではなく、隣人がお互いに助け合えるようなシステムにしておくことはシルバーハウ징の性格上も必要なことである。緊急時に近隣のサポートを要請するシステム（近隣サポート）として 2 つのシステムを計画している。

ア. 緊急時に住戸内外にブザー等で知らせる通報システム

NTT の緊急通報用電話の作動時と、安否確認の生活リズムオンシステムが異変を感じたときは、住戸外へブザーと表示ランプで知らせる。

イ. 緊急時に隣人が住戸内に入れるシステム

緊急通報システムが作動した場合に、通報のあった住宅の電子錠が解錠され、そのうえで入居者及び LSA が共通に所持するキーにより解錠できるシステムとする。

このキーは住宅内の所定の位置に収納することを義務づけ、入居者相互扶助の精神シンボルとする。（各入居者はプライバシー保護のため電子錠だけで解錠できるシステムとはしていない。）まさにシルバーハウ징の「鍵」となるキーである。

（公営住宅の進歩と情報システム）

公営住宅制度は、終戦直後の戦災者、引揚者に対する住宅確保のために国の補助による通称「越冬住宅」が建設されたことに端を発する。昭和26年になり、住宅対策を応急措置ではなく、恒久性と計画性をもった制度として確立する必要があるとして、公営住宅法が制定され、公営住宅制度が発足し今日に至っている。

昭和30年代は大規模団地に象徴される「量の時代」、40年代は建築の工業化と新しいライフスタイルへの対応といった「量+質の時代」、そして50年代は完全に「量から質」への転換が進み、60年代以降は「多様化の時代」と言われている。

住宅そのものが大きく変わった。木造であった骨組みは鉄筋コンクリート造になり、不燃化による安全性が高まった。さらに、耐震設計はより高い信頼性をもたらした。水洗式トイレや換気設備、給湯器の設置など水と空気を快適にコントロールすることができるようになった。そして、高齢者の生活を見守り、異常があればこれを感知し情報として伝達する、言わば神経にあたるようなシステムまで身につけるまでになった。これは、公営住宅の50年の歴史の中でも画期的な出来事と言つて良いだろう。

昭和60年代、オフィスビルにおいてこういった建物内の神経化がインテリジェントビルと称して急速に進んだ。社員募集にインテリジェントビルの社屋を売り物にしていた時もあった。オフィスのインテリジェント化は機能的、効率的という面より情報化社会に向けた付加価値付ビルの一面が強い。付加価値はあってもそれが十分に利用され、機能されなければ意味のないことである。事実、いき過ぎたインテリジェント化が高い賃料となり、バブル期の終わりと同時にインテリジェントビルという言葉もあまり聞かなくなってしまったのは

このためだろう。

高齢者住宅のそれはどうであろう。確かに付加価値には違いないが、入居した高齢者は誰にも公平にシステムが働き、安心感という何物にも代え難い心のゆとりを提供することができる。そこがオフィスと大きく異なるところであると思う。ただ、この安心感の提供をサービスとは呼びたくない。緊急通報システムは、自らの異常をより早く、より確実に、適切な相手に伝えるシステムである。これはサービスと呼んでいいだろう。ところが、安否確認システムはこれを裏返せば「私は元気で生きています。」という情報を伝えるシステムであり、偏って考えると自らの存在を伝えるためのサービスを受けることになる。こんな社会が正常といえるだろうか。緊急時対応システムのうち、安否確認システムは高齢者専用住宅の基本性能と考えるほうが正しいと思う。

(ノーマライゼーションと情報システム)

私は山村で生まれ育った。それもかなり立派な山村である。戸数は少ないが、ほとんどの家が3世代から4世代の同居で、小さな子供から高齢者まで生活を共にし、さらにいくつかの家が集まって組をつくり、助け合いながら暮らしていた。

私も曾祖母の背中で育った。曾祖母は87歳で亡くなるまで曾孫の世話をし、合間に針仕事をしていた。私が小学生の時、80歳近くになり心配だから夜は一緒に寝てくれと親に頼まれ、母屋から少し離れた「隠居」で3、4年寝起きを共にしたことがある。山村での安否確認システムである。もっとも子供のことで、曾祖母より早く寝てしまい、遅く起きていた日が多かったので、安否確認システムとしてはあまり役にたたなかった。ただ、死んだように眠っている時は、急いで口元に手をかざしたりしたことあった。

千種台の住宅整備はノーマライゼーション(normalization=正常化：高齢者や障害者が地域社会の中で普通の生活ができるためのとりくみ)を大きなテーマとしている。正常化をテーマにしなければならない大都市の状況は異常なのだろう。



ノーマライゼーションと道路整備のイメージ

今求められているノーマライゼーションは、けっして私が育ったような山村のようにしていこうというものではない。高齢者の姿も、以前とはずいぶん違っている。長かった子育てや仕事を終え、老いたら子に従い、静かに余生を過ごすといったイメージはほとんどなくなっている。特に大都市においては、第3次産業への従事と女性の社会進出の割合がいっそう高くなり、その中でさまざまな階層や職業経験を持つ人たちが高齢者となることにより、旧来とは異なったイメージの高齢者像を念頭において、高齢化社会の計画フレームを考えていく必要性が生じている。NHKに「35歳」という番組があるが、35歳ですらそのイメージは大きく変わってきている。将来「70歳」という番組ができたとしたら、そのときの70歳はどんなイメージになっているだろうか。

高齢者専用住宅では、緊急時対応システムのうち緊急サポートシステムを、入居者個人のプライバシー保護のため、電子錠だけで一括解錠できるシステムとはしていない。それぞれが持つキーを使わなければ解錠できない

システムになっている。ここにも、隣人や同じ住宅に暮らす者はお互いに助け合わなければならぬが、個人の生活や精神はできうる限り尊重するといった現代のノーマライゼーションの一端が映し出されている。

(高齢者用住宅と地域社会)

「高齢者の中には、健康で自由な活動時間を持っている者が多いこと、地域奉仕活動、学習活動等の社会参加をしたいとする者が多いこと等の現状からみて、高齢者の生きがいを高め、健康の保持を図るために社会参加を促進することが必要とされている。」と、一般的には言われている。しかしながら、高齢者も個性化の時代である。高齢者というひとつの括りだけで考えることに問題はないのだろうか。自由な時間を地域への奉仕と交流に使いたい人もいれば、自分のために使いたい人もいる。ひとりひとりのライフスタイルに合ったかたちで、高齢者の社会参加の機会を具体的にどうやってつくりだしていくかは重要なテーマだと思う。

高齢者の持つ豊かな経験や能力を活かして、創造的・健康的な社会参加をつくり出していくために、ボランティア活動、文化活動、スポーツ活動、教育学習活動等の機会を考えられではいるが、これらは残念ながら役所主導の企画と、その情報提供によって支えられていることが否めない。しかしこれからの高齢者の中には、その社会参加についてあまり役所に関わってほしくないと思う人も多いのではないかだろうか。高齢者の自主性を尊重し、社会参加活動の企画・運営といった情報づくりや、情報提供の活動まで高齢者自らが進めたほうがうまくいくのかもしれない。

シルバーハウ징は地域社会の中に根を下ろし、高齢者の社会活動を積極的にリードしていくような志と気骨のある、精神的にも自立した高齢者にこそ入居していただきたい

と思う。

安心という殻に包み込まれたカプセル住宅であっては、けっしてならないと思う。



木立ちとともに年を重ねた住宅

(おわりに)

名古屋市では今後さらにシルバーハウジング（高齢者専用住宅）の建設を進めていく。現状では需要が供給に追いつかず、これから建設される市営住宅のすべてをシルバーハウジングとしても、入居希望者はそれを上回るだろう。

緊急時対応システムがシルバーハウジングの枠を超え、段差の解消や手摺りの設置と同じように、住宅の標準仕様になる日もそう遠くないのかもしれない。

しかし、私たちの目的はシルバーハウジングを多く供給することではなく、シルバーハウジングが必要となる社会の構築であることを忘れてはならない。

〈参考図書〉

公営住宅の建設（建設省住宅局住宅建設課監修）

高齢者対策の現状と課題（総務庁行政監察局編集）

名古屋市における駐車場案内システム整備

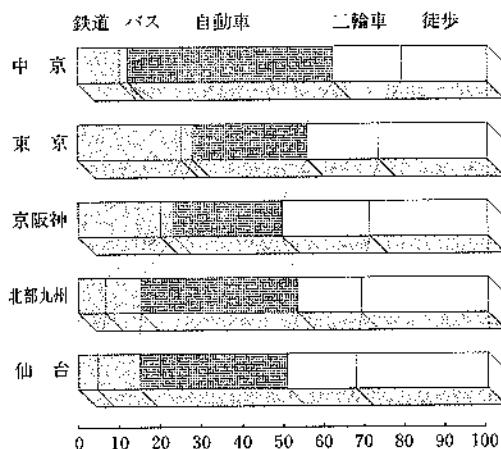
名古屋市計画局街路計画課街路調査係長 森 利夫

はじめに

名古屋市は、戦後行った大規模な復興土地区画整理事業や、その結果整備された2本の100m道路などを中心として現在の都心が形成されています。それらの先人の努力の結果、特に都心部の道路整備水準は高く、道路率は全市で約17%、都心部である中区では約33%という高い値となっております。

この充実した道路ストックを活かして、名古屋を中心とした中京圏では都市交通に占める自動車交通の役割が大変大きいことが特徴となっています。平成3年に行われた第3回中京都市圏パーソントリップ調査の結果を見ると、代表交通手段として自動車が使われる割合は中京都市圏では約50%と、他の都市圏と比べて大変高い値となっています。

【代表交通手段構成の都市圏比較】



※第3回中京都市圏パーソントリップ調査結果より

このように自動車が活発に利用されている名古屋市においては、昭和30年代以降、道路整備とあわせ駐車対策にも積極的に取り組んでまいりました。ここでは本市の駐車対策の流れについて若干触れるとともに、駐車問題という都市交通上の課題について、ドライバーへの情報提供によりその緩和を目指す駐車場案内システムについて、平成3年に供用を開始した栄地区の概要とその後の展開についてご紹介したいと思います。

名古屋市の駐車対策の流れ

本市の駐車対策の取り組みのきっかけとなったのは昭和32年に制定された駐車場法でした。本市でもこれに対応して昭和34年に栄地区に駐車場整備地区を定めるとともに、駐車場条例を施行して建築物への駐車場の附置義務を定め、駐車対策の第一歩を踏み出しました。また、100m道路の地下や公園の地下を活用して都市計画駐車場の整備にも務めました。これらの駐車場は現在でも駐車対策の要素として活躍しています。

その後も駐車対策全般にわたり様々な努力が続けられましたが、現在の駐車対策の流れ

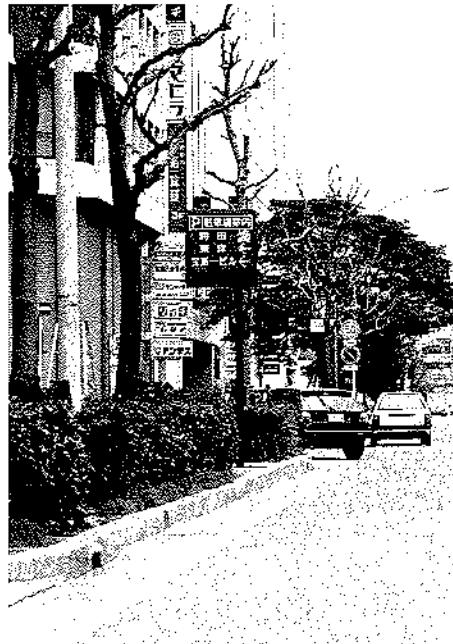
森 利夫 (もり としお)

1972年 名古屋大学大学院工学研究科土木工学専攻修了
1972年 名古屋市役所計画局
1994年 名古屋市計画局都市計画部施設設計課計画第一係長
現在 名古屋市計画局都市計画部街路計画課街路調査係長

を定めたのは平成3年に策定した「名古屋市における駐車施設整備に関する基本計画」でした。これは、市全域における駐車問題の現状認識と対応方針を定めたもので、「出発地から目的地に至る移動全体にわたって、安全性、利便性、快適性を確保できる信頼度と質の高い交通体系を備えた、市民にとって動きやすい都市を実現する」ことを目標としました。

その後平成4年に、駐車場整備地区を従来の412haから自動車の役割の変化に対応して1919haへと大幅に拡大するとともに、「基本計画」を受けて「駐車場整備計画」を策定しました。

ここでは、駐車場整備地区内における路外駐車場の整備目標量を、平成12年において18,600台と定めました。具体的な施策としては、駐車場の整備促進策として駐車場条例による附置義務の強化、都市計画駐車場の整備等を、また既存の路外駐車場の有効利用方策として、ドライバーに路外駐車場に関する情報を適切に提供することにより駐車需要の集中傾向を緩和する駐車場案内システムの整備等を位置づけました。



駐車場案内システムの必要性

本市の都心部は中部圏の中心都市としてデパート等の大型商業施設や業務施設が集中していることから、近年の自動車交通量の増大もあり交通混雑が慢性化しています。特に休日には大型商業施設の周辺を中心に、違法路上駐車や駐車場の待ち行列、空き駐車場を探しての徘徊車両により交通混雑に一層拍車がかかっている状況にあります。

このような中で、本市としては以下のようない観点から、都心部に駐車場案内システムを導入していく必要があると考えました。

- ①路上駐車が大量に生じる一方、時間貸駐車場には場所により駐車余力が残っている。
- ②駐車需要が一部の大規模駐車場に集中し、そこで多量の入庫待ち行列が生じて走行車線をふさいでいる。
- ③空き駐車場を探すうろつき交通が大量に生じている。この交通は、低速で不規則な動きをするので円滑な道路交通を阻害する。

栄地区駐車場案内システムの概要

名古屋市では、まず都心部のうち商業・業務の中心地である栄地区の約200ha区域で以下のような駐車場案内システムの整備を行いました。近年、全国で駐車場案内システムの整備が進められていますが、本市のシステムは参加駐車場数、案内板数で全国最大の規模となっております。

参加駐車場数、収容台数

| | | |
|-------|-------|----------|
| 79箇所 | 9400台 | (H7年末) |
| (68箇所 | 6800台 | H3当初供用時) |

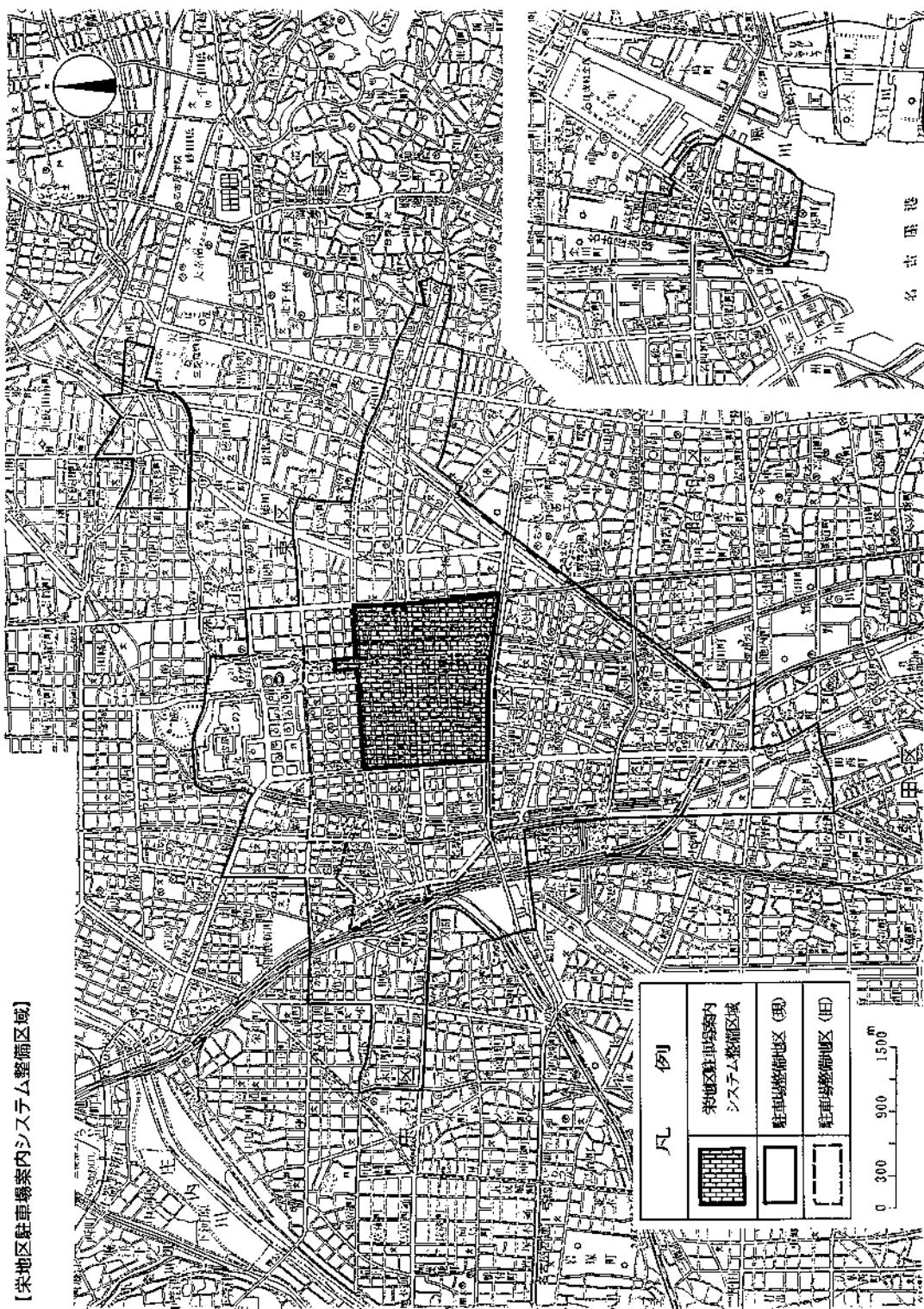
事業費

約13億円

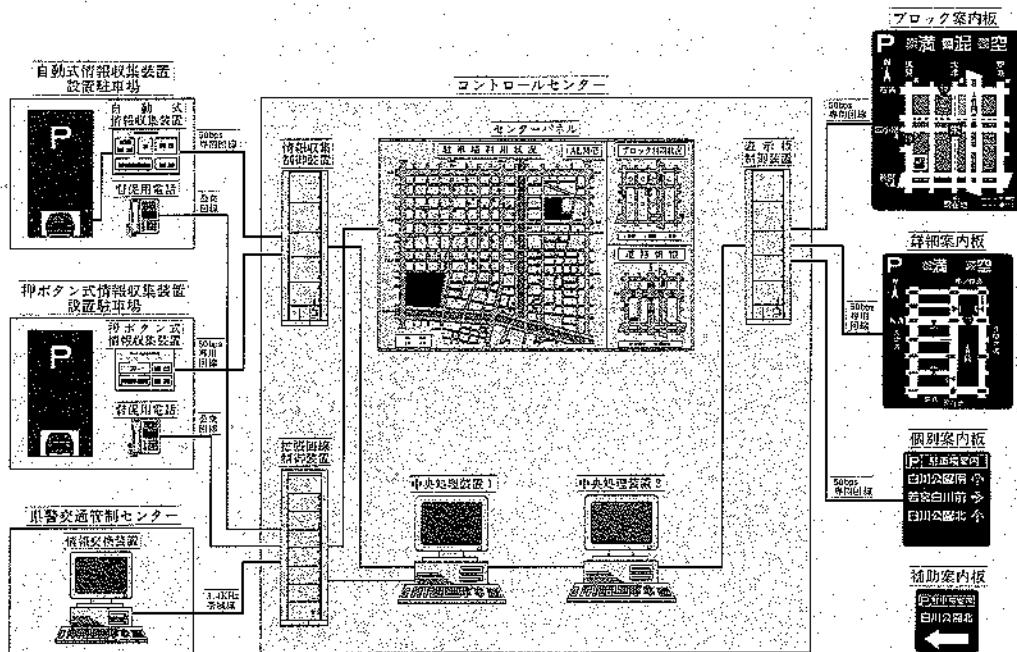
案内方式

ブロック、詳細、個別の3段階方式
(プラス補助案内板)

名古屋市における駐車場案内システム整備



[システム構成図]



供用時期

平成 3 年 5 月

(ブロック、個別案内板等)

平成 4 年 2 月

(詳細案内板)

| 案内板数 | (H 7年末) |
|---------|---------|
| ブロック案内板 | 20基 |
| 詳細案内板 | 26基 |
| 個別案内板 | 52基 |
| 補助案内板 | 65基 |

栄地区のシステムの特徴は、対象区域が広く駐車場数も多いことから、情報を一度に表示してもドライバーが瞬時に読み取ることが難しいので、案内をブロック、詳細、個別の3段階方式で行っているところにあります。具体的には、区域内を11のブロックに分割し、まずブロック案内板で各ブロック内の混雑状況を表示するとともに、さらに詳細・個別案内板で個別の駐車場の位置や混雑状況を表示して各駐車場への誘導を行うという方式とな

っています。

維持管理は、日常的管理業務については国道内を除き、本市の100%出捐団体である財團法人名古屋都市整備公社に委託を行っております。また、システムに関する各駐車場との連絡調整を行うため、全参加駐車場で構成する「駐車場案内システム協会」を設けて、円滑な管理運用に努めております。

栄地区における整備効果

本市では、栄地区の駐車場案内システムの整備効果を明らかにするために、整備前後で実態調査を行い、その結果を比較しました。概要は以下のとおりです。

①駐車場利用者の増加

駐車容量の増加と相まって、ピーク時の駐車台数が大きく増加しており、駐車場案内によって新たな駐車場にも利用が広がっていることが予想されます。

②駐車場利用の分散

大規模小売店等のある中心部とその周辺の駐車場の利用台数を比較すると、周辺部の利用台数の割合が増加しており、分散傾向が進んでいるといえます。

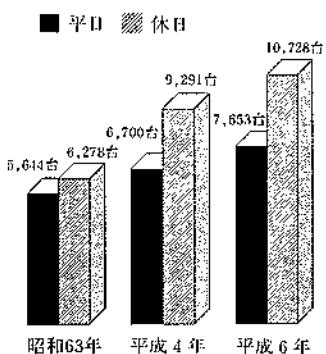
③道路交通の円滑化

休日の入庫待ち台数については、導入後には導入前の約半数に減少しています。また瞬間違法路上駐車台数調査によると、違法路上駐車は確実に減少しており、道路交通の円滑化にも効果があることが示されました。

④駐車場探しの利便性の向上

駐車場利用ドライバーへのアンケート調査結果から、案内システムは8割近くのドライバーに様々な局面で活用されていることがわかりました。またその中でも、約半数のドライバーが案内板を見て他の駐車場を探したことがあると答えており、駐車場探しの利便性が向上しているといえます。

【駐車場利用台数の推移】



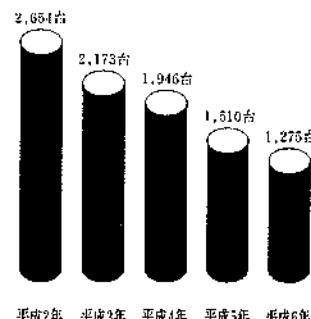
※案内システム対象区域200ha内における駐車台数

ドライバーが案内板を見て他の駐車場を探したことがあると答えており、駐車場探しの利便性が向上しているといえます。

【入庫待ち台数の推移】

| 年 | 平日 | | 休日 | | | |
|---|-------|------|------|-------|------|------|
| | 昭和63年 | 平成4年 | 平成6年 | 昭和63年 | 平成4年 | 平成6年 |
| | 25台 | 18台 | 13台 | 355台 | 171台 | 199台 |

【違法路上駐車台数の推移】



※案内システム対象区域200ha内における違法路上駐車台数
愛知県警察調べ(各年10月～11月の平日、日中)

【駐車場案内システムの活用】



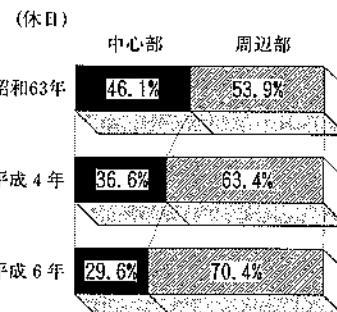
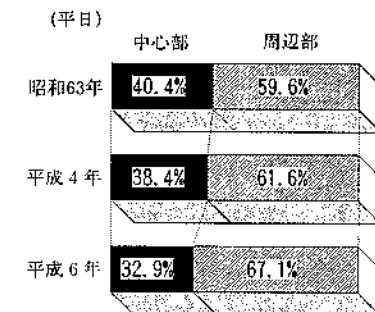
【活用している内容】

- 目的駐車場が満車表示の時に他の駐車場を探した
- 目的駐車場が空車表示であるのを見て安心した
- うろ覚えと駐車場を探さないで済んだ
- 以前より利用する駐車場が増えた
- 日並みないところにある空き駐車場を案内板によって知り利用した
- 案内板を見て初めての駐車場を利用した
- 入庫待ちの途中で案内板を見て駐車場を変更した

【目的駐車場が満車表示のとき】



【中心部・周辺部の駐車台数の割合の推移】



※中心部の駐車場：久屋大通(南行)、若宮大通、大津通、隣通りに跨られた区域内の駐車場
周辺部の駐車場：駐車場案内システム整備区域内で中心部以外にある駐車場

以上のように、栄地区駐車場案内システムは、その導入のねらいとされた駐車施設の有効活用、入庫待ち及び違法路上駐車の削減、駐車場探しの利便性の向上に効果があることが示され、都心部の駐車対策の一環として有効な方策であると考えられます。システムの整備や維持管理には多額の費用がかかっているわけですが、その見返りは十分あったと言えるでしょう。

今後の駐車場案内システムの展開

①今後の課題と対応

栄地区の駐車場案内システムの導入効果は様々な形で示されました、また一方では、以下のような課題が残されているといえます。

・特定駐車場への集中・入庫待ちの解消

大規模小売店の直近の駐車場へ需要が集中し入庫待ちが発生するといった問題は、システムの導入により軽減されたものの依然残されており、こうした駐車場の入庫待ち車両に対しては、周辺の駐車場の満空状況を知らせる補助的な案内板を設置するなどして、他の駐車場の利用を促すような方策を検討する必要があると考えられます。

・システムの改善

現在のシステムは3段階方式により、各ブロック内に入ったドライバーに対してはそのブロック内の情報しか提供されない仕組みになっています。このため、満車になっているブロックまで来てしまったドライバーには、たとえ隣のブロックに空き駐車場があっても、その情報を伝えられないことになりますので、3段階の最終段階にあっても複数の情報によって行動を選択できる余地を与えることが望ましいと考えられます。

・通信系情報提供

現在の案内システムはドライバーの視覚を利用した案内板による案内方式ですが、現システムをより有効に機能させるために、聴覚

を利用したラジオによる情報提供、電話による音声案内を取り入れることが必要であると考えられます。

また、交通情報提供の分野では、カーナビゲーションを活用した情報提供方式の開発が進み、自動車電話や道路上に設置されたピーコンを経由して情報を取り入れ、車載装置のディスプレイに表示する ATIS、VICS といった交通情報提供サービスシステムが、ドライバーのニーズにあつたりアルタイムの情報提供を可能にするものとして期待されています。現システムと同じ視覚を利用した案内方式でも、こうしたシステムを活用して駐車場の満空情報を提供する方式も考えられ、その研究への取り組みが必要であると考えられます。

しかしながら、運転中はドライバーの目、手、足はフルに活動しており、ドライバーが認識できる情報量には限りがあります。リアルタイムの情報をよりわかりやすく、有効に伝えるためには、FAX やパソコン通信を利用して、自宅等で駐車場の混雑状況や位置等を把握できるようなサービスも必要であるといえるでしょう。

②名古屋駅地区へのシステムの導入

先に述べました「基本計画」及び「整備計画」の中で位置づけられた駐車場案内システムについては、栄地区での成果を踏まながら、都心部等の商業・業務地区で自動車交通が著しく輻輳する名古屋駅地区等においても導入を進めることとされています。これを受けて本市では、名古屋駅地区への駐車場案内システムの導入を図るため、平成 6 年度に学識経験者及び関係行政機関等からなる「名古屋駅地区駐車場案内システム整備調査委員会」を設置して、専門的な分野からの指導を受けながら調査を推進しました。本委員会では、名古屋駅周辺の駐車実態及び栄地区における駐車場案内システムの導入効果から、名古屋駅地区約180ha において駐車場案内シス

テムの導入が必要であるという判断が下され、整備計画が立案されました。

名古屋駅地区は栄地区に接していることから、栄地区の案内システムに慣れ親しんだドライバーを混乱させることのないよう、基本的には栄地区の案内方式を踏襲する必要があると考えられます。しかし、名古屋駅地区は街路・街区の形態が整形でないところが多いなど栄地区と異なる点があることや、栄地区のシステムに残された課題があることから、これらを踏まえて、以下の点に改善を加えることとしました。

・案内板の凡例表示

満車になっているブロックにまで来てしまったドライバーに対して、他のブロックの駐車場の利用を促すため、案内板上部の凡例部分をLED化し、満空の凡例のほか、隣接ブロックへの案内を文字表示するなど、様々な文字情報を提供します。

・詳細案内板の表示街区

栄地区の詳細案内板では1枚の詳細案内板で1ブロックすべての駐車場を案内することになっており、ブロック内のすべての道路が

1枚の詳細案内板に表示されますが、名古屋駅地区の場合、同方式を採用すると、街区数が多いために図柄が複雑になります。このため、名古屋駅地区の詳細案内板については状況に応じて1ブロックを1/2～1/4程度に分割して表示します。

・ブロック案内板、詳細案内板の図柄

道路名及び現在地を目立つようにする、地域の目印となるようなランドマークを表示するなど、より見やすくわかりやすい図柄となるように配慮します。

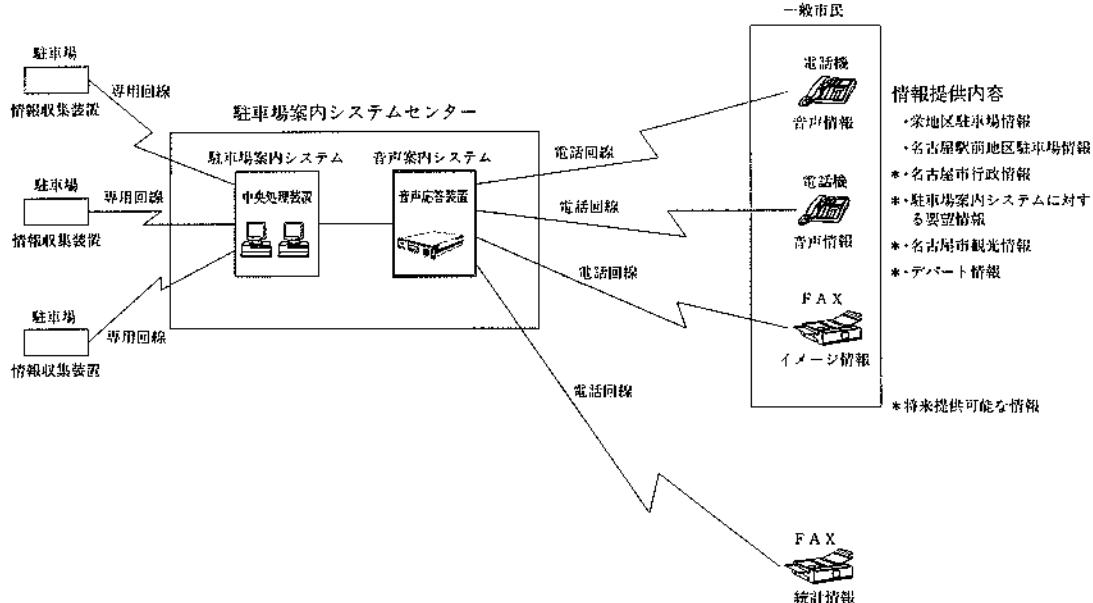
・個別案内板の駐車場名の表示

駐車場名を内照式とし、夜間における視認性を高めます。

・音声による駐車場案内

案内板による案内を補完するものとして、利用者が最寄りの電話機やFAXにより駐車場案内システムセンターへ問い合わせた際に駐車場の満空状況、駐車場の位置（地図情報）、駐車場の営業時間及び利用料金等（文字情報）を自動的に応答する音声案内システムを付加します。

【駐車場案内システム構成図】



名古屋駅地区に駐車場案内システムが整備されれば、都心部の対象区域は約380haとなり、連続した地区の駐車場案内システムとしては、全国にも例を見ない大規模なものとなります。名古屋駅地区における駐車場案内システムが、栄地区のシステムと一体となって、都心部の駐車対策に効果を発揮することが期待されます。

おわりに

駐車場案内システムが駐車対策の一環として効果があることは実態調査からも示されました。まだ街には違法路上駐車が見られ、特定の駐車場への入庫待ちも解消されていないというのが現状です。

違法路上駐車ドライバーに路上に車を停めている理由を尋ねると、近くの駐車場が満車だからとか、駐車料金を払いたくないからといった答えが返ってきます。また入庫待ちについては、目的地に近い駐車場や百貨店の特約サービスがある駐車場に停めることを事前に決めていることが、その大きな理由であると考えられます。都心部まで車で来たら、駐車に伴う社会的負担を利用者が負う、多少遠くても空いている駐車場を利用するといった意識をドライバーひとりひとりが持つてほしいものです。

ドライバーの意識が変わらない限り、駐車対策にはこれといった特効薬は見つからないのが現状ですが、本市としましては、ドライバーのモラルの向上を図るために違法駐車防止条例に基づく啓発活動を推進するとともに、どこの駐車場に停めても同等の駐車サービスが受けられる共通券システムの整備を検討するなど、今後とも駐車問題の解消に向けて種々の施策を展開していきたいと考えております。

電話からマルチメディアへ

日本電信電話株式会社東海法人営業本部 下條 豊

1. はじめに

電話がグラハム・ベルによって1876年に発明されて以来、一世紀以上が経過したが、その間先進国を中心にはほぼ全ての人に電話が普及した。我が国でも、戦後50年の間に急速に普及し、現在では約6千万加入という大きなネットワークに成長している。この膨大な電話網は音声帯域によるアナログ網が主体であるが、最近になってさまざまなネットワークが登場している。例えば、携帯電話・ポケットベル等の移動体通信網、通信速度64キロビット／秒によるディジタル通信網、人工衛星による衛星通信、さらにはコンピュータ相互を結んだインターネットなど、従来の電話網の上に新しいネットワークが形成されつつある。

また、意思伝達のための表現方法も、パソコンの進展と相まって音声のみならず、文字・図形・静止画・動画など複数の情報メディアを一般の人までが扱うマルチメディア時代へと入りつつある。

このような流れの中で、次の21世紀においては、通信基盤としては光ファイバーによる高速広帯域ディジタル通信網が主流となり、その上に進化したコンピュータを活用して、企業活動だけでなく、生活・文化あらゆる面において、マルチメディア情報をやりとりする時代が到来するものと考えられる。

ここでは、一世紀をかけて築かれてきた電話の歩み、そして現在進行中のマルチメディアに向けての状況について簡単にご紹介する

こととしたい。

2. 100年前の電話事情

わが国最初の電話交換業務は、106年前の1890年（明治23年）に東京・横浜で開始され、その3年後には、大阪・神戸でもサービスが始まった。

丁度100年前の1896年（明治29年）当時の状況をみると、帝国議会において本格的な電話拡張計画が承認され、地方の中心地（名古屋・京都・福岡・長崎等）に電話交換局を開設することが決定されている。その前年には、民営による電話拡張建議案まで議会に提出されており、電話整備に対する要求が強かったことが伺える。

この計画に基づいて、名古屋で電話交換業務が開始されたのは、2年後の1898年（明治31年）10月11日の事であった。その年1月10日の加入申込み日には前日から希望者が殺到し、憲兵、警察まで出動したと記されている。

当時の電話料金は、米一升、11~12銭の時代に、加入料10円、使用料年額54円（東京では加入料15円、使用料66円）と大変高価なもの

下條 豊（しもじょう ゆたか）



1946年 名古屋市生まれ
1970年 名古屋工業大学電気工業科卒業
同年 日本電信電話公社 入社
(現職) NTT東海法人営業本部
地域開発部門長
中部新国際空港、都市開発、地域情報化などの地域プロジェクトを担当

のであったが、それでも根強い需要があった。ちなみに名古屋では、約200の加入者で電話交換業務がスタートしているが、開設当時の電話帳によると、愛知県(2番)、名古屋市(260番)、名古屋商業会議所(240番)、名古屋電燈(211番)、滝定(145番)などと記されている。

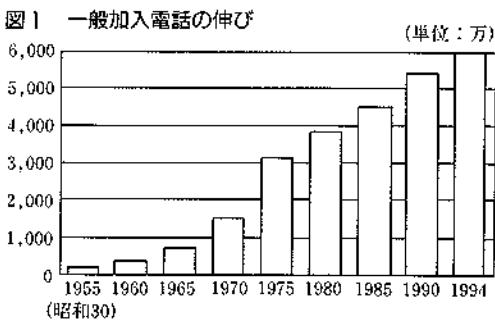
また、当時の加入者の地域分布を見ると、主として旧陸上交通要路(熱田~大須~お城)、旧海上交通要路(堀川周辺)、旧城下町そして広井町(名古屋駅)から栄町の新開道路(広小路通り)に集中しており、電話が当時から、都市の発展に密接なつながりを持っていたことが伺える。

余談になるが、その後1902年(明治35年)には、名古屋で初めての公衆電話が、栄・笹島に設置され、その翌年には交換局の近くに常滑焼の陶管を利用した地下ケーブルが既に布設されている。

その後、電話は序々に増加し、1939年(昭和14年)には、加入者が全国で100万を突破している。しかしながら現在、公衆電話が約80万台ということを考えると、普及はまだまだであり、一般の人々への本格的な普及は戦後になってからになる。

3. 全国総合開発計画と電話事情

戦後、しばらくして1952年(昭和27年)には、日本電信電話公社が発足し本格的な電話普及時代が始まった。その後の電話加入者の伸びを図1に示す。昭和47~48年頃のピーク時には年間300万加入以上の電話を開通させており、現在では約6千万加入、2人に1人の割合で電話が設置されている状況となっている。



私が入社したのは1970年(昭和45年)であったが、最初の勤務地横浜では、洋光台団地等の造成が真っ盛りであり、また電話の取り付け工事に行くと、1年以上待っていたと大変歓迎された記憶が残っている。

参考までに、戦後策定された全国総合開発計画(以下、全総と略記する。)とその時代における電話事情について表1にまとめてみた。

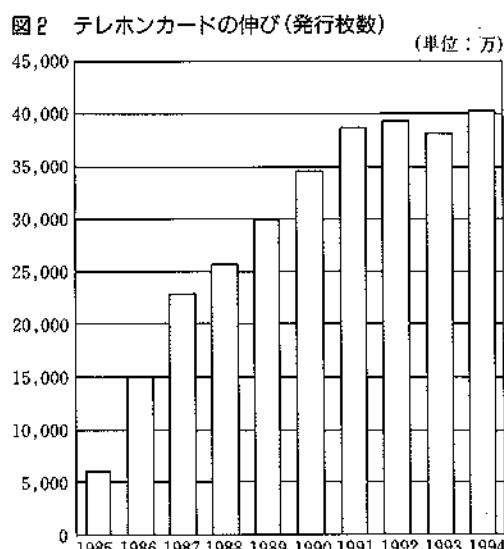
表1 全国総合開発計画と電話事情

| 全 総 (S 37閣議決定) | 新 全 総 (S 44閣議決定) | 三 全 総 (S 52閣議決定) | 四 全 総 (S 62閣議決定) |
|---|--|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・太平洋ベルト地帯構想 ・苫小牧開発等 ・所得倍増計画 | <ul style="list-style-type: none"> ・新幹線、高速道路等のネットワーク整備 ・成田空港、筑波学園都市等 | <ul style="list-style-type: none"> ・高度成長から安定成長へ ・定住構想(Uターン、Jターン) ・本四連絡橋、関西新空港等 | <ul style="list-style-type: none"> ・多極分散型国土の形成 ・東京一極集中の是正 ・交流ネットワーク構想 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・電話機端多い | <ul style="list-style-type: none"> ・大量開通 ・電話の自即化 ・データ通信開始 | <ul style="list-style-type: none"> ・INS構想 ・CATV実験 ・通信衛星(さくら2号)打ち上げ ・日本縦貫光伝送路完成 ・通信の自由化 | <ul style="list-style-type: none"> ・情報通信の民活推進 ・国の地域情報化構想の展開 ・ISDNの全国展開 ・ニューメディアの登場 |

全総の頃は、電話需要に整備が追いつかない時代、そして次の新全総では、とにかく大量に電話を開通した時代ということになる。その結果、最終的には1978年（昭和53年）に、申し込めばすぐにつく電話の達成、それに合わせて全国の電話自動化100%が完了している。このように大量の電話を開通させた時代であったが、その頃開始された新サービスをご紹介すると、1957年（昭和32年）には早くも近鉄特急に列車公衆電話が設置されている。また1965年（昭和40年）には東海道新幹線での列車公衆電話及びみどりの窓口（座席予約サービス）が開始されている。

1968年（昭和43年）には、ポケットベルサービスが始まり、その翌年にはプッシュホン、さらにその翌年（昭和45年）にはキャチホンというように、現在も使われているサービスが当時既に開始されている。なお、プッシュホンの全国第1号は名古屋御園座に設置された。

三全総の頃になると、カード式公衆電話機が1982年（昭和57年）に初登場し、クレジットカード・キャッシュカード等と共に、カード時代の幕開けを担っていくことになる。なお、テレホンカードは現在、年間およそ4億枚が発行されている。（図2）



最近注目されているCATVについても当時実験が開始されており、また1984年（昭和59年）には武蔵野三鷹でINSモデルシステム実験がスタートしている。そして1985年（昭和60年）には、旭川～鹿児島間3400kmの日本縦貫光ファイバー伝送路の完成、そして世界的な流れの中で通信の自由化（昭和60年4月1日日本電信電話株式会社発足）が行われ、現在に至っている。

次の四全総の時代は、通信自由化の背景の下でビデオテックス（キャプテン）・文字放送・CATV・ハイビジョン等のニューメディアが登場している。また1988年（昭和63年）には、デジタルによる公衆網サービス（従来のメタリックケーブルを用いた64キロビット／秒サービス）が開始された。さらにテレトピア構想、ニューメディア・コミュニティ構想、インテリジェント・シティ構想など、国による情報化施策の展開が行われるなど言わばポスト電話時代のさまざまな試みが開始された時代と言えよう。

4. マルチメディア時代へ

通信が自由化された10年前に、ニューメディアブームが起こり、また2年前には「アメリカの情報スーパー・ハイウェイ」、「将来の大きなマルチメディア市場」、「CATVの規制緩和」などが連日マスコミに登場し、マルチメディア元年と言われた。そのブームも一段落し、最近は阪神大震災でも注目を集めたように、携帯電話とインターネットの普及が目立つ状況になっている。また、昨年のWindows95フィーバーに見られるように、パソコンの普及も著しいものがある。

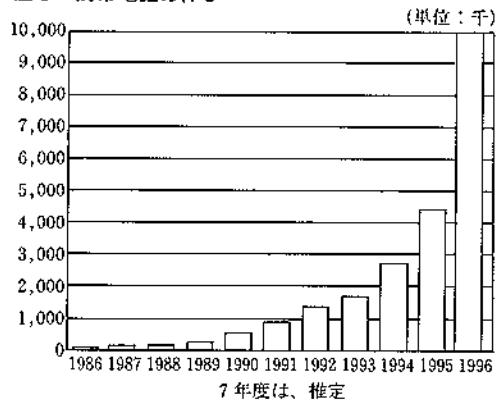
そこで、現在普及が著しい携帯電話とインターネット及び21世紀に向けて進められているマルチメディア利用実験について、その状況を次にご紹介する。

(1) 携帯電話（移動体通信）の普及

最近、街角やオフィスで携帯電話を利用している人を多く見かけるようになってきた。また、PHS（パーソナル・ハンディホン・システム）という新しい移動体サービスも開始されている。街には、さまざまなアンテナが増え、地下街などでも利用可能となり、まさに「いつでも、どこでも、誰とでも」という時代に入りつつある。

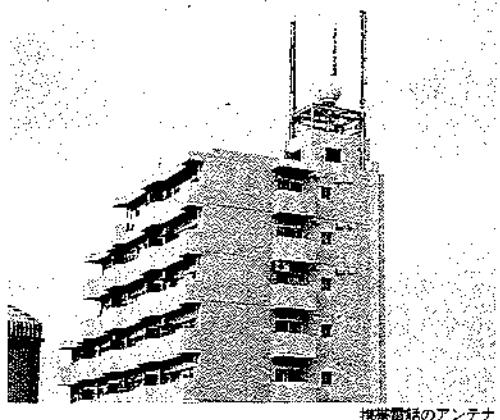
携帯電話の歴史は古く、1979年（昭和54年）に800MHz帯無線による自動車電話としてサービスが開始され、1987年（昭和62年）には携帯電話が登場した。当初は、ショルダーホンと呼ばれ、肩にかける程の大きさであったが、現在はポケットに入る程度に小型・軽量化されている。特に昨年はその普及が著しく、全国で1千万台を越える状況になっている。（図3）

図3 携帯電話の伸び

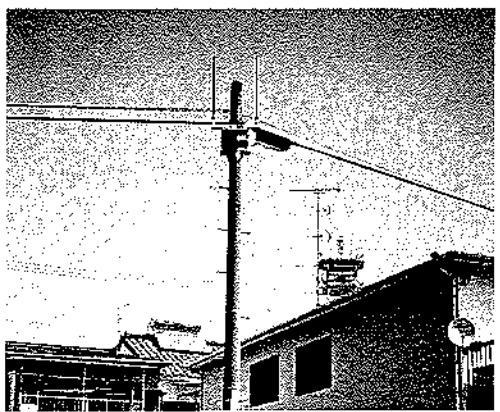


利用者の増加に対応し、電波を有効に使うために、現在は半径数キロメートルをカバーする小ゾーン（セル）方式に移行しており、そのため、街でアンテナを多く見かけるようになっている。

また、昨年からは新たにPHSサービスが開始された。このサービスは、家庭のコードレス電話を外に持ち出せるようにしたというイメージであり、料金も携帯電話に比べ安くなっている。



携帯電話のアンテナ



PHSのアンテナ

PHSの場合は、1.9GHz帯の電波を用い、半径数百メートルをカバーする範囲にアンテナを設置している。従って街には膨大な数のアンテナが必要となってくる。今後アンテナの設置が増え、サービス提供地域が拡大するに伴い、PHSサービスは広く普及するものと考えられる。

また、このPHSは当初から32キロビット／秒のデジタル通信方式を採用している。

（携帯電話もデジタル方式へ移行する方向である。）このことにより、今後は電話だけでなく、さまざまな携帯端末（ノートパソコンやマジックリンク等の次世代情報端末）を用いた利用が進展するものと考えられる。

将来は、オフィスや家庭そして街角で、電話のほかにメールのやりとり、データベースの検索、資料の作成などを行っている風景を

多く見かけることになろう。その時代においては利用のマナーがより大切になるであろうし、街角には、通信コーナーが設けられるようになるかもしれない。

(2) インターネットの普及

インターネットは、もともと米国防総省による異機種コンピュータ接続のためのALPA-NETの開発から始まった。その後、全米科学財団 NSF-NETが運営の中心となり、研究者を中心としたネットワークから1989年には、研究以外の利用が認められ、以降急速に普及した。最近、我が国でも急速に普及し始め、地方自治体や企業によるホームページの開設、また名刺にメール番号を記入する人が増えるなど、電子メールの利用が多くなっている。

インターネットは、ネットワークのネットワークと呼ばれるが、その概念は図4のとおりである。インターネットは一般のパソコン通信と異なり、ホストコンピュータがなく、大ざっぱに言えば、ネットワーク相互の接続保証と、通信の宛先となるIPアドレスの割当調整機関があるだけの殆んど規制のないオープンなネットワークである。

なお、インターネットに加入するためには一般的にパソコン、通信回線、モザイクのようなマルチメディア対応のアプリケーションソフト、そして接続サービスを提供するプロ

バイダーとの契約が必要となる。

このようにインターネットは異機種コンピュータを接続することができ、また国際的な拡張性を持つことから、接続コンピュータも増加し、さまざまに利用が拡大している。

代表的な利用例を次に示すと、

① 電子メール

従来のパソコン通信等に比べ、インターネットに接続されているコンピュータを利用している相手と世界中どこにでもメッセージのやりとりや電子会議ができ、メールの範囲が大きく拡がる。

② ネットニュース（電子ニュース）

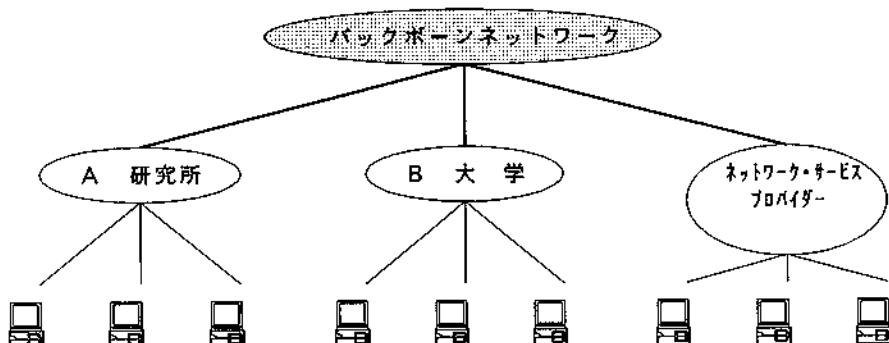
パソコン通信の電子掲示板にあたり、相手を特定しないで、世界中にメッセージを送ることができる。

③ ファイルの転送やデータ交換、また遠隔地のコンピュータのリモート操作等を行うことができる。

④ WWW（ワールド・ワイド・ウェブ）サーバへの情報検索

WWWサーバは、団体・企業・個人が開設したデータベースであり、世界中のサーバに構築された情報検索が可能である。このサーバは音声・文字・画像等が扱えるマルチメディア対応となっている。このサーバにアクセスするための代表的なソフトがモザイクであり、マウスクリックにより、情報検索が容易にできる。現

図4 インターネットの概念



在このサーバの開設、そしてデータベースの表紙にあたる「ホームページ」が急速に増加している。

これらを利用して、企業内情報通信網やグローバルネットワークの構築、またWWWサーバによる広報活動やユーザへの情報提供などの試みが始まっている。インターネットは、コンピュータ機能の向上、ソフトウェアの拡充等によってさらに成長していく可能性があり、今後在宅勤務や教育への活用、また電子新聞・オンラインショッピング・電子決済など、さまざまな利用展開が図られていくものと考えられる。

(3) マルチメディア通信の利用実験

現在、N-ISDN（狭帯域ディジタル通信網）、アナログ電話網、専用線等を用いて、マルチメディア時代（ポスト電話）に向けたさまざまな利用が拡がっている。

21世紀には、通信基盤として光ファイバーケーブルによるさらに高速のアクセス回線B-ISDN（広帯域ディジタル通信網）が不可欠になるものと考えられる。本格的なマルチメディア時代に備え、NTTでは、全国でマルチメディア通信の共同利用実験を行っている。

その実験内容は、次のとおりである。

① 高速コンピュータ通信利用実験

公共及び企業の研究機関を結び、156メガビット／秒の通信回線を利用して、学術研究情報網実験、バーチャルラボ（仮想研究室）等の実験が行われている。

② 一般利用向けマルチメディアネットワーク利用実験

最大、156メガビット／秒までの速度の通信回線を利用して、遠隔教育・ニュースオンデマンド・遠隔医療・オンラインショッピング・映像制作・製品開発共同作業等の実験が行われ、新しいマルチメディア対応アプリケーションの創造を目指している。

③ CATV 映像伝送等利用実験

光ファイバーケーブルによる加入者方式により、VOD（ビデオオンデマンド）や映像伝送実験がCATV事業者と共同で行われている。

なお、実験のための全国基幹ネットワークは、2.4ギガ、10ギガビット／秒クラスの超高速伝送路が用いられている。

その他、関西文化学術研究都市では、BBCC（新世代通信網実験協議会）と、PNES（新世代通信網利用高度化協会）がそれぞれ電子図書館・マルチメディア通信販売・対話型3次元CGによる住宅設計等の実験及び通信と放送の統合を指向したサービス実験を行っている。

また、病院、学校、市役所等を結んで公共分野のアプリケーション開発・提供を図る自治体ネットワーク施設整備事業も各地で進められており、さまざまな分野でマルチメディア時代に向けての取り組みが始まっている。小中学校におけるパソコン教育の普及そしてパソコンの操作性向上・ソフトの充実・価格の低下など、マルチメディア時代を支える環境は整いつつあることから、今後急速に利用促進が図られていくものと考えられる。

5. おわりに

この一世紀の電話の歴史、そしてマルチメディア時代に向けた最近の状況を通信の側面からざっと駆け足でまとめてみた。一世紀前にはまだ名古屋に存在しなかった電話が、現在ではほぼすべての人に普及し、さらにファクスやコンピュータ通信またポケットベルや携帯電話などさまざまな通信手段を持つに至っている。

また、情報化の側面からみるとこの何年かの間に、ワープロの普及により活字文化が大衆のものとなり、また最近はパソコンの普及、ソフトの充実により絵文化等も急速に大衆の

ものになりつつある。コミュニケーション手段も手紙から電話へそしてコンピュータを活用した新しいコミュニケーション文化（表現の多様化文化）へと入りつつある。

コンピュータは、ソフトがなければただの箱と言われるようにこれからのマルチメディア時代は、ハードを整備すれば成功するものではなく、受け入れられるサービスをいかに提供していくかがカギを握っている。これからの街づくりもこれに似ているような気がしている。幸い当地域では中部新国際空港（国際ハブ空港）や高速道路等の交流基盤の一層の整備が計画・推進されている。これらの基盤を活用するアプリケーション・サービスをハード・ソフトの車の両輪として、今のうちから推進していくことが重要と考えられる。是非、街づくりにあたって今まで築いてきた基盤、そしてこれから築こうとする基盤を充分に活用する「街づくりアプリケーション」の創出を期待している。

〈参考文献〉

『名古屋の電話』

日本電信電話公社名古屋都市管理部編

ケーブルテレビと地域生活

名古屋ケーブルネットワーク株常務取締役 奥村見治

「ニューメディア」という言葉が巷にあふれ、パソコンスクールやインターネットカフェが若い人たちを中心に注目を集めています。「ケーブルテレビ」もその中の一つで、よく新時代のメディアの一つと呼ばれます。その実態をご存じの方はごく少数ではないでしょうか。

1. CATV事業の推移

(1) 始まり

今、CATV局の開局が猛烈な勢いで全国に広がっています。

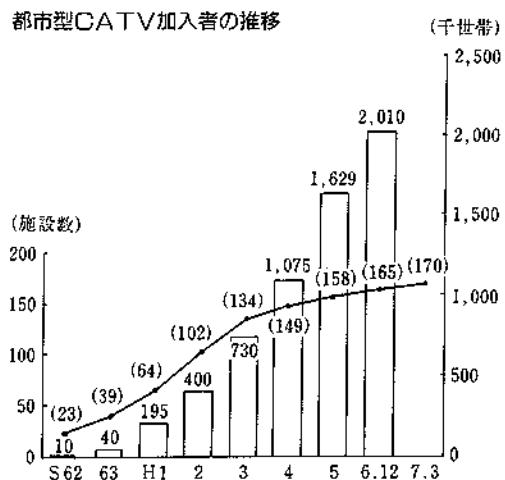
本来のCATV局は山間の電波が届かない地域に届ける為に、山頂に大きなアンテナを設置し、そこからケーブルで山間の住宅地域まで引っ張ってくるところから始まったもので、昭和30年代にNHKを中心に群馬県伊香保温泉から始まりました。

電波障害対策設備として対応して来たCATV局は、はじめ共同組合、共聴組合とかの形で運営されてきました。この時期に長野県・静岡県・山梨県など山の多い地域で多く整備されました。

(2) 第1期ブーム

昭和40年代後半にはその共聴組合などの中で有力な団体がネットワークされだし株式会社と改組され、営利目的を含めたCATV局が誕生しました。例えば、

◆TCN沼津（テレビ共聴開発株）（沼津市・昭和41年設立）



◆日本ネットワークサービス株（甲府市・昭和48年設立）

◆エルシープライ株（諏訪市・昭和48年設立）
これらはすべて共聴組合などから発展したものです。

(3) 第2期ブーム

その後、本格的な営利目的型CATV局の設立が、約10年待った昭和60年代に大都市及びその周辺で相次ぎました。例えば、



奥村見治（おくむら けんじ）

1946年 江南市生まれ
1970年 早稲田大学政治経済学部卒業
現在 ・株式会社ラボラトリー取締役
メディア事業推進室室長
・名古屋ケーブルネットワーク株
常務取締役兼生活本部長
・株式会社ジパングアンドスカイコミュニケーションズ常務取締役
・株式会社ハイビジョンワールド取締役
・株式会社ラジオ取締役

◆東急ケーブルテレビジョン(株) (横浜市緑区・昭和59年設立)

◆名古屋ケーブルネットワーク(株) (名古屋市中区など・昭和60年設立)

◆近鉄ケーブルネットワーク(株) (奈良県生駒市・昭和61年設立)

これらがこの時期に整備された局で、大都市を中心に電鉄系などがその公益事業性から進出し一気に全国に広がり出しました。これがいわゆる都市型CATVです。ただこのころ、CATV事業そのものが事業として確実視されていた訳ではなく、将来の利権事業の1つとして投資対象になっていたこともまた事実です。

(4) 第3期ブーム

時代は「平成」にかわり、CATV事業にも一層熱を帯び始めました。

これは「通信がCATV事業の大きな柱になりそうだ」との情報が世間に流布されたため

で、PHSが21世紀の最大有望事業の1つとして検討され出したころと時期が一致しています。

そして「通信」と「放送」の融合が既定の路線になり出したころともリンクしています。そのころからアメリカ・ヨーロッパでの電話会社とCATV会社の合併話が全世界を飛び回り、日本の情報産業に従事している企業や進出したい企業が列をつくって地域のCATV会社への経営参加・資本出資などにはしりはじめました。

(5) そして今

その先頭を行くのが、巨大資本である総合商社であり、通信事業会社でした。

時を同じくして、行政は「規制緩和」の動きとなり、「1地域1社」、「地域本社」などの撤廃が出され、地域地域の企業の吸収合併・系列化が急速に進み始めます。

そして今、CATV局は地域文化の助成・育

諸外国におけるCATV普及現状

| | アメリカ合衆国 | イギリス | フランス | ドイツ | 日本 |
|--------|----------------------------------|----------------------------------|-------------------------|----------------------------------|---|
| 施設数 | 11,620 (1994年9月) | 75 (1994年10月) | 201 (1994年1月) | 施設の建設・運用 は国営 | 158:都市型CATV 56,437:全体、含 難視聴施設 (1993年3月末) |
| 整備状況 | | | | | |
| ・ホームバス | 9,125万 (1994年7月) | 371万 (1994年10月) | 528万 (1994年1月) | 2,239万 (1994年10月) | 760万:都市型CATV |
| ・カバー率 | 97%:対テレビ視聴世帯比 (1994年7月) | 21.0%:対テレビ保有世帯比 (1994年10月) | 27%:対全世帯比 (1994年1月) | 61.6%:対テレビ保有世帯比 (1994年10月) | 21.9%:NHK受信世帯比 (1994年3月末) |
| 普及状況 | | | | | |
| ・加入者数 | 5,969万 (1994年7月) | 78万 (1994年10月) | 128万 (1994年7月) | 1,447万 (1994年9月) | 163万 4.7% [都市型CATV] 824万 24.3% [全体、含難視聴施設] いずれもNHK受信世帯比 (1993年3月末) |
| ・普及率 | 63.4%:対テレビ 視聴世帯比 (1994年7月) | 3.5%:対テレビ 保有世帯比 (1994年10月) | 6.4%:対全世帯比 (1994年7月) | 43.4%:対テレビ 保有世帯比 (1994年9月) | |

(出典) 米国:NCTA "Cable Television developments"、英国・仏国・独国:"New Media Markets"誌、日本:郵政省資料

成から離れだし、第3の巨大通信ネットワーク事業として系列化され、大資本の力で再編成され始めているのです。

3. 多様な企業の参入

(1) いま

いま CATV 局は戦国時代にあります。

各地の CATV 局はいずれかのグループにつかねばならないような状況にあります。今まで CATV 局は各地に群雄割拠し、その地域を独占して整備してくれればよかったのですが、時代は大きくかわり個々の地域より大都市を核とした広域化展開へと動き出しているようです。

(2) 巨大 CATV 局

「地域の CATV 局」のエリアの中に、金も人材も技術も大量に携帯している「巨大 CATV 局」が外からその勢力を拡大しつつあります。

「巨大 CATV 局」がほしいのはその地域エリアにある「加入予定者」なのです。「地域の CATV 局」だけの力ではその「加入予定者」を掘り起こせないし、たとえ掘り起こせたとしても、巨大 CATV 局に比較してサービスと情報量に差があるため、ペイチャンネルを始めとする付加価値サービスの売上が十分期待できない状況にあります。いわば「山に埋まった宝」となっているのです。

「地域の CATV 局」はそのままじっとしているのか、そのグループに入って全体の規模を大きくし、そのなかで一部の利益を確保していくかです。

「巨大 CATV 局」は主に総合商社などが中心で推進しており、「地域の CATV 局」は既存の地域メディアが中心に推進してきました。

「巨大 CATV 局」は「将来通信に化ける CATV 電線」に一番注目しているのです。そこに大きくなればなるほどその効率がよくな

るという構造があります。

いま総合商社などは提携できる「地域の CATV 局」を探しています。人口10~20万人の規模の「地域の CATV 局」に巨大な資金・技術・人材を伴い、全国ネットワークシステムの提案をおこなっています。

「巨大 CATV 局」が本当にほしいのは「地域の CATV 局」ではなく、そのネットワークに直接つながるマーケットとしての「加入者」なのです。

(3) 勢力図

この天下分け目の合戦は、今、俄然熱を帯びて来ました。

資金と技術、そして機動力をもつた「巨大 CATV 局」が全国各地まで染み込んで来ています。この合戦後は系列化された「地域の CATV 局」の無人の放送局から深夜に契約者情報を自動的に本部まで送り出している21世紀の CATV 事業の姿が見えるようです。

(4) 有力 CATV 局の動き

都市生活と CATV のかかわりを考えたとき、このテーマ（系列化）はすべてに影響するものとなります。その「巨大 CATV 局」の考え方方がそのまま都市生活のなかの CATV 事業になってしまふからです。群雄割拠のいま「どこが系列化をするのか」が重要なポイントとなります。

現在、CATV 戦国時代はまだ決戦の優劣はつかず、いま幕が切って落とされたばかりです。有力な具体的 CATV 局をタイプ別に一部例示すると、

◆MSO系

- ・ シュピターテレコム（住友商事）
- ・ タイタス（伊藤忠商事）

◆電鉄系

- ・ 東急ケーブルテレビジョン（東急電鉄）
- ・ 牧城北ニューメディア
- （JR、日本テレコム（株））
- ※通信系

ケーブルテレビ普及状況

●ケーブルテレビ規模別施設数および事業者数の推移

| 区分 | H1 | H2 | H3 | H4 | H5 |
|--|--------|--------|--------|--------|--------|
| 許可事業者数 ：引込端子501以上 | — | — | — | — | 830 |
| 施設数 | 944 | 1,091 | 1,261 | 1,371 | 1,491 |
| 届出事業者数 ：引込端子51~500及び 引込端子50以下で自 主放送を行っている | — | — | — | — | 17,748 |
| 施設数 | 26,583 | 27,869 | 29,173 | 30,400 | 31,599 |
| 小規模事業者数 ：引込端子50以下 | — | — | — | — | 18,979 |
| 施設数 | 19,810 | 21,488 | 23,169 | 24,666 | 25,860 |
| 事業者総計(注) | — | — | — | — | 37,557 |
| 施設数総計 | 47,337 | 50,448 | 53,603 | 56,437 | 58,950 |

(注) 事業者総計は重複を含む

| 区分 | H1 | H2 | H3 | H4 | H5 |
|----------------|----|-----|-----|-----|-----|
| 都市型ケーブルテレビ事業者数 | — | — | — | 141 | 150 |
| 施設数 | 64 | 102 | 134 | 149 | 158 |

都市型ケーブルテレビ：引込端子数1万以上、自主放送5CH以上、中継増幅器が双方向対応

●ケーブルテレビ規模別受信契約者数の推移

(単位：万世帯)

| 区分 | H1 | H2 | H3 | H4 | H5 |
|--------------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 許可施設受信契約者数 | 193 | 232 | 275 | 344 | 413 |
| 届出施設受信契約者数 | 376 | 393 | 413 | 432 | 449 |
| 小規模施設受信契約者数 | 48 | 52 | 55 | 58 | 61 |
| 総計 | 617 | 677 | 743 | 834 | 923 |
| 対NHK受信契約数(%) | 18.6 | 20.2 | 21.9 | 24.3 | 26.6 |
| NHK受信契約数 | 3,319 | 3,354 | 3,394 | 3,434 | 3,470 |

| 区分 | H1 | H2 | H3 | H4 | H5 |
|----------------|----|-----|------|------|------|
| 都市型ケーブルテレビ契約者数 | 20 | 40 | 73 | 108 | 163 |
| 対NHK受信契約数(%) | — | 1.2 | 2.2 | 3.1 | 4.7 |
| 加入可能世帯 | — | 256 | 390 | 571 | 760 |
| 対NHK受信契約数(%) | — | 7.6 | 11.4 | 16.6 | 21.9 |

(出典：「有線テレビジョン放送の現況」資料より)

将来の市場規模

●加入世帯数の予測結果

(単位：万世帯)

| | 1993年 | 2000年 | 2010年 |
|-----------------|--------|-----------------------|-------------------------|
| 加入世帯数 (普及率%) | 187(4) | 1,084(23) ~949(21) | 3,020(60) ~2,058(41) |
| 全世帯 | 4,241 | 4,615 | 5,018 |

(注) 全世帯数については、厚生省人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計」(平成5年10月)による。

●ベーシックな放送サービスの試算結果

(単位：億円、1994年価格表示)

| | 1992年 | 2000年 | 2010年 |
|------------------|-------|-------------|--------------|
| ベーシックな放送 サービス | 997 | 5,528~4,761 | 13,919~9,261 |

(注) 1992年の市場は、郵政省資料より推計したもの

●新サービス3種類の試算結果

(単位：億円、1994年価格表示)

| | 2000年 | 2010年 |
|------------------------------------|-------------|--------------|
| 高度エンターテイメントサービス (高度化したゲーム、カラオケ) | 645~565 | 5,965~4,064 |
| ホームショッピング | 686~470 | 4,048~2,758 |
| ビデオ・オン・デマンド | 822~720 | 3,681~2,508 |
| 合計 | 2,153~1,755 | 13,694~9,330 |

(出典：「ケーブルテレビの将来ビジョンに関する調査研究会」資料より推計)

◆その他

- ・宮城ネットワーク(株)
 - (セコム) ※セキュリティ系
 - ・ひまわりケーブルテレビ(株)
 - (トヨタ自動車) ※自動車系
 - ・名古屋ケーブルネットワーク(株)
 - (ペラルド) ※映画系

それぞれの有力 CATV 局の考え方を整理すると、

- ①商社系…MSO (マルチシステムオペレータ：複数のケーブルテレビ・システムを所有・運営する企業) 指向としてアメリカ型 CATV 経営を目指す。海外企業と組んでの CATV 積極輸入取入型。
- ②電鉄系…従来、鉄道沿線の不動産開発・宅地分譲などの延長上に位置しており、都市生活利益付加型事業として考えている。サービスエリア重点型。
- ③セキュリティ系…都市生活利益付加型事業だが住宅開発におけるソフトウェア重視のサービス系端末における新規事業としてとらえる。
- ④自動車系…厳密には長距離通信事業を別途経営しているため、基本は通信事業参入指向の極めて強い企業体。従業員の福利面充実がスタートベース。
- ⑤映画系…本来のアメリカ型 CATV 事業の内、映画売上をベースに事業運営を検討。地域 MSO を目指す。(面としての機能重視型)
- ⑥有力地域型…大都市の CATV 局は今後付加価値が一層増して行くだろうと判断し、地方より拡大が容易でネットワーク化が進む。端末世帯数100万世帯以上対象の CATV 局がそれにあたる。
- ⑦メーカー系…本業の売上拡大のため、一種のデモスタイルの場合もある。富士通・日本電気系は将来の通信事業への足掛かり確保のため。

4. CATV 事業から見た都市生活と地方生活

(1) まず始めに

今まで名古屋市の中で CATV 事業を実際運営してきたところからみた私見を述べたいと思います。

まず CATV 事業に先立ち情報化が都市生活者と地方生活者にもたらす影響の違いを考えてみる必要があります。

その前に、情報化のシステムツールを以下のように整理します。

◆テレビ

- ・衛星放送テレビ (B S ・ C S : 日本全国を1波でカバー)
- ・ケーブルテレビ (CATV : 双方向可能)

◆パソコン

- ・パソコン通信ネット
- ・衛星利用によるパソコン放送

◆電話

- ・携帯電話・PHS
- ・ネットワーク

◆コンテンツ

- ・映像・音像ソフト
- ・デジタルデータベース

そして、これら情報化のシステムツールのうちハードシステムをどのように整備・構築しても次に挙げる2つが存在しないと無意味です。

◆コンテンツ(ソフト)

◆人材

そしてこの2つが都市にしか現在は存在しないのです。特に「人材」としては「アナログの職人」ではなく「デジタルの職人」が最優先に必要なのですが、最も不足しています。

(2) 情報化の中での「都市の有利性」と「地方の有利性」

①都市は「送り出し機能」の役割

都市ではその猥雑さが、あらゆる情報を無

造作に個々それぞれアウトプットしており、情報過多の状況にあります。しかし、情報化時代においては「情報の東京1極集中」が一層促進され、大都市といわれる「大阪」、「名古屋」でも情報発信能力が消え失せてしまうのも時間の問題のように考えられます。

情報を生み出すことができる機能、それは多数が対価を支払ってもほしいもの生み出すことができるかどうかにつきると思われます。

②地方は「受け皿機能」の役割

大都市に比べ、発信できる情報が極めて少なく、ほとんどは情報を受け取る側に向っています。よく「地方の地方足るべき財産を活用すべき」といわれていますが、少なくとも情報化の中ではあまり意味がないのではないかでしょうか。なぜなら地方の情報を、他の地方の都市なり住民がはたして対価を払ってまで必要もしくはほしいと考えるでしょうか。例外はあるとは思いますが個々独立した1：1の関係より、東京を中心とした1：Nの関係しかありえないのではないかでしょうか。

③事実の確認からの出発

東京と他の都市の関係を見極めた所から情報化というものをとらえた上で、いかに有利に地方の特性をだせるのかどうかが、これから的地方都市（名古屋もその中に入るようにも思う）の情報化対策の根幹と思われます。

④情報化の時代で地方の過疎化が止まり得る

上記①②③を十分に理解したところでこの情報化社会と地域生活を考えた時、地方都市の住民の方が圧倒的に享受体勢は有利です。なぜなら東京と比較して「受け皿」としてのハードのシステム構築が、かなりの利便性で、早く、効果的に進めることができるからです。地域生活者にとって、この情報化時代での地域生活は、まさに東京在住に匹敵する情報の利益をもたらしてくれるのです。

(3) 情報化社会での大都市の弱点

情報化社会の中で最も重要な基本ツールが

ケーブル（テレビ・電話・通信）です。そしてこのケーブルによって可能となる双方向性も非常に重要な情報化社会の機能です。

このケーブルに着目すると情報化社会における大都市の弱点の一つが見えてきます。大都市ではケーブル整備について次に例示するような不利な状況があります。

◆大都市ではケーブルの敷設が難しい。

東京などでは、電柱が少なくケーブルの地下埋設も既に各種の配線・配管が埋設されている為、新たなケーブル工事が難しい状況あります。

◆既存のビルでの配線が大変に面倒。

大都市は集合マンションが多く、テレビの受信はビル共聴となるが、既存ビルでは非常に面倒な工事になる上、いきおい新築物件が優先され、既存マンションなどは最後まで残される場合がある。

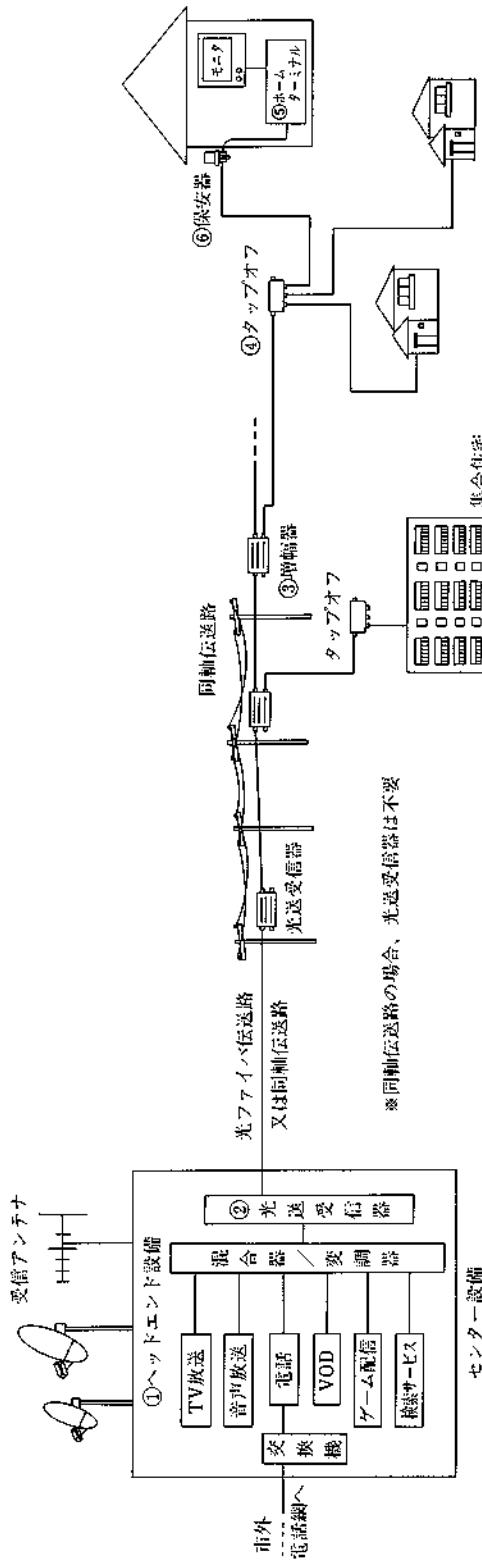
ケーブル以外でも大都市が有する弱点としては、例えばテレビの視聴に関してビルによる電波障害エリアが広がっておりテレビが見え難いとか、名古屋のテレビ塔周辺のように強電界が形成されているためアンテナでの視聴が難しいなど大都市特有の現象がみられます。

このように大都市での生活から派生していくさまざまな現象により、情報化への移行費用が地方生活者のそれよりも、割高な中で生活を強いられています。

(4) 情報化社会での地方都市生活対応

これまで地方での都市生活は大都市のそれに比べ様々な面で遅れをとっていました。例えば、ショッピングについてはデパート等の大規模商業施設の充実度において大都市とは差があり、医療、金融、行政などの機能についても大都市にはかなわない状況でした。特に、文化活動や公共交通機関・自動車による移動経費については顕著な差をつけられてきました。

ケーブルテレビのシステム概要



設備説明

① ヘッドエンド(H・E)
ヘッドエンドはチャンネル増幅器、周波数変換器、変調器、混合器などの装置によって構成され、受信アンテナで受信した多数の各種信号を增幅、変換などを行い、混合してCATV伝送路に送出するための一連の装置。

② 光送受信器(E/O・O/E)
光ファイバで信号を伝送するときに光信号を電気信号に、また、光ファイバ

で伝送された光信号を電気信号に変換する装置。

③ 中継増幅器
伝送路によって減衰した信号を增幅し、伝送距離を長くする装置。

④ タップオフ(TO)
CATV伝送路と加入者宅とを結ぶ分歧・分配器で、受信者端子に最も近いもの。

⑤ ホームターミナルユニット(HT)
伝送路によって伝送された信号の中から加入者が視聴したい映像信号を取り出し、TV受信機で受信できるように変換する装置。CATVの加入者宅に設置。

⑥ 保安器(SB)
ケーブルテレビ施設と宅内設備の間に取り付けられ、双方に不要な電気が流れることを防ぐ装置。

しかし、情報化社会の進展と共に地方での都市生活も様々な情報化による対応が可能となってきました。CATV を使ったものをいくつかを例示すると、

◆テレビショッピング

家にいながらにして世界の商品の入手が可能になる。

(CATV+パソコン+銀行口座自動引落し+配達システムの複合処理)

◆テレビ問診

テレビ画面で患者のある程度の病状の診察が可能になる。

(CATV+双方向伝送+パソコンの複合処理)

◆ホームバンキング

家庭と銀行を電線で結び、個人チェック後、自分の銀行口座と相手の口座をジョイントしての「支払い」「口座入金」「残高照会」などが十分可能になる。

(CATV+銀行個入預金受払システム+個人照会システム)

また、ほしい商品をクレジットカードで購入、決済できる。

(CATV+クレジット会社+商品会社)

◆行政処理

役場業務を効率的にかつ住民サービスの向上をはかることができる。例えば、戸籍謄本、印鑑証明などの各種住民対応文書の発行が可能になる。

(CATV+身分証明+各種文書+銀行口座引落し)

◆文化活動

趣味、芸能、社会活動、文化活動などの遠隔地での交流でも可能になり、年齢、階層、収入を問わず多人数参加が可能になる。

(CATV+双方向通信+パソコンの複合処理)

◆移動経費

地方での情報化のメリットとして最大のポイントである。基本的に家庭での作業で処理ができてしまうので、その移動としての経費・労力が無しと考えられる。情報化的流れで最も効果を發揮できるひとつ。

(CATV+パソコン)

5. CATV の方向性

ここまで、国内における CATV 事業者の変遷や情報化という捉え方の中で大都市と地方での都市生活者への影響の違い等について述べてきました。これらを踏まえて、もう少しつっこんで CATV の現状とその方向性について述べたいと思います。

(1) CATV 事業の弱点

まず、現在 CATV 事業が置かれている様々な問題点・課題を整理したいと思います。

①ハード

家庭への配線はもちろんのこと基本的に同軸ケーブルによるため、CATV の特性であるはずの「双方向性」の機能が弱いのが実状です。そのため、通信事業参入にはかなりの追加設備投資が必要で現在の CATV 事業者の中で設備投資に対応できる企業は一部に限られます（商社など）。

②ソフト

現在、日本のほとんどすべての CATV 局は放送番組を番組提供者（サプライヤー）から購入しているため、局の独自性を出すことが極めて難しい状況にあります（各局の内容がほぼ同じ）。

また、対収入からいって番組製作費はかなり少額であるため 1 地方 CATV 局では視聴率のよい番組をつくるのは難しいのです。

③運営

現在、都市型 CATV 局で経常利益を確保している局はほんの一握りで膨大な設備投資が先行するため利益回収がかなり遅くなります。そのため、通信などへの参入資金が調達しにくい状況にあります。（経営権の放棄につながる）

④人材

CATV 事業最大の弱点です。CATV 事業者には新規参入企業が多いため、放送・通信

分野にはほとんど無知な場合が多く、自社内に専門技術者が不足しています。特に通信事業には全くの素人であり、目まぐるしい技術進歩・開発に資金・知識・能力の面でついて行けないのが実状です。

⑤ライバル

B S・C Sの衛星放送による直接家庭配信(100~200ch)が1996年から開始されます。

また、第1種通信事業者の放送参入の可能性が徐々に出てきており、その場合 NTT・NCC系・電力系などすさまじいライバルが

目白押しの状況となります。

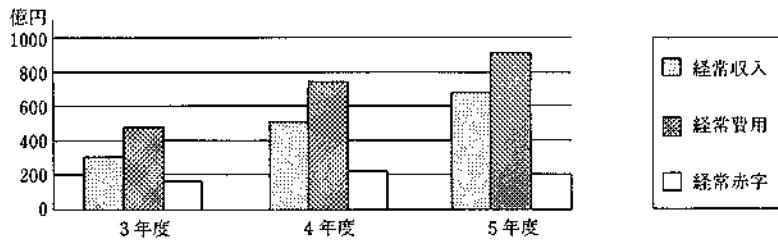
⑥黒船

CATVの先進国であるアメリカからの参入は最も烈な状況にあり、大資本を投入し先端技術や低価格論理を持参した巨大CATV局の上陸が進みつつあります。

また、通信プラス放送での門戸開放も要求しており、どれ1つ取っても今の日本で対抗できるものはありません。この黒船は日本独自のCATV局戦略を根底から覆す力を持っているのです。このような状況に対し日本は総合商社を中心にその傘下に入り、日本上陸

ケーブルテレビの経営状況

●都市型CATV全体の収支状況



(単位: 億円)

| 区分 | 3年度 | 4年度 | 5年度 |
|-----------------|--------|--------|--------|
| 事業開始事業者数(社) | 86 | 123 | 140 |
| 経常収入 [1社当たり] | [3.7] | [4.3] | [5.0] |
| 経常費用 [1社当たり] | [5.7] | [6.1] | [6.5] |
| 経常損益 [1社当たり] | [-2.0] | [-1.8] | [-1.5] |

都市型ケーブルテレビ: 引込端子数1万以上、自主放送5CH以上、中継増幅器が双方向対応

●都市型CATV開局後の経年数と経営動向

| 開局後の 経年数 | 営業動向別事業者数 | | | 合計 |
|-------------|-----------|----------|----------|----------|
| | 単赤・累赤 | 単黒・累赤 | 単黒・累黒 | |
| 1年以下 | 16(11.5) | — | — | 16(11.5) |
| 1年~3年 | 48(34.3) | 6(4.2) | 1(0.7) | 55(39.2) |
| 3年~5年 | 33(23.6) | 4(2.9) | 2(1.4) | 39(27.9) |
| 5年~7年 | 10(7.1) | 7(5.0) | 1(0.7) | 18(12.8) |
| 7年~10年 | 2(1.4) | 3(2.2) | — | 5(3.6) |
| 10年~15年 | — | 1(0.7) | — | 1(0.7) |
| 15年~ | — | — | 6(4.3) | 6(4.3) |
| 合計 | 109(77.9) | 21(15.0) | 10(7.1) | 140(100) |

(注) カッコ内は事業者全体に占める割合(%)

(出典:「有線テレビジョン放送の現況」資料より)

を促しています。

これらを理解せずに今の日本のCATV事業を語ることは不可能なのです。

(2) CATV全体の行方

つぎに、CATVの将来を占ってみたいと思います。

CATV全体の行方を考えるとき、下のような事項が重要な意味を持っています。

◆アメリカ関連企業の日本進出具合

(MSO化、通信事業者・ソフト事業者の進出、伝送方式のアメリカ規格化)

◆衛星放送事業の推移

(DMC(デジタル・マルチ・チャンネル:デジタル衛星多チャンネル放送)、テレビ放送に続き音声放送、データ放送も計画)

◆日本の総合商社のMSO化の進ちょく度

◆現在の日本のCATV局の利益確保の状況

これらの事項を参考にCATV全体の行方に対する私見を述べることにします。

①通信事業化する

CATV事業の利益確保が難しい企業は倒産・合併しか方法がなく、大企業からの勧誘に対し、それぞれの系列の中に否応なく参入されて行くと考えられます。今や、CATV事業の膨大な設備投資に対し、CATV事業での売上・利益確保だけでは地方企業はほとんど経営が困難な状況にあり、有力CATV局の系列下へと再編成される日はそう遠い時期でないと思われます。

また、再編成された大手有力CATV局も、生き残りの策として体力が続く限り設備の活用策として「通信事業」への参入を試みなければその対価を購えません。多額の設備投資を回収できるものは「通信事業」しかないのです。

②地域の広がりを必要として行く(面とり)

それぞれの地域を多数の事業者が群雄割拠している状況ではほとんど通信事業は不可能なため、「通信事業化」を考えると最低でも1

事業者で100万世帯をカバーできるまでに地域拡大せざるを得ないこととなります。しかし100万世帯事業者となると日本のCATV事業者はせいぜい10社前後での寡占状況を現出して行くことになります。その時点で、前述した有力CATV局のうち、そのほんの一部しか残らないことになる。

ここで加入世帯の多い大都市を押さえる事がCATV事業の根幹に係わってくるのです。

③アメリカ化されて行く

現在のCATV事業者が警戒し、最も危惧していることにアメリカ化があります。しかしそれらCATV事業者のほとんどにアメリカ系の企業・技術・方向・資金が関与しているのも事実です。好むと好まざるに限らず、アメリカナイズして行く中で、どう日本的に対応して行くかが今後最も重要な課題です。

私が予測する方向の中で問題として提起したいのは、上記の事項の中では「地域の独自性」という考え方方がほとんど問題にされていないということです。

地域よりもむしろ「企業の論理」に終始してしまっているという現実がそこに大きく横たわっているということです。

(3) CATV事業と地域とのかかわり方

CATV事業と地域とのかかわり方をCATVの捉え方やその使い方を含めてその方向性について整理してみようと思います。

①情報入手ツールとしてのCATV

◆単純に「テレビ」として考えるべきです。

多チャンネルテレビ(100CH)をどう扱うかという筋立てでCATVをとらえるのが一番正確です。

◆エンターテインメントの手段として最適。

娯楽・趣味・教養の範囲内での活用が最も合理的です

◆ホームショッピングの増加。

テレビショッピングとしての利用が今後一番のびる活用方法となります。

②地域活性化に対し過度の期待は無理

ケーブルテレビの日米比較

| 事項 | 米国 | 日本 |
|----------|---|---|
| 加入世帯率 | 63% (対テレビ受信機所有世帯数) 加入世帯数 5,933万世帯 テレビ受信機所有世帯数 9,418万世帯 (1993年末) | 4.7%: 都市型ケーブルテレビ 26.6%: 難視施設を含む全体 (対NHK加入世帯数) 加入世帯数 163万世帯: 都市型ケーブルテレビ NHK加入世帯 3,470万世帯 (1994年3月末) |
| 加入可能世帯率 | 97% (対テレビ受信機所有世帯数) 加入可能世帯数 9,070万世帯 (1993年末) | 22%: 都市型ケーブルテレビ (対NHK加入世帯数) 加入可能世帯数 760万世帯: 都市型ケーブルテレビ (1994年3月末) |
| 平均チャンネル数 | 38チャンネル (1993年末) | 27チャンネル: 都市型ケーブルテレビ (1993年3月末) |
| 施設数 | 11,217施設 (1993年末) | 158施設: 都市型ケーブルテレビ 58,950施設: 難視施設を含む全体 (1994年3月末) |
| 市場規模 | 220億ドル (1993年末) | 695億円: 都市型ケーブルテレビの収入 (1994年3月末) |
| 最大規模の事業者 | TCI(Tele-Communications, Inc.) 加入世帯数: 1,070万世帯 売上高: 42億ドル (1993年末) | 株日本ネットワークサービス 加入世帯数: 11万世帯 営業収益: 28億円 (1994年3月末) |

◆本質的にCATV事業は株式会社意識そのものです。その中に「行政的要素」を過度に取り入れることは矛盾しています。

◆「ニュース性」「報道」の範囲が今後ますます拡大・進展していくます。それと平行して住民との双方向性機能は減退して行きます。

③ CATV局は単なる中継所

◆CATV局独自の能力で地域と行政、あるいは住民と企業の関係は維持できません。なぜなら、CATV局は単なる電波を受けて受信者に流すだけがメインの仕事です。「無人の変電所」を想起してください。

極めてアメリカ的に見ると、アメリカでは分業制が発達しており、いまの日本のCATV

局は「送出」「制作」「営業」が混然一体となっており、極めて非効率です。地域生活とのつながりは、むしろ特化した「コミュニケーション会社」の役割であり、そのすべてを総体としたCATV局に望むのは必ず無理が生じます。

④ CATVへの没入は危険

◆CATVはすべてのソフトを所有しています。

あたかも中毒性の薬のように、毒にも薬になります。自分にとって必要かどうかの見極めが極めて重要です。

⑤今後の方向にはやはり「通信機能」の付加にポイントがおかれます。

◆地域でのCATV事業の活用のかなりの部分は「電話を中心とした通信」になるでしょう。住民・地域・商業にとってCATV事業の最大のコネクションに発展して行くでしょう。

6. まとめ

いろいろと述べて来ましたが、ケーブルテレビと地域生活を考えるとき、すべてを期待することの無意味さを理解してください。CATVはやはりテレビそのものであり、それ以上でもそれ以下でもありません。今これ程揺れ動いている業界も珍しいです。儲かっていない企業がほとんどなのに、情報化における全国の有力企業がこぞって参入しようとっています。

たまたま「通信」への参入が可能というのがその実態のように感じます。またCATVが有ろうが無かろうが市民生活や地域生活がそう変わるもでもありません。むしろ理解していただきたいのは「都市生活と地方生活の情報格差が無くなってくる」こととか「功利性の落とし穴の存在」を分かってほしいのです。すべてがお金によりどのように変化していくこの現実の怖さのはうが不気味なのです。

CATV事業に従事している】スタッフの意見として、「文化的な、人間的な生活」をこの目まぐるしい情報化の時代にどう残し、伝え、維持して行けるのかをいま真剣に考えてほしいのです。そのツールとしてCATVを使ってもらえるのが一番のメリットなのだと思います。

(社)日本CATV連盟(加入者相互受け入れ制度、参加)加入180社一覧

| 都道府県名 | 社 名 | 都道府県名 | 社 名 | 都道府県名 | 社 名 |
|-------|----------------------|-------|-------------------------------|-------|--------------------|
| 北海道 | 旭川ケーブルテレビ(株) | 神奈川 | 横浜ケーブルテレビ局 | 大阪 | 大阪ケーブルテレビ(株) |
| | 鶴巣広シティーケーブル | | 河口湖有線テレビ放送㈱ | | 大阪セントラルケーブルネットワーク㈱ |
| | 札幌ケーブルテレビジョン(株) | | 北富士有線テレビ放送㈱ | | ㈱京阪ケーブルテレビジョン |
| 青森 | 青森ケーブルテレビ(株) | 山梨 | 南房総シーエーテーブイ | 大分 | 堺ケーブルテレビ(株) |
| | (株)八戸テレビ放送 | | ㈱CATV富士五湖 | | シティウェーブおおさか |
| 岩手 | 第一関有線テレビ | | CATV山中湖 | | 吹田ケーブルテレビジョン(株) |
| | 岩手ケーブルテレビジョン(株) | | 富沢町テレビ共聴組合 | | (株)テレビ岸和田 |
| | 北上ケーブルテレビ(株) | | ㈱日本ネットワークサービス | | ㈱明石ケーブルテレビ |
| 宮城 | 水沢テレビ(株) | 長野 | 新土川CATV(株) | | ㈱ケーブルコミュニケーション芦屋 |
| | 気仙沼テレビ放送(株) | | 山梨CATV(株) | | ㈱ケーブルテレビ神戸 |
| | 塩釜ケーブルテレビ(株) | | あづみ野テレビ(株) | | ㈱ケーブルビジョンアイ |
| 山形 | 仙台CATV(株) | | アルブス・ケーブルビジョン(株) | | ㈱ケーブルビジョン西宮 |
| | 宮城ネットワーク(株)(キャベツ) | | ㈱飯田ケーブルテレビ | | ㈱チャンネルウェーブあまがさき |
| | ㈱ケーブルテレビ山形 | | 伊那ケーブルビジョン(株) | | 姫路ケーブルテレビ(株) |
| 茨城 | (株)ニューメディア米沢 | | ㈱上田ケーブルビジョン | | 奈良 近鉄ケーブルネットワーク(株) |
| | 土浦ケーブルテレビ(株) | | ㈱テレビ松本ケーブルビジョン | | 鳥取 物中海テレビ放送 |
| | ひたちなかケーブルテレビ(株) | | 長野ケーブルテレビ [株]INC) | | 日本海ケーブルネットワーク(株) |
| 栃木 | 宇都宮ケーブルテレビ(株) | 新潟 | ㈱ケーブルネット新潟 | 島根 | 出雲ケーブルビジョン(株) |
| | 入間ケーブルテレビ(株) | | 上越ケーブルビジョン(株) | | 山陰ケーブルビジョン(株) |
| | 浦和ケーブル・テレビ・ネットワーク(株) | | ㈱長岡ケーブルテレビ | | 非原放送㈱ |
| 埼玉 | 川越ケーブルビジョン(株) | | ㈱大垣ケーブルテレビ | 岡山 | 岡山ネットワーク(株) |
| | 熊谷ケーブルテレビ(株) | | ㈱ケーブルコミュニケーション長良川 | | 玉島テレビ放送(株) |
| | ㈱志木ケーブルメディア | | ㈱ケーブルテレビ可児 | | ㈱ケーブルシティ22 |
| 千葉 | 所沢テレビネットワーク(株) | 静岡 | 然瀬テレケーブル(南) | 広島 | ㈱中国ケーブルビジョン |
| | 蕨ケーブルビジョン(株) | | ㈱静岡ケーブルネットワーク | | 広島ケーブルビジョン(株) |
| | いちかわケーブルネットワーク(株) | | TCN伊豆綿 | | ㈱広島シティケーブルテレビ |
| 千葉 | 蕨・いのくニティ・ネットワーク・テレビ | | TCN沼津綿 | | 府下アメニティ・ビジョン(株) |
| | 蕨木更津ケーブルテレビ | | テレビ共聴開発㈱ | | 三原テレビ放送(株) |
| | いちかわケーブルネットワークやちよ | | 富士宮ケーブルテレビメディア(株) | | ㈱アイ・キャン |
| 千葉 | 蕨スーパーネットワークユニー | 愛知 | 一宮シティケーブル(株) | | 萩ケーブルネットワーク(株) |
| | 船橋ケーブルネットワーク(株) | | 稻沢シーエーティイ(株) | | 徳島リビング鳴門新聞社 |
| | いちかわケーブルネットワーク千葉 | | 春日井テレビ放送(株) | | 香川テレビ放送網(株) |
| 東京 | 入間ケーブルテレビ(株) | | グリーンシティケーブルテレビ(株) | | 中讃ケーブルビジョン(株) |
| | ㈱ケーブルネットワーク町田(ビル) | | CATV愛知(株) | | 三豊ケーブルテレビ放送(株) |
| | ㈱小田急情報サービス | | 中電工事㈱・(CCNet) | | 今治シーエーティイ(株) |
| 東京 | 江戸川ケーブルテレビ(株) | | 東名ケーブルテレビ(株) | | 宇和島ケーブルテレビ(株) |
| | ㈱ケーブルテレビジョン東京 | | 名古屋ケーブルネットワーク(株)(スター・キャットテレビ) | | ㈱愛媛シーエーティイ(株) |
| | ㈱ケーブルテレビネリマ | | 西尾張シーエーティー(株) | | ㈱ケーブルネットワーク西瀬戸(株) |
| 東京 | 江東ケーブルテレビ(株) | | ㈱西三河ニュータテレビ放送 | | 新居浜テレビネットワーク(株) |
| | ㈱小金井市民テレビ | | ひまわりネットワーク(株) | | 高知ケーブルテレビ(株) |
| | ㈱シティケーブルビジョン府中 | | 碧海キャッチャネットワーク(株) | | 大川・柳川ケーブルテレビ(株) |
| 神奈川 | 杉並ケーブルテレビ(株) | 三重 | 伊賀上野ケーブルテレビ(株) | | 北九州ケーブルテレビ(株) |
| | 吉良ケーブルテレビ(㈱北ニューノティア) | | 伊勢ケーブルネットワーク(株) | | ㈱ケーブルステーション北九州(株) |
| | 多摩ケーブルネットワーク(株) | | 桑名ケーブルテレビ(株) | | ㈱ケーブルビジョン久留米(株) |
| 神奈川 | ㈱多摩テレビ | | ㈱ケーブルネット鈴鹿 | | ㈱ケーブルビジョン21 |
| | 調布ケーブルテレビジョン(株) | | ㈱シティーウィ | | 有田ケーブル・ネットワーク(株) |
| | ㈱東急ケーブルテレビジョン | | 中電工事㈱・(CCNet) | | 佐賀シティビジョン(株) |
| 神奈川 | 東京ケーブルネットワーク(株) | | 津ケーブルテレビ(株) | | ㈱武雄テレビ |
| | 八王子テレメディア(株) | | 名張二十世紀ケーブルテレビジョン(株) | | 諸早ケーブルテレビジョン放送(株) |
| | マイ・テレビ(株) | | 松阪ケーブルテレビ・ステーション(株) | | ㈱ケーブルテレビジョン島原(株) |
| 神奈川 | ㈱小田急情報サービス | | ㈱ケーブルネット氷見 | | 長崎ケーブルテレビジョン(株) |
| | 小田原ケーブルテレビ(株) | | 高岡ケーブルネットワーク(株) | | 福江ケーブルテレビ(株) |
| | ㈱鎌倉ケーブルコミュニケーションズ | | となみ衛星通信テレビ(株) | | 天草ケーブルネットワーク(株) |
| 神奈川 | 寒川ケーブルテレビ(株) | | 加賀ケーブルテレビ(株) | | 熊本ケーブルネットワーク(株) |
| | ㈱シーエーティー(株)横須賀 | | 金沢ケーブルテレビ放送(株) | | 大分ケーブルテレビ放送(株) |
| | シーエーティービー(株)港南(株) | | ㈱テレビ小松 | | ㈱ケーブルテレビ佐伯(株) |
| 神奈川 | 湘南ケーブルネットワーク(株) | | 福井ケーブルテレビ(株) | | ㈱ケーブルテレビジョン別府 |
| | ㈱東急ケーブルテレビジョン | | 琵琶湖ケーブルネットワーク(株) | | 宮崎ケーブルネットワーク延岡 |
| | 藤沢ケーブルテレビ(株) | | ㈱水口テレビ | | 石垣ケーブルテレビ(合) |
| 神奈川 | 横浜アーバンテレビジョン(株) | | 余呂町(コミュニティーションネットワーク余呂) | | 沖縄ケーブルネットワーク(株) |
| | 横浜ケーブルテレビジョン(株) | | ㈱キネット | | 宮古テレビ(株) |
| | 横浜ケーブルテレビジョン(株) | | ㈱京阪ケーブルテレビジョン | | |

情報化の動向と地域の取組み

(株)地域計画建築研究所名古屋事務所 小竹暢隆

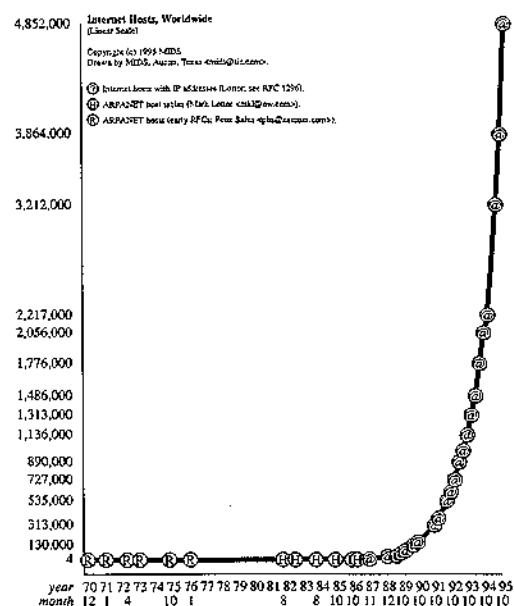
1. インターネットへの流れ

近年の情報化の動向で注目すべき変化は、様々な技術開発の方向がインターネットを軸に統一されつつあることである。従来、研究者や技術者だけのものであったインターネットが一般企業や個人の関心を広く集め、普及している。

こうした普及の背景として、インターネットは研究利用ばかりでなく商用利用も可能になったこと、netscapeのような情報検索ツールが最も手軽なマルチメディアのアプリケーションとして捉えられたこと、パーソナルコンピュータの低価格化とネットワークへの接続を容易にするソフトウェアの出現など、様々な要因が考えられる。

これらの中で最も裾野を広げる理由となつたのが「研究利用から商用利用」への利用範囲の拡大である。研究者が情報交換のために、いわゆるボランティアで作り上げたネットワークであったが、このネットワークに企業の研究施設などが接続し、その利用範囲が拡大した。

インターネットの利用環境は1995年夏以降劇的に変化したといえる。従来は電子メールやテキスト情報は利用できてもWWWには対応していなかった大半の大手商用パソコン通信サービスでインターネットの全サービスを利用できるようになった。さらにインターネットへの窓口となるプロバイダーは、急速に数が増えている。様々な環境がインターネットを後押しする方向に動きつつある。



CTI鈴木氏提供

こうした流れを踏まながら、今、それぞれの地域が進めていくべきテーマは、情報化推進計画づくり等ではなく、情報技術の優れた使い方の開発であり、インフラの問題はそれと平行して対応を考えていかなければならない。



小竹暢隆（おだけ のぶたか）

昭和45年3月 富山県立高岡高等学校卒業
昭和49年3月 東京大学工学部化学工学科卒業
昭和61年3月 東京大学大学院工学系研究科（化学工学専修）修了
東レ㈱等を経て
平成元年9月 構造地域計画建築研究所入所
現在 同研究所名古屋事務所次長

インターネットの一般的な発展の経緯や利用については各種文献に譲ることとし、ここでは、インターネットを軸としたアプリケーション開発の身近な事例を紹介しながら、今後の方向性を考えていきたい。

2. 情報化を考える視点

情報化を考える有力な視点としてシリコンヴァレー・モデルを取り上げたい。

1990年代初頭のシリコンヴァレーは、日本企業との競争で衰退しかけていた。カリフォルニアの企業・地域コミュニティ・州政府関係者たちによって、シリコンヴァレーの活性化を目的とし、草の根的な地域経済発展を達成するために1993年にスマートヴァレーInc.が設立されたが、この組織は寄付金によって運営される非営利団体である。

シリコンヴァレーは次の点で新しいモデルを提供している。^{1),2),4)}

- (1) エレクトロニック・コマースの分野ばかりでなく、医療教育・福祉、教育、環境といった地域住民の日常生活や地方公共団体の行政サービスに直結する分野を重視し、双方向通信を通じて地域住民の「生活の質の向上」を目指したプロジェクトが推進され、コミュニティの発展とビジネスの発展が車の両輪としていること
- (2) シビック・アントレプレナー（市民起業家）ともいべき自発的なコーディネータのネットワークが存在し、新しい官民のパートナーシップが形成されていること
- (3) 地域内ネットワークを強化するグローバルな地域対地域の関係が積極的に模索されていること

情報化は距離や時間に関係なく進んでいく。グローバリゼーションが進展し国境の意味が薄れるからこそ、地理的近接性すなわち地域の優位性が再生する。フェース・トゥ・フェースのネットワーク、親密で迅速な情報伝達

や情報選択がそれを確保するのであり、地域とは信頼の共有できる範囲ということができる。

一方、経済的価値生産はますます知識に依存することになるが、これは一般的・普遍的価値からではなく、「特定の知識、地域化した知識」から経済的価値が生まれる。言い換えれば、経済的価値を持つ知識をベースとした新しい情報サービス産業が発展していく。その場合、「生活の質の向上」を目指す住民の取組みから、問題解決に資する等身大の技術革新（適性技術）が生成し、有効需要が組織できる。⁵⁾そこでは、ボランティアを編成できる専門性を持った能動型N P O（非営利組織）が重要な役割を果たしていくと考えられる。⁶⁾

3. 地域における取組み動向

ここでは、この地域における取組み事例として、当事務所が関わっている情報化プロジェクトを紹介したい。いずれの事例も、行政指導型あるいは初めに予算ありきといったものではなく、ボランティアをベースとした草の根交流型、ボトムアップ型で始まったものである。

3-1 「絞り」の情報化とフロンティアビジネスの創出^{5),6),8)}

成熟産業である「絞り」を取り上げ、情報化を契機に技術革新を進めることにより、絞りの生産・加工拠点の発展を実現するとともに、新分野進出を通じた新産業創出を目指すものである。

- ・事業主体 愛知県絞工業組合
- ・コーディネータ 株A Tデザイン
取締役社長 伊藤晴彦
- ・情報化支援
株CTI 分散システムG長 鈴木常彦
豊橋技術科学大学齊藤研究室

中部大学電子工学科梅崎研究室
 (株)地域計画建築研究所名古屋事務所
 貢中部産業活性化センター

(1) 絞り産地の現状と動向

有松・鳴海絞りは代表的な伝統産業であるが、その知名度に反して産地の業績は長く低迷を続けている。和装ルートを主な対象とした製品づくりに終始しているため、独自のマーケティング力を失い下請生産化しており、その高額な最終製品価格に反して産地での加工賃は極めて安く、職人の高齢化、後継者不足など伝統産業に共通した問題を抱えている。

ローカルな需要をグローバルな需要に発展させていくためには、世界の情報を集めることが不可欠である。また纖維素材を必要としているデザイナーは世界に数多く存在しており、そうしたデザイナーと直結して市場を開拓していくことは十分可能である。

これまで行われてきた活動や作業は次の通りである。

- ・素材、絞り技法などの分類・整理（メニュー化）
- ・絹、木綿などの在来素材に加え、ウール、ポリエステルなど新規素材の導入の検討
- ・イタリアのファッショントレーディング・デザイナーと連携した用途開発
- ・ヨーロッパでの展示会、ワークショップの開催（フロム・ジャパン、EUジャパン）

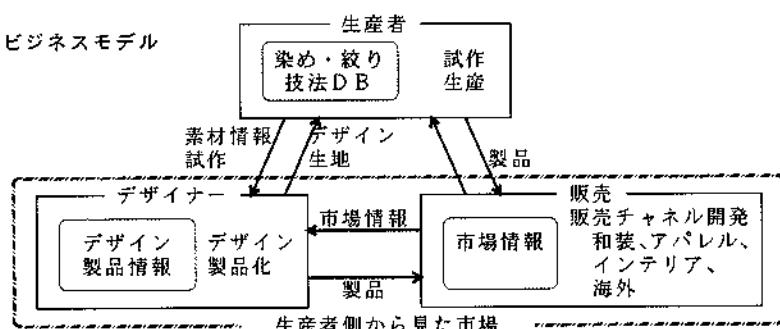
(2) 情報化作業の具体的な内容

今回の作業は、代表的な伝統産業である「絞り産業」をモデルとして、エレクトロニック・コマース事業を展開し、それを通じて、産業イノベーションを促進し、生産・加工拠点の新しい発展を目指すとともに、産業政策・支援策を検討するものである。

新しいビジネスプロセスは次のように考えられる。

- a. 生産・加工拠点：名古屋市緑区有松・鳴海
- b. 作家、クラフト、デザインのネットワーク：イタリア等
- c. 販売拠点：商品分野ごとに設けられたアンテナショップ

aはbに対して素材情報を提供し、bからデザイン製品情報の提供を受ける。続いてaは素材を提供し、bからデザインに合わせた素材提供を要請される。こうしたデザイン・素材情報の交換が同時並行的に行われる。また試作・プロモーションの段階では、cから市場情報をフィードバックされる。これは個別情報でものを作るための販売、商品開発、生産のネットワークである。



(3) 実験内容

[第一ステップ] 絞り技法データベースの構築

○目的・内容：データセンターのWWWサーバー上に、各種素材や絞り技法のデータベースを構築する。これは、デザイナーが素材加工のバリエーションを選択するため利用してもらうとともに、市場に「絞り産業」を啓蒙、広報する目的も兼ねる。

○実験場所：東海インターネットのNOC（ネットワーク・オペレーションズ・センター）にサーバーを設置する。

有松の絞り会館に端末を設置する。

[第二ステップ] デザイン・素材試作プロセス支援環境の整備

○目的：開発プロセスの効率化

○内容：第一ステップのデータベースをもとに、染め・絞り方法の検討など素材試作プロセスにおける海外のデザイナーとのコミュニケーション環境を整備する。

具体的には、

①デザイナーによる染めや絞り技法選択のためのDB検索インターフェイス

②デザイナーから送られた生地の加工結果の画像提示インターフェイス

等を開発・構築し、その運用実験を行う。なお本プロジェクトにおいては、従来より人的交流のあるミラノ（コモ）のデザイナー達と実験を進める計画である。

[第三ステップ] 海外エージェント、アンテナショップの設置

○目的：マーケットの開拓

○内容：すべてのビジネス・プロセスが電子化できるわけではない。市場においては、端末でデータベースを検索するとともに、質感、肌触りなど素材に手を触ることで確認できる場所が必要となる。有松はもとより、名古屋の国際デザインセンターやミラノ等をはじめ、各地に製品や見本帳（カタログ）などを展示した場を設け、メディ

アミックスによるマーケット開拓を試みる。

3-2 健康情報ネットワーク^{5),6)}

医療・福祉分野を対象とした情報化について検討するボランティア組織である「健康情報ネットワーク研究会」を母体として実験事業を行うことになった。それまでもメンバーの間で東海テレメディシン研究会を組織し、遠隔医療についての実験事業を進めており、また岐阜中部産業活性化センターのネットワーク利用研究会でも医療分野における通信ネットワークの応用について検討を行ってきた。

〈研究会構成メンバー〉

名古屋記念病院理事長 太田和宏

名古屋大学医学部医療情報部教授

山内一信

名古屋工業大学電気情報工学科教授

岩田 彰

㈱ATデザイン取締役社長 伊藤晴彦

㈲地域計画建築研究所名古屋事務所

〈療養環境整備の要請〉

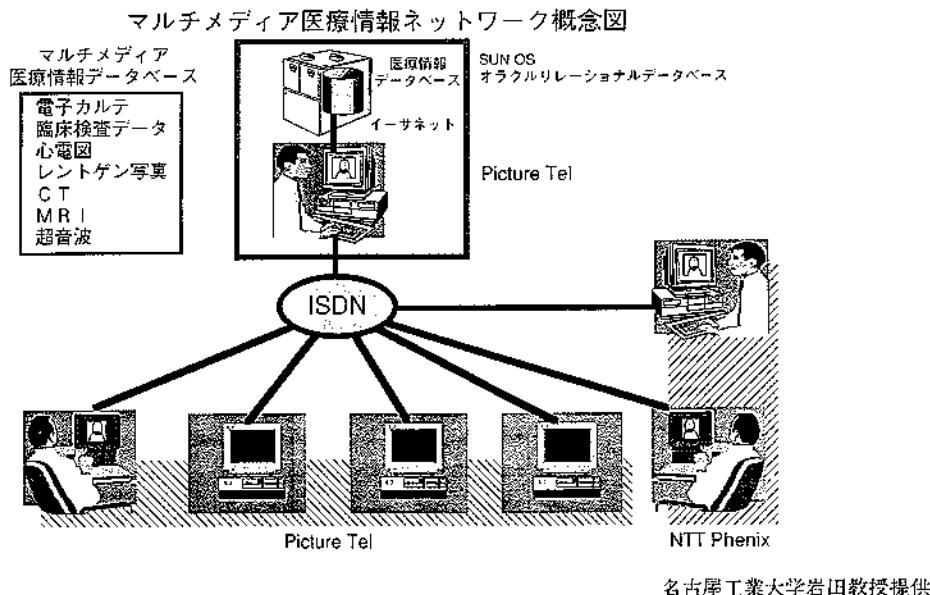
病院は療養環境の改善を迫られているが、そのための一つの方向は療養スペースを確保することである。また、厚生省の療養型病床群という資格を取得するためには1人当たりのベッドスペースがこれまでの4.3m²から、6.4～8m²まで拡張することが要請されており、一般病院から長期療養型病床群への転換を図ることが平成8年度の目標になっている。

〈個人情報の一元化〉

基礎年金番号によってカルテ番号が代行することが考えられる。その番号で一元化して保管すると患者個人はどこの病院で診察を受けても個人情報はセンターに集まってくる。他の病院にかかるとも病院同士が貸与することを認め合えればデータを共有することが可能である。

〈医療情報ネットワークセンター〉

病院はどこも手狭で少しでもスペースが欲しいが、カルテ保管庫が病院の1～2部屋を



占めており、限られたスペースでは療養環境を改善することは難しい（例、名古屋大学医学部付属第一病院のカルテ保管庫は約1000m²）。このため、公的支援を受けながら複数の病院が連携して電子カルテを使った共同カルテ保管システムを作ることが必要である。

カルテをデジタル化して医療情報ネットワークセンター（仮称）を設置する。電子カルテ情報が集まれば病院の経営分析も可能である。さらに地域医療・福祉関連の情報を入力することにより、利用度が高まる。

〈実験事業〉

今回、日本学術振興会（文部省所管）産学共同支援事業から支援を受けて、電子カルテの実用化に焦点を当てた実験事業をスタートすることになった。名古屋大学医学部にサーバーを設置し、システムの一つを名古屋記念病院が受け持つことになっている。福祉関係にも適用を検討する予定である。

3-3 事例の意義

これから地域がグローバルな競争の中で生き残るためにには、コンテンツが勝負と考えられる。しかし、全国ベースでのコンテンツの差別化はもはや意味がなく、地域の特性・

個性を発見し、可能なところから取組んでいくことが必要である。その場合にはヒューマン・ファクター、あるいは、コミュニティ・ファクターが重要であり、その活力を増幅させる地域の支援が求められる。

4. 創造型コミュニティ社会の形成に向けて

これから新たな社会的・経済的発展を目指すとき、情報通信技術の社会的利用、企業の市場アクセス、情報インフラ整備の動向を視野に入れたビジョンの共有がそれぞれの地域で必要である。

特に、この地域においては、公益を推進し、地域住民の生活の質の向上に直結したプロジェクトを重視し、かつ民間企業がそうしたプロジェクトに積極的に参加することを求めていきたい。

高速・大容量の情報通信ネットワークを利用したマルチメディア・サービスの需要と社会的ニーズはビジネスにあるものの、エンタテイメントの需要は必ずしも大きくなく、不確実性が高いといわれる。すなわち需要はビジネスが先導し、公共分野、とりわけ教育が

重要な役割を果たすことになる。言い換れば、新産業は住民のニーズを見極め、医療・福祉、教育、環境といった分野においても、生産者とユーザー双方向の交流を促進する仕組みを構築できればマルチメディア産業が育つことになる。^{1),2)}

このため地域ではヒューマン・ファクターに注目しながら、住民のニーズと新技術を結びつける地域プロジェクトを編成し、さらに資本調達、市場開拓などでも起業家を手助けする機関を作り、産業振興が生活の質の向上につながるシステムを作り上げる取組みが必要である。

その一方で、参加型福祉社会のニーズに対応した労働編成が求められる。高齢者のコミュニティにおける生きがい発露の場を創出するとともに、様々なボランティアを活用できる専門性を持った創造型NPO(非営利組織)に対する支援が必要である。

これから政策形成のプロセスは、いわば「プロダクト・アウト」ではなく、実験・検証を踏まえたボトムアップ型のものに向かうべきであり、同時に「地域」をベースとした政策の編集・総合化が行われなければならぬ。

[参考文献]

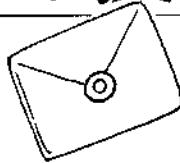
- 1) 財中産業活性化センター、日本福祉大学 新産業創出シンポジウム講演録
「新産業創出と地域プログラム」 1996.3
- 2) 今井賢一、加藤敏春「シリコンバレー モデル」 NTT出版 1995.6
- 3) William F. Miller "Regionalism, Globalism, and the New Economic Geography"
Presented to a meeting of the Policy Study Group 1996.1
- 4) Smart Valley, Inc. "webmaster @ svi.org"
- 5) 財中産業活性化センター「中部地域に

- おける情報化の推進に関する調査研究」 1996.3
- 6) 財中産業活性化センター「次世代産業に関する調査研究」 1996.3
 - 7) 須藤修「複合的ネットワーク社会」有斐閣 1995.3
 - 8) 小竹暢隆「新産業創出と地域システム」 日本中小企業学会論集15 1996.4



海外便り—ドイツ・チュービンゲン—

海外便り—ドイツ・チュービンゲン—



おおかわ あつこ
大川 温子

Atsuko Okawa-Leidner

PROFILE

1981年 東京女子大大学院数理学科卒業後、ハイデルベルク大学へ留学

1986年からチュービンゲン市在住

主婦・翻訳・通訳業の傍ら、ドイツの現状(エネルギー・環境など)についての委託調査の執筆をする夫君(ドイツ人)の手伝い等も。

大学町としての チュービンゲン

ハイデルベルクの街からネッカー河をさらに二百キロさかのぼったチュービンゲン市へ引っ越してきて住むこと、およそ十年。西にシュヴァルツヴァルト(黒い森)、南にシュヴァーベン・アルプスの山々という自然にかこまれ、中世の面影をいたるところに残した小さな大学町である。大学の歴史は古く中世に創設されてから、ケプラーをはじめ、ヘーゲル、シェリング、ブロッホ、メリケ、ヘルダーリン、ヘッセ、「ローレライ」の作曲者として有名なジルヒャーなど、日本でもおなじみの数々の哲学者や詩人がこの街に暮らしたという。

たしかに旧市街を歩きながら視線を少しばかり高いところに転じれば、アルツハイマー医師の名前や、この書店でヘッセ勧けり、などと記された標識を家のファサードに見つけることができるし、ゲーテ・シラーなどのドイツ古典派の出版社としてドイツ文学史に大



出典「Tübingen, Die alte Universitätstadt am Neckar」
チュービンゲン観光局発行を筆者が修正

きな役割をはたしたというコッタ出版の家のファサードには、よく読めば僅か十日あまりの滞在でしかなかったのに「ここにゲーテ住めり」と、少々大げさではないかと思われる標識もある。

余談になるが、この標識から視線を左に九十度ほどめぐらすと、学生寮とおぼしき建物の、とある窓の下に小さな標識が取りつけられており、「ここでゲーテ吐けり」と記されている。ああ、ここにも何か書いてあるぞ、とまじめに読みはじめた人の顔が肩すかしをくらってポカンとし、それからニヤニヤ笑いに変わるので見てみると、なんだか嬉しくなる。これを見て「不節操だ」と怒るドイツ人も絶対にいるはずだと思うのに、この標識が取りつけられてからもう四、五年になるが、いま



だに取り外される様子はないのが、実は不思議でならない。

それはさておき、1994年度の統計によれば テュービンゲン市の人口は8万2千人、大学の学生総数は2万6千人である（このうち一割が外国人留学生）。大学勤務者は約9千人で、教授職につく人は7百人。これを乱暴に言い換えれば、街ですれちがう人のうち、三人に一人が大学生、十人に一人が大学勤務者で、百人に一人が教授、という勘定になる。加えて大学の年間予算は約9億マルクで市の年間予算の3.75億マルクの約2.4倍。この数字を見るだけでもテュービンゲン市における大学の位置が見えてくることと思う。

大学関係者が多ければ街は自然と若さと活気にあふれ、自由な雰囲気に満ちるように感じられる。大学で行われる無数の講演会も市民に開放されており（講義の聴講も可能。ドイツにある大学の殆どは国立である。昨今の不況で大学への国家予算も大幅に切り詰められ、授業料導入の必要性を主張する意見もチラホラ聞かれるようになったが、授業料は現在のところ、ない）地方新聞紙上では毎日、どこで何の講演があるのか、ひと目で分かるようになっている。新しく教授が赴任してくれれば新聞に紹介記事が載り、退官教授に関しても、また然りである。メンザと呼ばれる学生食堂の、その日の献立までが新聞に載っているのは、ちょっとオカシイ。



ネッカーリー川から旧市街を望む。橋の右端には旧市街への入り口の一つの市門があった。

暮らしやすさの基準

日本からお客さまがみえるときまつて訊かれることがいくつかある。ドイツ人の平均年収や物価などのドイツ経済に関する質問に始まり、勤勉で頑固といわれているドイツ人気質の真偽のほど、ドイツ人の日本人観、お土産に何かお勧め品はないか、といった類の質問などであるが、この中に「暮らしやすい？」という質問が必ずある。「住みやすいです！」と即、答えるものの「どういうところが？」と、更に訊かれて答えにつまることがよくあった。この稿はちょうどいい機会だ。この際じっくりとその理由を考えてみようと思っているが、さて、普通は一体何を目安にして「暮らしやすさ」をはかっているのだろうか。

昨年秋、ドイツの週刊誌「フォーカス(FOCUS)」が『ドイツ全国543の町の中で最も生活の質の高い町はどこか』という特集を組んだ時に、あろうことかテュービンゲン市が第一位に選ばれた。（ちなみに第二位はボン、七位にミュンヘン、ハイデルベルクは十五位で、ベルリンは五十五位、六十八位に初めて東部ドイツの街（旧東独）、ローストックが登場する。）この調査には三万点に及ぶ資料と一年半という時間が費やされ、経済協力開発機構（OECD）が生活の質に関して定めた基準を見習った六つの項目を評価し、この総合点からランキングリストが作成されたという。

その六つの項目とは

1. 環境 空気や水の汚染度、森などの緑地面積や農耕地、住居、交通関係の面積
2. 経済 市民の所得額、失業率、社会扶助金受給者率、土地の価格など
3. 文化 公園、劇場、図書館、映画館、美術館などの数
4. 治安 交通事故・犯罪の数



5. 施設 幼稚園・老人ホーム・病院や各相談所などの数
 6. 健康 市民が癌・呼吸器及び循環器の病気によって亡くなる比率など。

たしかにこの六つの項目にあげられた事柄はどれも住みやすさの条件として納得できるものばかりである。空気や水の汚染度が低ければそれにこしたことはない。犯罪の数も少ない方がよいに決まっている。優秀な医師が

集まっている大学病院が近くにあると思うだけでなんとなく安心感があるのは誰でも同じであろう。福祉・厚生施設に関してはこんなことがあった。娘が生後八ヶ月で入院した時のことで、付き添いの私にもこどものベッドの隣にベッドばかりか三度の食事までもが用意され、この費用も全部健康保険でまかなわれたのである。そればかりではない。プレイルームや教室があり、保母さんにこどもを頼んで親が息抜きできるようになっていることや、

ドイツ全国543の都市/郡の中で最も生活の質の高い町はどこか

| 順位 | 都市/郡 | 環境 | 経済 | 文化 | 治安 | 施設 | 健康 | 総合点 |
|-----|-------------|-----|------|------|-----|-----|------|-----|
| 1 | テュービンゲン | 613 | 867 | 920 | 660 | 783 | 1000 | 807 |
| 2 | ポン | 600 | 900 | 1000 | 820 | 900 | 614 | 806 |
| 3 | ミュンスター | 550 | 867 | 980 | 640 | 900 | 857 | 799 |
| 7 | ミュンヘン | 475 | 1000 | 1000 | 500 | 917 | 743 | 773 |
| 14 | フライブルク | 600 | 867 | 940 | 580 | 933 | 586 | 751 |
| 15 | ハイテルベルク | 575 | 933 | 960 | 520 | 867 | 643 | 750 |
| 18 | カールスルーエ | 625 | 967 | 1000 | 580 | 867 | 443 | 747 |
| 18 | シュトゥットガルト | 500 | 967 | 1000 | 480 | 950 | 586 | 747 |
| 31 | ケルン | 525 | 833 | 1000 | 520 | 900 | 543 | 720 |
| 33 | デュッセルドルフ | 525 | 867 | 1000 | 640 | 867 | 414 | 719 |
| 38 | フランクフルト | 500 | 933 | 1000 | 320 | 933 | 571 | 710 |
| 55 | ベルリン | 488 | 700 | 1000 | 420 | 967 | 557 | 689 |
| 60 | ハンブルク | 513 | 850 | 1000 | 460 | 850 | 429 | 684 |
| 68 | ローストック(旧東独) | 600 | 533 | 780 | 420 | 767 | 957 | 676 |
| 80 | ニュルンベルク | 463 | 833 | 980 | 560 | 900 | 271 | 668 |
| 104 | ドレスデン | 363 | 567 | 980 | 500 | 900 | 600 | 652 |
| 125 | バーデン・バーデン | 700 | 933 | 640 | 600 | 733 | 214 | 637 |
| 243 | バンベルク | 538 | 667 | 860 | 400 | 750 | 143 | 560 |
| 543 | アンガーミュンデ | 686 | 133 | 220 | 140 | 250 | 243 | 279 |

(FOCUS 40/1995より)



学童児は授業を受けられるようになっていることにも驚いたのであるが、もっともこれはチュービンゲン市特有のものではなくドイツ全国に共通して受けられるサービスであろう。

この雑誌が発売された日、チュービンゲンが一位に選ばれたことは地方新聞の記事や口コミであつという間に広がり、この雑誌は市内の商店ではどこでもすぐに売り切れたそうである。知人たちの反応は、といえばみな首をかしげて、「なんでもまた、よりもよってチュービンゲンが一位なのかなあ」と不思議そうで、実感がともなわない様子であったが、無理もない。各項目とも1000点が最高点で、チュービンゲン市の場合、健康の項目が1000点と他の都市をはるかに引き離して優良なのであるが、これは市民の三人に一人が(若い)学生ということと、これらの学生は卒業すればドイツ全国に散らばっていくが、また新しい学生がやって来るという市民の構造を考えれば、死亡率が少ないのも当たり前なのではないか。環境の良さの帰結として死亡率が特に低いというわけではなきそうである。そもそも何もかもいっしょくたにして点数をつけようということ自体に無理があり、雑誌に載っている順位もそのように考え始めれば、鵜



手工業職人、農民、ワイン栽培農家などが住んでいた地区からお城を望む。



お城からエースター山を望む。真ん中はシュティフ教会。
右下はネッカーリー川。

呑みにするわけにはいかないのだろうが、それでも一位に選ばれたということには、みんな、悪い気はしていないようであった。

チュービンゲン市 での日常生活

一位が妥当かどうかはさておき、実際に住んでいる者として前項で述べた六つの項目に關し、直接的・間接的に数々の恩恵を受けているのは確かである。例えば、自転車専用道路の施設整備がととのっているので坂の多い街ではあるが自転車での移動は快適であるし、ユニークなところでは、街の北部の丘の上に住む人に、行きは自転車、帰りは自転車ごとバスに乗って、というサービスがある。夜にはバスの本数が少なくなるが、ザンメル・タクシーという電話一本で呼べる相乗りタクシーの制度があり、料金もバスの定期券を持っている人は市内ならどこからどこまで乗っても3マルク程度(2百円ぐらい)、定期券を持たない人でも5マルクという安さである。

映画館の入場料も市が助成金を出しているので他の都市よりも安く映画が見られるという。美術館の館長も意欲的な人で、ピカソ、ドガ、クレー、ロートレック、セザンヌ、エゴン・シーレ、ルノワールなど小さい街にしては珍しく質の高い展覧会が頻繁に見られる。また、市の北に位置する山の上の住宅地には



80年代の始め、パウビオロギー(建築生物学)の理論を早くも取り入れて「シャーフブリュール」という名前のエコロジー団地(約110世帯)が建てられ、実際、快適らしい住み心地に空きを待つ人のリストはいつもいっぱいだそうだ。市内のあちらこちらに昨今アクティブ・ソーラー・ハウスやエコロジー住宅が増えていることも記しておきたい。

チュービンゲン市に住んで気付いた生活上の便利さや特徴などを思いつくままピックアップしてみたが、日本からのお客様の質問に「住みやすい」と答えるときには、こんなことに加えてもう少し個人的な事情や嗜好が加わっているようだ。

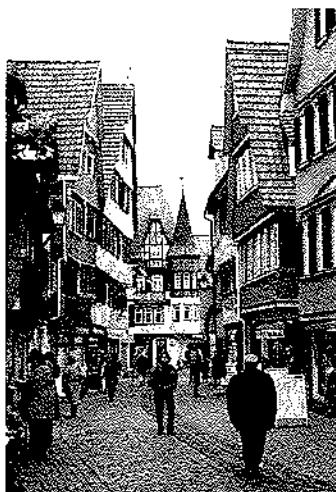
たまたま住んでいる家が旧市街の中にあるので商店、病院、公共機関は殆ど歩いて行ける距離にある。週に三日、月、水、金の午前中、市庁舎前のマルクト広場に立つ市場までは徒歩五分という便利さである。東京に育ち、通学片道一時間半、都心で買い物をするなら一日がかりになることもある、という生活をしてきた者にとっては、どこへも自分の足だけで歩いて行けるというのはなかなか新鮮であるし、なんだか時間をもうけたような気が



元カンゴクの屋根裏からの景色。

する。(だからといってその時間を有効に使っているかというと、これは又別の問題なのだけれど。)もちろん商品の選択肢は大都市にくらべばずっと少ないが、慣れればそれほど気にならない。(でも、自分が着ているものとまったく同じものを着ている人とすれば違ったりする確率は大都市にくらべてはるかに高いわけで、これは互いに気まずいものがある。)

チュービンゲン市では個人商店の反対が強くて、ほかのドイツの都市に見られるようなチェーン店のデパートの建設をさせなかつたというのも街の特徴のひとつだが、十年も住んでいればこの個人商店の人たちとはたいがい顔見知りになる。顔見知りになれば、挨拶を交わすことはもとより軽口をたたいたりするようになる。たわいない日常会話であるが、これがあるとないとでは買い物の楽しみが違う。せまい街のこと(書き忘れたが、その昔市壁に囲まれていた旧市街はタテが400メートル、ヨコが600メートルしかない)、商店に限らずさまざまな場所で職業を通して顔見知りになった人たちと思わぬところで出会ったり、見かけたりすることがよくある。それは、プールであったり、病院であったり、お祭りであったり、講演会であったり、本屋であったりする。そんな時には職業上の顔だけでなく私生活の顔を垣間見るようで、急にその人が親しく感じられたりする。『チュービンゲンって要するに「村」社会の延長じゃない』という声も聞こえてきそうだが、こんなことが



コルンハウス(穀物倉)通り。一段ごとに居住面積が広くなっている建物が旧市街には多く建物がバランスを崩して前のめりに倒れてくるのではないかと思うことがある。これは税金をなるべく収めまいと、こういう建て方にならざるを得ない。



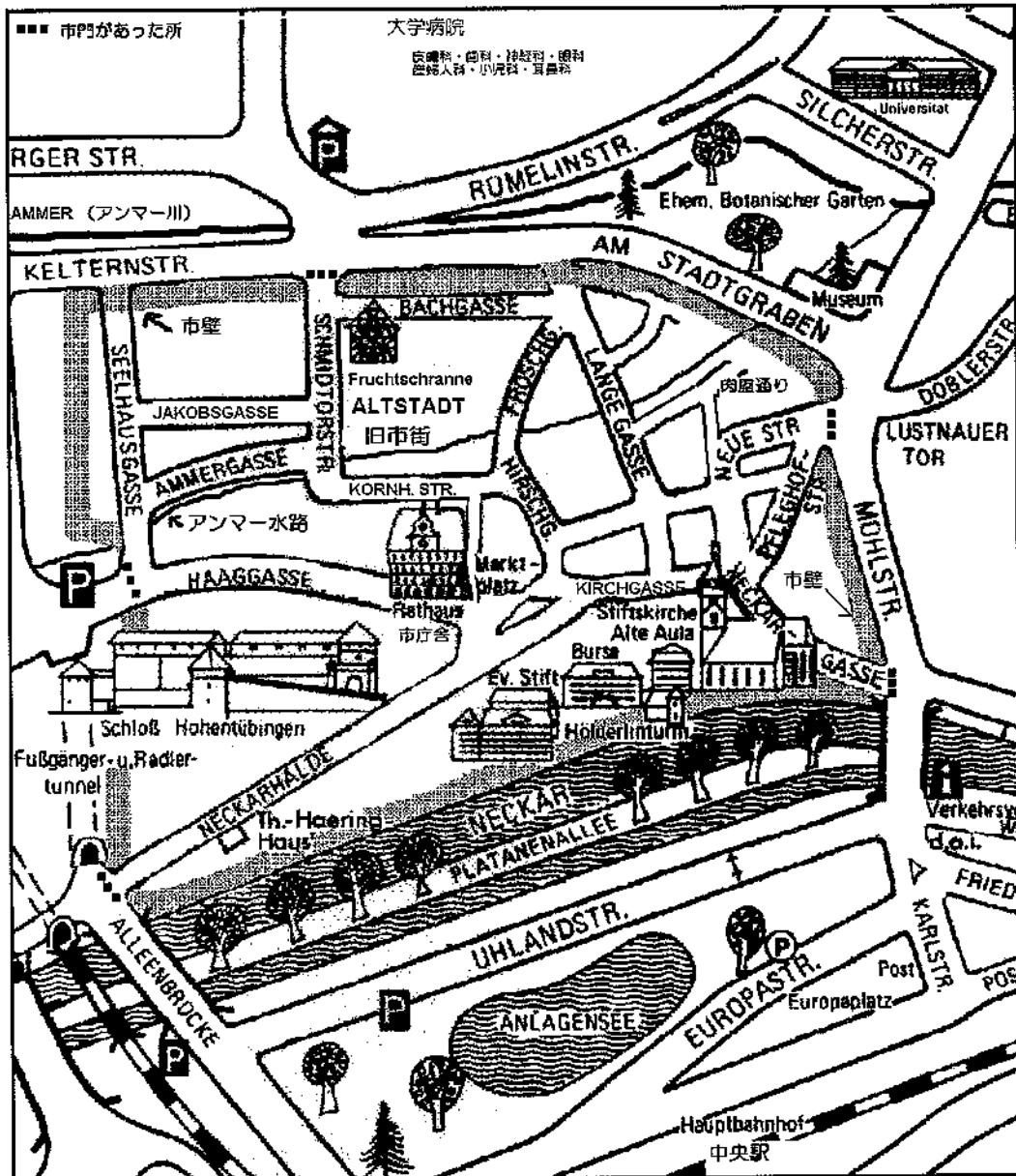
私にはおもしろい。

歴史の証人 としての街

旧市街の中に住んでいると書いたが、実は元監獄に住んでいる。レンガづくりの三階建

てで、三世帯が住んでいる。引っ越してきた時、旧市街特有の天井の低い小さなこじんまりとした家に囲まれて、この家だけが一軒だけ重々しい雰囲気を漂わせているように感じられたわけは、すぐに上の階の住人から明かされたのだった。親の代からここに住んでいのだが、と元高校教師の年金生活者が家の

テュービンゲン市街図



出典「Tübingen, Eine Stadt stellt sich vor」 テュービンゲン観光局を筆者が補筆・修正



歴史を簡単に教えて下さったところによると（親の代からって囚人だったのかしら、と、ふと頭に浮かんだ疑問も、内容が内容だけにとうとう聞きそこねてしまった。まさかね！）1889年頃に監獄として建てられ、第二次大戦後の住居難の時に一般住居として開放されたのだそうだ。監獄だった証拠に二階、三階の窓を外側から見上げれば、鉄格子を切った跡があるし、囚人が作ったらしいオーク材を用いた椅子が屋根裏部屋から出てきたという話も聞いた。1889年といえば明治22年。私の祖母もまだ生まれていない年である。その年に建てられた家が今でも健在で立派に機能している。私にはちょっとした驚きだった。

そういう事情を頭にインプットしたまま街を歩くと、13世紀に築きあげられた市壁跡を始め、一部が12世紀の教会や16世紀に建てられた救貧院が現在でも老人ホームとして機能していることなどにどうしても目がいく。いつ行っても実際に使用しているところを見たことのない水車がある。家並みを見上げれば、屋根のすぐ下に滑車がある家が多く見つかる。家々の表を裏を見え隠れしながら街を西から東に横切って流れている小川をどぶさらいしているのが目に入る。ふだん流れている水は、この時どこを流れているのだろう？あの水車はなに？あの滑車はなに？と、疑問があとからあとからでてくる。

そんなことから、しだいに郷土史家の書いた本を手にとるようになっていったのだが、



ノンネハウス(尼僧院)1310年ごろ建てられた。



アンマー通り。右に見えるのがアンマー水路。

郷土史家と一緒に古い資料を検討しながら、特に昔の地図や写真を見ながら、街の変遷を追っていくのがけっこう楽しいのである。その過程で疑問のなぞ解きがおこなわれたり、また逆に読んだ史実を確かめに街に出ていったりする。

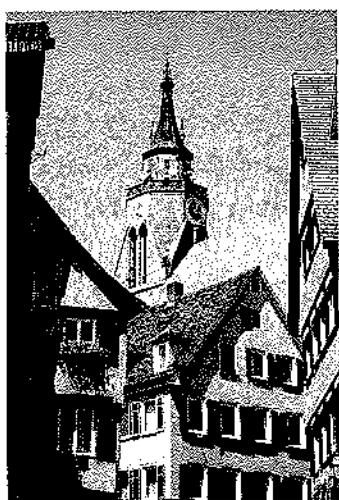
水のある風景は心なごむもので、街を横切る小川は旧市街に風情を添えるものだと思っていたのだが、これが風情なんていうなまやさしいものではなく、中世の生活の必然から人工的に川から水をひいてきた水路であることを、たとえば本で知った。市壁の外側では粉引き屋などのために水車が設置され、壁の内側ではこの水路の両脇に皮なめし商人や屠殺場、肉屋などが集まって、仕事上の水の供給と排水にこの水路を用いていたのである。それで現在印刷所になっている建物が屠殺場という名前をもらっていることや肉屋通りという名前にも納得がいく。この水路がつくられる直前に大火事で一区画全焼している事実があるが、要所要所にあった井戸だけでは消防作業が間に合わなかったのであろう。商工業のためだけではなく消防のためという用途もあったわけである。産業改革の進行につれてなんの用もなきなくなったこの水路は、衛生上の理由からふたをしてしまった時代があったり、埋めてしまおうという議論がありしたそうであるが、現在のところ、水量こそ調節されて減らされているが、ふたをせずにそのままの形で流れている。水車と水車と



の間隔がせますぎて隣同士のけんかが絶えなかったというエピソードを思い浮かべ、ひょっとしたら家のファサードの下の方に水車の軸の跡を見つけられるかもしれないと考えながら、この水路にそって散策するのも楽しい。

「住みやすい」と考えているわけをこの稿をおこす際にじっくりと考えてみたいと書いたが、ここまで書いてみて、なんのことはない「街への愛着」のひとことに尽きるのに気付いた。「住みやすさ」の条件として生活の質の高さも大事だろうが、「FOCUS」の記事に『生活の質の一番低い街と評価されたアンガーミュンデの人たちが気持ちよくくらしているという事実や、一番失業率が低くて生活の質も上位にあるシュタルンベルク湖周辺の人たちがフラストを抱えている事実がある』とあるように、しょせん「住めば都」のことわざ通り、要は、住んでいる街が好きになれるかどうかが「住みやすさ」の核心なのではないだろうか。わたし、チュービンゲンが好きです。

(1996年3月7日 テュービンゲンにて)



ネッカ一通りからシュティフツ教会を望む。

イギリスにおける最近の都市開発について(1)

名古屋都市センター長 加藤 晃

はじめに

昨年（1995）12月にイギリスに都市の再開発や新都市建設を見に出かけた。最近の都市問題をこの目で見たいと思ったからである。昨年の5月まで岐阜大学の学長をしており、外国に行く機会は何度かあったが、学術交流、留学生協定など学長としての仕事が中心で、研究者として私の本来の専門である都市や交通関係は、学長業務のスケジュールに押されてあまり見て廻ることができなかった。このため一種の飢や渴きに似た感じを持っていた。それで退官後すぐに、かつて留学していたスウェーデンとかねてから好感を持っていたドイツなどを中心に、ゆっくりと歩いて渴きを癒した。しかし同時にゆっくりと歩いた分だけ、逆にヨーロッパの都市が持つ魅力、たとえば文化の香りとか、歴史の中に生き続ける都市・公園・住宅などの存在感と成熟社会の現状と未来への展望など、私の関心と興味を引くことも、またこの旅行で呼び起こされた。

こんな背景を引きづりながら、イギリスに都市の新しい動向を探りに出かけた。調査の主眼は新都市開発の動向と都市再開発状況であるが詳細な報告は別の機会にまとめることにして、今回は都市づくりの主としてハード面の整備について、気になったところを軽くまとめてみた。イギリスの都市に关心のある向きや見解の異なる方々とこの小文を機会にお話ができれば幸いである。

イギリスのニュータウン（NT）の生い立ちと発展

イギリスが世界に誇れる歴史的な文化遺産は何かと改めて問われると直ちに答えることはむずかしいが、一般的には、産業革命の発祥の地、議会制民主主義と政治体制の国、資本主義の理念と理論を発展させてきた国などが答えられるであろうが、New Town（NT）開発もその中に加えて良いのではないかと私などは思うのである。都市に関心のある方はご存知のことであるが、イギリスのNT開発は、かの有名な E. Howard が、著書 Garden Cities of Tomorrow (1902) で、人間が住む理想的な都市は田園的な環境を持つ都市として、田園都市の建設を提案し、具体的に Letchworth (1903)、Welwyn (1920) を誕生させた。ここからヨーロッパの多くのニュータウン開発やアメリカの Garden Suburb といわれる郊外型の高級住宅団地や、わが国の戦前の田園調布、戦後の千里・多摩・高藏寺などのニュータウンの計画建設に大きな影響を与えてきたのである。

こう書くと、イギリスのNT開発は順調に



加藤 晃 (かとう あきら)

1929年 名古屋市生まれ
1955年 京都大学大学院工学研究科修士課程修了
1966年 岐阜大学工学部教授
1983年 岐阜大学長
1995年 7月から現職
著書 都市交通論 (鹿島出版会)
都市計画概論 (共立出版)
その他 多数

発展してきたように見えるが、その発展過程は平坦な道ではなくむしろ苦難な道を曲折しながら進めてきたといった方がよいであろう。Letchworth でも Welwyn でも都市建設は Garden City Corporation という会社が設立されて、この会社が土地を買うところから都市建設が始められた。したがって資金力にも政治的にも不安定な部分が多く、Howard の理念の具体化は上記の二都市以外は遅々として進まなかった。やがて NT の建設は国による建設推進が必要であるという認識が議会の中に拡がり、1940年にその具体化を示した Barlow Report が議会に提出されて、国が関与した NT 建設が進められることとなったが、戦争が激化し、個別の都市建設が進められるのは戦後のこととなった。しかし、この Barlow R. の中に、①国が NT 建設に係わる中央組織を持つこと、②過密地域における再開発と産業・人口の分散施策を推進することなどの項目が入っていた。

戦後 London や Birmingham 等の大都市の戦災復興を図る方策として NTに対する関心は非常に高くなり、その建設推進を図ることとなった。この推進のためには土地取得が必要なことと、従前の田園都市の理念である田園的環境を新都市の中に保持することの困難さから都市開発をコンパクトにすることが提案された。また London については1944年に the Greater London Development plan が策定されて、London の人口を分散する計画が示され、その受け皿として NT 建設の計画が策定された。

1945年社会党政権下でニュータウン委員会 (New Town Committee) が設置され、さらに1962年に組織が強化された。この NT の開発を地方政府（県・市等）、非営利の協会、私企業、中央政府のいずれが行うのが良いか検討があり、最終結論として開発公社方式（日本でいえば住都公団に当たる）が採用され、1946年に the New Town Act という法律制

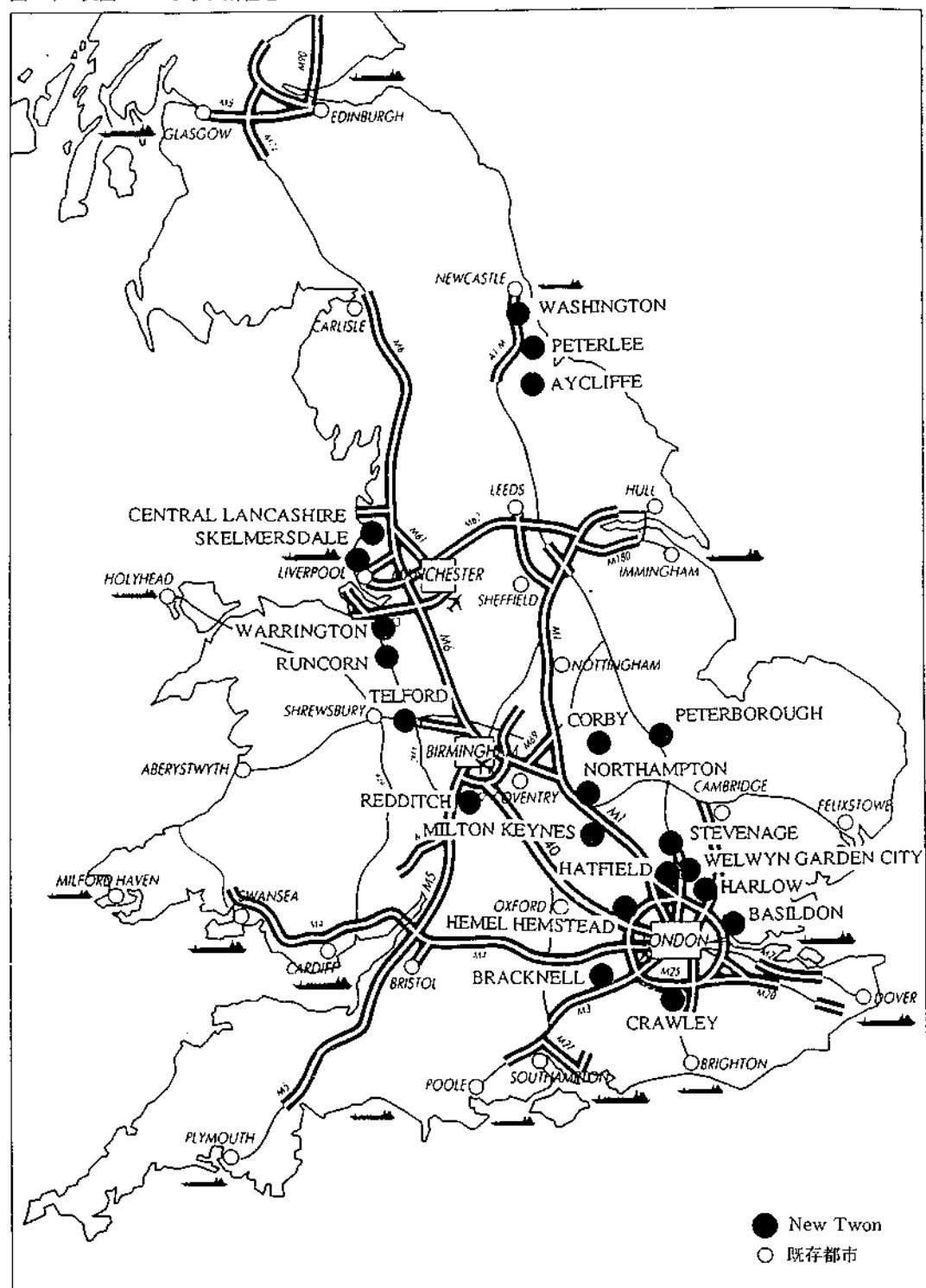
定によって多くの NT の建設が進められることがとなった。公社の組織は担当大臣を通して国会に責任のある非政治的な存在で、NT の開発整備に全責任を負うもので、計画の決定は9人で構成される委員会が行っている。

イギリスの NT は整備時期によって1、2、3期に分けられる。1946～1950年の間に着手された London 周辺40km圏内の11の NT と中部 England や Scotland などの3NT がこれに含まれる。たとえば Hatfield、Harlow、Stevenage、Corby (Birmingham 近郊) などがこれに相当する。London 周辺の NT は過密な London 中心部からグリーンベルトの外側に人口を段階的に分散させることを目的として Greater London Plan の中に位置づけられた。London 周辺以外の NT は地方の雇用の多様化や住宅需要に応えるものとして計画された。第1期の NT は田園都市の理念の影響が強く残っており、人口密度も低く計画され、緑地や農地も多く、計画論としては、C. A. Perry の近隣住区計画の考え方が導入された。

しかし近隣住区の構想は必ずしも十分機能しなかったし、低密度な開発は広大な土地を必要とし効率的でないことと、環境維持も大きな問題となってきたので、政府は NT の計画見直しを行ない、1961～1967年の間に London 周辺や北 England に新しく8個の NT を指定した。この時期の NT を第2期の NT と呼んでいる。Cumbernauld、Runcorn、Washington (New Castle 郊外、北 England) などの NT がこの期に相当する。

この期の NT は経済的に自立ができそうな地域が多く選ばれており、計画手法としても近隣住区は余り重視せず、NT の中心には office、shopping center などの集積度の高い one center 方式が採用された。各住区は直接このセンターに結びつく計画となっている。この one center 方式は住宅地が拡大するとセンターへのアクセスが悪くなり、またセン

図一1 英国ニュータウン所在地



ターを拡大するとNTとしての土地利用と環境維持が問題となるという矛盾を抱えており、NTの拡大には限界を持っていた。

1960年代は世界的に経済が安定した時期であり、先進各国では大都市への人口流入が続いた。イギリスにおいてもLondonへの人口流入が続き Greater London Planで掲げた London の過密解消はできないで、1960年代後半に再び人口と産業の再配置が国土計画の課題とされた。この解決策として London の事業所、特に工業の立地規制を行うと共に、London の都市魅力に対応できる既存都市を中心とした人口10万以上の New City を建設することが政策として採択された。これが第3期のNTであるが、これはニュータウンというより既存の小都市の再生拡大であり、Howardが唱えた田園都市の理念からはかなり外れたNTとなり、呼び方も New Town ではなく一般的には New City と呼ばれた。この時期の代表的な都市 Milton Keynes は計画人口25万人、Central Lancashire は45万人であった。この1960年代後半の London への工業や事業所の規制政策は、日本の国土総合計画でも若干時期をずらして取入れられており興味がある。

この時期のNTは London の魅力に対抗できる New City ということで、経済的な面に重点が置かれ、民間企業の活動ができるようにした。民間企業が土地・建物の売却、賃貸が行えるようになったが、それでもNT全体でみた資産内容は、開発公社が約70%、国・州・市町村が約15%、民間が同じく15%の比率である。

1973年に第1次のオイルショックが起きると、世界の経済は一転して停滞期に入った。特にイギリスでは過去の栄光からみて落ち込みが強いといわれ、London、Birmingham等の大都市の衰退が問題となった。この検討の結果NT等への分散政策が見直され、1970年代後半から既存都市の再開発、特に大都市内

部の荒廃地区再生に政策の重点が置かれるようになつた。その結果1979年に Inner Urban Areas Act (市街地内部整備法) が策定されて、大都市を中心に都市の新しい再開発、再生化が図られることとなつたが、この件については、次回に再開発問題として述べよう。

イギリスのNTの開発は、各NTごとの開発公社（たとえば Milton Keynes 開発公社）が担当するが、この公社による開発が当初の開発目標に到達すると、各NTを通じた一元的な管理運営のために、全組織のニュータウン委員会に移管されることになる。

このような歴史的背景を持つNTは次のようないくつかの特徴をもつている。

1. NTはそれ自体で自立した都市である
2. 公共の視点から開発がコントロールされる
3. 政府の住宅政策などの社会基盤がしっかりしている
4. 産業、住宅、文化、自然などの各都市要素の調和を考えた土地利用計画がなされている
5. 地域の独自性を尊重している
6. 既存の大都市との連携が重視され、交通の利便がよい
7. 都市拡張がコントロールされている。

先にも述べたように第3期のNT以降では産業立地も積極的に進められている。このNTへの企業進出は、日本の企業も活発であり1993年現在のデータでは120社以上の企業が、Milton Keynes (47社)、Telford (24社)、Washington (15社)などを中心に進出して活動をしている。この中には日産自動車 (Washington)、ニコン、セイコー (Telford)、日本電気 (Milton Keynes) などの有名企業も見られる。

これらのNTの位置をまとめたものが図-1である。

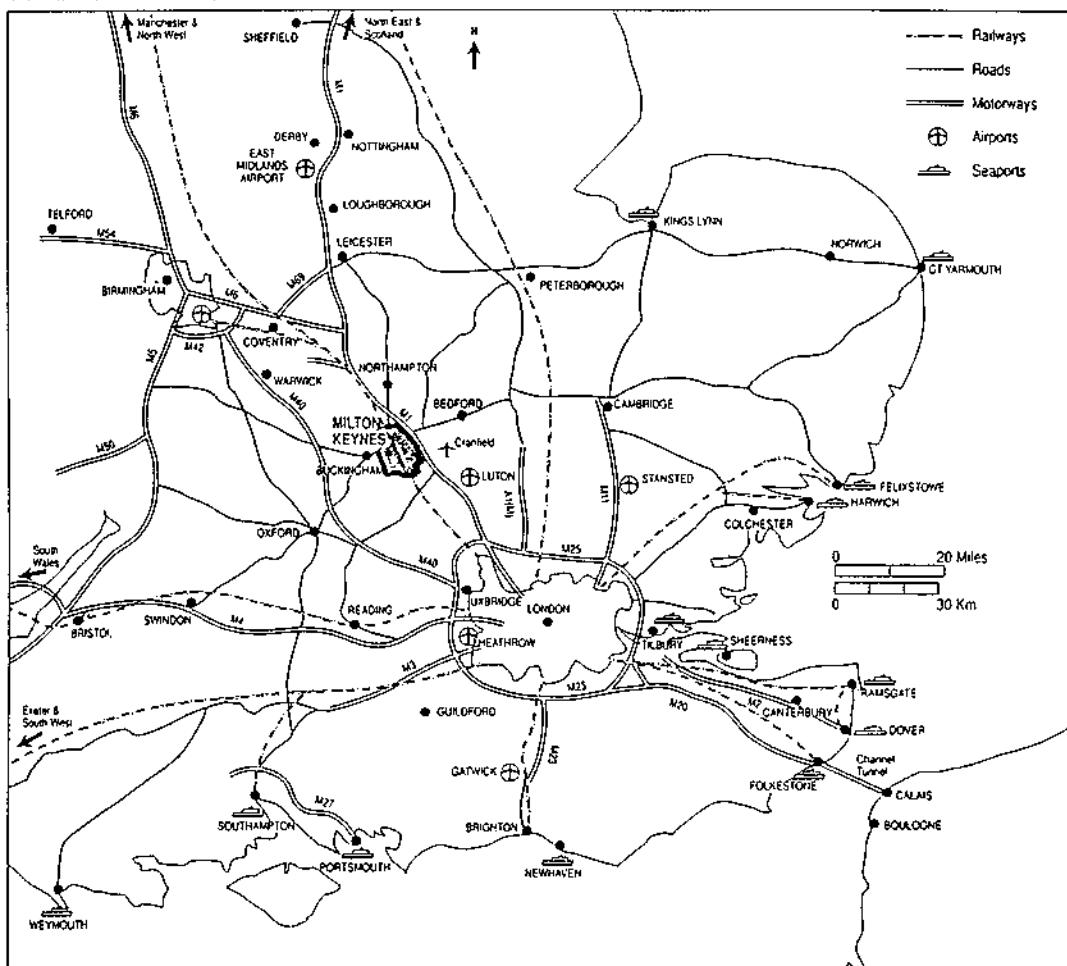
新しいNew Townの一例、Milton Keynes

第3期のNTの一例として Milton Keynes の概要を紹介しておこう。Milton Keynes は図-1からも判るように、London と中部 England の拠点都市 Birmingham (古くからの工業都市、最近は商業や Business、Convention を中心とした拠点都市、名古屋にイメージ的に似ている)との間に位置して、イギリスの最重要の高速道路 M-1 に接しており、また鉄道も London から Birmingham、Manchester 方面への鉄道幹線沿いで、London-Euston 駅から快速列車に乗り45分程で Cen-

tral M.K.駅に到着できる。また空港も London Heathrow、Birmingham の国際空港へ車で約1時間で行ける場所にある。

Milton Keynes の計画は、英国全体の国土計画の中で人口増にどう対処するかという問題から始まった。Londonを中心とする South East England 地域は、1960年から2000年間に、人口の自然増で240万人、他地域と外国からの流入人口を含めると350万人の増加が予測された。この人口増は放置すれば Londonへの集中につながり、経済的にもバランスを欠くことになるので、その対策案が必要とされた。そして前述のような New City 構想の成長都市を育成することが求め

図-2 Milton Keynesの位置

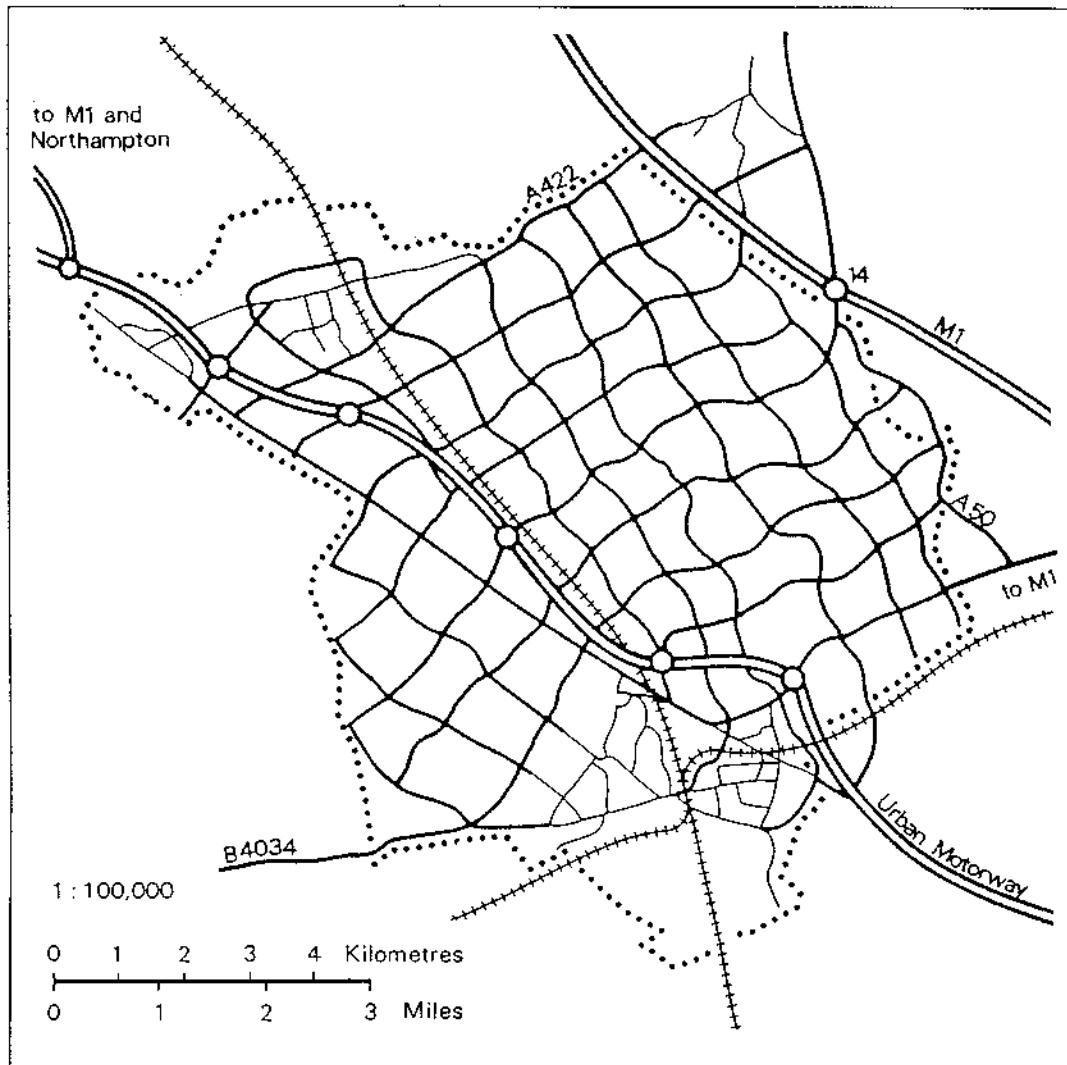


られた。この New City は小規模な開発では力不足で、工業・商業も成長を図り、都市的なサービスもできることが必要とされた。このためには道路、鉄道、空港、港湾へのアクセスが良いことが重要な条件であった。Milton Keynes の核になった Bletchley (1960年の人口16,000人) は、この条件を備えてる成長センターに位置づけされた。

1966年に時の Willson 内閣の住宅・地方行政省が Milton Keynes の計画を出した。具体的な NT の指定は1967年で、当初は 3 つの町

村を合併し、巨大な新工業都市を造るというもので、計画人口は25万人とされた。しかしこの New City の最終目標をどうするかについては引き続き議論が続けられた。そして結論として「住民が選択の自由を享受できること」が第一の目標とされた。そして、住居密度をこれまでの NT よりは高くし、自動車を使い易くする（各戸ガレージ付き）と共に鉄道バスの公共交通の利用を重視する。また緑地と景観に配慮した都市というのが計画のコンセプトであった。

図-3 Milton Keynesのマスター・プラン



具体的な都市構造は、図-3に示すように幹線道路のネットワークが、イギリスの都市でよく用いられる放射環状パターンではなく、地形に沿った形で1km間隔の格子型パターンである。そして Milton Keynes の丘陵部を住宅地として開発すると同時に、鉄道の中央駅がある平坦地を都心地区としてショッピングセンター、業務センターとして整備し、その地区的東側に緑地公園を置く構成となっている。格子型パターンが採用されたのはループ道路による方向感覚を失くさないためと説明されている。

計画策定について行われた議論の中で重要なことは、住民の所得階層のどこに的を絞るかということと、集中型のNTにするのか分散型のNTにするのか、の議論であった。結論的には、地区を分けて低所得者も中所得者もまた管理職も住める都市とすることにし、住宅地は分散配置、City Centerにはショッピング、文化施設、レジャー施設、オフィスビルを集中させるという両論併記的な計画が、それなりにうまくこなされて計画策定された。この点は写真をあまり撮ってこなかったので視覚的にお伝えできないのが残念である。

また新しい都市施設としてEnergy Parkというエネルギー供給の共同施設を作り、省エネと環境改善に取組んだり、Central Business Exchangeという型で、Business Officeの中にホテル、会議室、マルチメディア、コンピューター施設、小売店を組込んだものを整備しているのも New City Milton Keynes の特色であろう。

1993年までに総投資額28億ポンド、雇用数7万5千人、人口15万3千人、住宅5万6千戸、進出企業はイギリスが最も多いが、アメリカ、日本、スウェーデン、フランス等を含めて2700社、商業用地240万 ft²の規模にまで成長している。日本の企業ではNEC、ミノルタが英国本社を、アルプス電気、ヤマハ、森精機等が製造工場を、ノリタケ、豊田工機など

が物流拠点を置いている。また Milton Keynes 開発公社は積極的に日本にアプローチしており、東京に事務所も設置してPR活動を続けている。

イギリスのNT開発については1981年のNew Town Act(ニュータウン法)によって年次報告が出されており、1991年、1992年に30巻、31巻として Milton Keynes と Telford の報告がまとめられている。

新しい動き Sience Park について

Sience Park とは何か、その定義は国によってあるいは開発組織によってかなり異なっている。1970年代アメリカの Boston郊外で緑地の中に点在する工業団地のことを Industrial Park と呼んだことから、団地的な開発を Park と位置づけることが多い。Sience Park の概念は、先端技術とその関連産業の育成を目指して、大学や研究所と企業が協力して研究開発活動を行う特別な地域と考えられる。日本では通産省が指定したテクノポリス(高度技術工業集積地域)と類似した新都市あるいは特別地域といったところであろう。

英國では最近この Sience Park ないしはそれと類似したものを Technology Park、Research Park、Inovation Centerなどの名称で呼んでいる。イギリス各地でこの Sience Park を中心とした地域開発計画が進行している。いずれにしても大学等の研究機関と提携しながら、知識集約的な産業開発、新技術や経営のノウハウを産業に移転する目的で行われる地域開発を指している。協力大学には、Cambridge、Oxfordなどの有名大学も加ってそれぞれの大学町を中心に関連産業と地域の開発を進めている。現在イギリスでは約40個所に Sience Park に類似したものがある。各 Sience Park の中味はそれぞれ異なるが、大学等の研究機関が組込まれた地域開発であることは間違いない。この点では名古屋市が守

山区志段味地区に計画しているサイエンスパークも性格は同じで、高度な研究機関の誘致と良い住居環境の地域整備を指向しているものである。

イギリスの Sience Park は提携している研究機関の性格を反映して内容はそれぞれ異なる。規模もビル一棟の中に数社が入っているものから50ha の敷地を有するものまで多様である。この Sience Park が設置されている場所も都市の再開発地区、緑地の中、工業地域、大学のキャンパス内などさまざまであるが、イギリス政府がサッチャー政権以降、技術開発による経済発展を重要な政策の柱としているので、交通・情報などの社会基盤整備を国家の支援を受けて整備し、地域開発の新しい目になっているので、先の New City とは違った点で注目に値する。日本からもシャープ、日産自動車、三菱電機、ブライザーなど多くの企業が各地の Sience Park の中に立地している。シャープは Oxford Sience Park の中にヨーロッパ研究所を設置しており、三菱電機は Birmingham Research Park に研究開発センターを設置している。

こうした Sience Park は、大学側が主体的に動いて創設して行ったもの（例：Birmingham の Aston Sience Park、Aston 大学が中心、Cambridge Sience Park、Sience Park の第 1 号で Cambridge 大学が中心）、地方の行政が中心になったもの（Wavertree Technology Park、Liverpool 市が中心、大学は Liverpool Univ.）、また地域と大学以外の研究施設が中心となって発展をしたものなど多様である。

Sience Park が注目に値するのは、イギリスの都市活動の平均より活力が高いことである。イギリスに資本投資をした日本企業はヨーロッパ全体の約40%にあたるが、総括的な支店機能を除けば、工場と物流センター、それに情報収取機能、知識集約の企業展開の芽の育成と人材養成である。そのかなりの部分

が Sience Park に係わっているからである。

図-4 はソニーが進出をした Liverpool の Wavertree Technology Park の位置図である。

図-4



名古屋都市センターシンポジウム

「名古屋って どんな街 どんな顔!?」

都市にはそれが持つイメージがあります。横浜は「港町」、京都は「千年の古都」、大阪は「食い倒れ」などと都市を積極的に印象づけ、都市の魅力を感じさせるイメージがあります。

さて、名古屋にはどんなイメージがあるのでしょうか。「名古屋城」「広い道路」などが連想され、「地味」「保守的」「堅実」と消極的なイメージが定着しているようです。雑誌で「住みたくない街」と扱われ、「冗談都市」と揶揄されたこともあります。残念ながら対外的にはあまり良い印象をもたれていないのも現実です。

そんな中で、様々な名古屋論を主張する人と市民といっしょに楽しみながら名古屋を考えようと、シンポジウムを開催しました。このシンポジウムが、名古屋に対する愛着心を育むとともに本当の名古屋の姿を探るきっかけになれば幸いです。

トーク

「されど、わがまち」

兵藤ゆき

ディベート

「名古屋ってどんな街 どんな顔 紅白名古屋合戦」

紅 組

白 組

| | |
|----|----|
| 兵藤 | ゆき |
| 井沢 | 知旦 |
| 小堀 | 誠 |
| 岩中 | 祥史 |
| 橋爪 | 紳也 |
| 新田 | 敦生 |

されど、わがまち

兵藤ゆき

兵藤：「されど、わがまち」といわれても、私の場合たまたま生まれたのが名古屋だったということですよね。親が名古屋を離れなかつたからずっと名古屋にいたというだけのことと、気が付いたら名古屋出身ということになつたわけですよね。

天野：田舎の人にとて、東京とか大阪は都会すぎて恐い所。でも名古屋には「ほどよい」良さがあると言う。名古屋はおとなしめの都会なんです。僕は四日市で生まれ、東京の大学へ行って、名古屋の放送局に就職するため名古屋へ來ました。東京に対してはまだ半分憧れみたいなものがあるけれど、名古屋は住むのにほどよい。ぬるま湯的というか、自分がそれに染まっていくというのか、そういうものを感じますよ。

兵藤：私、ファッショントレーナーになるつもりで、その関係の学校へ通つたんですよ。二十歳ぐらいの時かな、布なんかを買ひに行こうと思い、一人で東京へ行った。二十歳で初めて一人で東京へ行くのは遅い方ですよね。バンドや劇団をやってて忙しかつたから、東京とか大阪へ遊びに行くという感覚が全然なかつた。で、「麻布センター」なんてビルがあるから、麻の布の問屋かなと思って入つたら、普通の会社の事務所。そんな程度の認識だつたから、特に東京に憧れるなんてことはなかつた。ただ、驚いたのは駅前に東海銀行がなかつたこと。それから「寿がきや」もない。名古屋で生まれ育つてしまうと、いかに全て名古屋の中でまかんわれてしまつてゐるか、その時わかりました。名鉄電車は東京でも走

っていると思ってたし、東京ガスなんて小さな会社かと思ったら、東邦ガスよりずっと大きい。そうだったのかと気付いてからは馴染むのが速かつたですね。渋谷は名古屋駅周辺、六本木は榮みたいなものだと、さほどうろたえなかつた。これが、猩のいるような里から出てくると、東京のことを「わあ一都會」と思つてしまふかもしれない。

●カンボジアで昔の名古屋を見た

その後、仕事で世界各国へ行くようになりましたけど、どこへ行つても驚かない。先日もカンボジアへ行つきました。新しい政府ができて2年半。まだ道路も整備されていなくてデッコンボックン。その道路の傍にニワトリがいて、馬がダーッと走つてゐる。そういう姿で昔の名古屋でもあつたでしょう。ドロドロの道とか。名古屋駅裏の辺りはあやしい地域がありましたよね。ダメと言われても、どうしても見に行きたくなるような場所。そういう光景を見てゐるから、カンボジアで初めて見るが故のカルチャーショックってのはなかつたし、別に恐くないんですよね。汚いものからきれいなものまで、普段着のものから



兵藤ゆき (ひょうどう ゆき)

タレント

愛知県生まれ。東海ラジオの深夜番組DJで人気者になる。同ラジオ「ナゴヤ・フォークタウン」「民話の小箱」などにレギュラー出演。現在、文京女子大学在学中。著書に『ニューヨークの大たち』など。

スカシたものまでを、昭和の中期頃に名古屋で見てるんですよ。だから、ごちゃごちゃしていた昔の名古屋が私を鍛えてくれたと思う。今の高校生ぐらいの子はカンボジアへ行くと「こんなのが見たことない」とか「かわいそう」とか言いそう。時代の違いもあるでしょうけれど、見せ物小屋なんかもあって、名古屋はなんでもありだった。それが最近は名古屋へ帰ってきてもつまらない、と年々そう思う。

今の名古屋は全部スカシてしまったところがあるでしょう。島田橋のたもとにできたコンクリートのオブジェは一体何ですか。名古屋駅の西側もきれいになって、色の変わら人工的な花ができてしまった。で、ホッとするのは名古屋港の「金鯱号」だけ。あれを見ると、名古屋ってこういうことだよね、と思う。

それから100m道路の所、高速の下にアスレチックができました。でも、ホームレスたちが住んでるから市民はあそこで遊べない。水飲み場やトイレもあるけど、何かジット見られたりする。待てよ、これって私たちの税金で造ったんじゃないの、って感じですよね。

天野：でも、そういう所を残しておきたいんでしょう？

兵藤：でも、なんか趣旨が違う。アスレチックを造っても、ああなってしまうんでしょう？ だったら、初めから、あそこにホームレスの人たちが住む家を建てた方が納得できる。「名古屋は高速の下にホームレスたちの家があるのよ」なんて余所で自慢できるじゃないですか。なんか、やることがズレてる。

●ニューヨークは無秩序の中に秩序がある

ニューヨークもよく行くけど、まちのつくり方が納得できる。摩天楼や自由の女神があるマンハッタン区は、その縦20キロ、横4キロの区域に、ブッシュマンとインディアン以外の世界中の民族が住んでます。ホームレスが住みやすい所、少しお金持ちが住む所、す

ごいお金持ちが住む所、すごく貧しい人たちが住む所、そんなふうに色分けができている。だけど、セントラルパークへ行くと貧富の差がない。セントラルパークはすごく大きな公園で、四季折々の季節を感じられ、雨が降ると土がドロドロになるような場所。どこに住んでいるかは関係なく、皆そこで日向ぼっこなんかして過ごす。ニューヨークは犯罪都市だというけれど、逆にあれだけ価値観の違う人たちが住んでいるくせに、よくあれだけの犯罪率で済んでるなあと感心する。無秩序の中に秩序がある。ただ政策についてはいろいろと問題があります。赤字がすごかったり、あるいは福祉や教育面の予算を削減すると言ってるくらいだから大変なんです。だけど、彼らはそういう状況の中でも、どうしたら住みやすくできるかを個人個人がきちんと考えて生活してる。きんさん、ぎんさんのように長生きできればいいけれど、寿命は80。そうすると市の政策を待っていては間に合わない。だから、自分たちでいかに住みやすくするかが大切なわけですよ。

私は親や友人が名古屋にいるから帰ってくるだけで、このまちが好きだからではない。どうせ行くならニューヨーク、という感じ。天野さんはどこのまちが好きですか。

●都市は個人を大切にする

天野：僕は東京が好きです。自分を大切にできる、つまり自分の心の中に相手が入って来ないところがあるから。冬でも本人が寒くなればコートなんて着なくても構わないわけ



天野良春（あまの よしはる）

東海ラジオアナウンサー

でしょ。寒ければ10月から着てもいい。ところが名古屋はそういうことにも介入してくる。「10月なのにまだ半袖着てるわよ」とか。それは、人の心の中に土足で入ってくるようなことだと思う。そういう意味で、東京のような都市は、都市全体が個人を大切にしていると思う。お節介な部分が都市にはない。だから過ごしやすい。

兵藤：お節介も、いざという時は助かりますけどね。かといって、お節介さはなくとも、東京だっていざという時はなんとかなるんですよ。私は東京ではマンションに住んでますが、そこの住人とは「こんにちわ」と挨拶する程度の付き合いです。先日、非常ベルが鳴った。東京は冷たいまちだというから、きっと誰も様子を見に外へは出て来ないと思った。ところが、ほとんどの世帯の男の人たちが外へ出ていました。きっと、皆一人ひとりで住んでいるから、何かの時には助け合おうという気があるんじゃないかな。

天野：僕は四日市の片田舎に住んでいたわけですよ。現在では全く使わない言葉だと思うけれど、父母が「あそこの家は入り人だから」という言い方をしたものです。転勤なんかで他の土地から来た人を「入り人」というわけです。そういう人が多くなると、そういう言葉はなくなってしまう。名古屋も名東区なんかは「入り人」が半分を超えてるでしょう。うちの子供は名東区の小・中学校を卒業しましたが、春になると40~50人が転校で入れ替わります。そうなると、文化というか、子供たちの付き合い方も変わってくるような気がする。この子と仲良しになろう、という感覚が段々なくなっている。少し薄っぺらい感じがするけれど、ちょっと付き合って、また新しい子と、という感覚があるかもしれません。でもその分だけ人のことを考えられるようになった気がしますね。

●住みたいまちは尾道、花巻だけど

兵藤：難しいのかもしれないね、名古屋は。私が日本の中で好きなまちは、広島の尾道と岩手の花巻なんですよ。花巻は、人の出入りはないけれど、かといって過疎化はしておらず、農業と観光がうまくミックスされている。そこに加えて宮沢賢治、ということがある。それから「紅花」ね。そういうものの産地だということにも惹かれる。ポアーンとした良さがある。それから、尾道は立地条件がいい。向かえに因島があって、瀬戸内海がある。そして上方の公園から見下ろす町は、林美美子さんの、手にとれるくらいの大きさで、人生を考える場所がある、という感じ。いずれ住みたいと思うのは、日本ならば尾道。でも、それは景色だけを見てそう言うだけで、名古屋の友だちが皆、尾道に引っ越してくれたら尾道に住みたい、ということ。でも、それは無理な話。

●人が住みやすいまちをつくる

今日配布された参考資料の中に、名古屋が誇れる「日本一なもの」というのがある。でも、それがどうした、と私なんかは思う。そのことが住みやすい町かどうかとは関係ない。だだっ広い濃尾平野という立地条件を生かした何かを考えた方がいい。道路が自慢とかいうのは、産業振興にはいいわけですよ。でも、栄や名古屋駅周辺で働いている人たちは、一生の内の何分の一かはそこのビルに住んでいるわけでしょう。その周囲には木もない、鳥もない。人生80年しかないので、こうして暮らしていくのが幸せなのかな。つくり方がちょっと違うんじゃないかな、という気がする。そう思うと、尾道へ行ってしまおうか、と思う。

でも、今までずっと名古屋に税金払ってきたんですよ。「敬老バス」だってそのうち貰え

るわけだから、貰えた時にタダで栄へ行きたい。でもその時、コンクリートだらけの所で、どうやっておばあちゃんが遊ぶの？ それに、老人ホームをつくって、歳をとったらそこに入れればいいと思ってるみたいだけれど、それは違う。人がガチャガチャいる所で生きて死ぬのが人間の暮らしだと思う。そう思うと、自分で名古屋に生まれたことを選んだわけではないけれど、せっかく名古屋に住んで税金だって払っているわけだから、元をとりたいと思う。だから、なんでこんな必要のないものを造ったんだろうとか、なんでこの木を伐ったんだろうとか、そう思うとムッとする。

天野：やはり都會の開発にはそういうことが伴うでしょう。

兵藤：いや、あれは開発ではない。勘違いしていると思う。宇宙ステーションみたいにして、それが本当の開発だろうか。企業とか学者が自分の英知を試したいがためにやってるのではないか、と疑いたくなることはありませんか。フランスの核実験にしても、自国を守るためなんて、そんなこと今どき通用しませんよ。

いずれにせよ今後、開発ということになると、名古屋は一番ややこしい地域ですよね。都會として中途半端な大きさがあり、人も入ってくる。今は大阪でも東京でも名古屋でも同じようなもの。広島だってこんな感じですよ。じゃあ、名古屋って一体なんだろう。

天野：神戸とか横浜へ若い人は行きたいと思うでしょ。でも逆に、博多や岡山や神戸の人があなたへ来たいとは言わない。開発は同じように進んでおり、またどこの都市でも同じような悩みもある。ところが、名古屋は開発の途中で魅力的なものを残さずに来てしまったような感じがします。

●名古屋はド田舎でいけばいい

兵藤：でも横浜ってイメージだけが先行して

いる感じがする。異国との貿易と、青い目のお人形さんのイメージばかりで、まちのつくり方としては同じようなものでしょ。じゃあ、名古屋のイメージをどうするかといつても、イメージなんて最初からない。いや、ド田舎というイメージがある。だったらド田舎でいけばいいのに、変にスカシちゃうからややこしい。

まず、高速道路下と栄セントラルパークのコンクリートをひっぺ返すこと。木を植えて、鳥や兜虫が来るようにならね。ニューヨークのセントラルパークなんてリスが走ってますよ。やっぱりイメージだけじゃなくて、住んでいる人たちが本当に憩える場所がほしい。森林浴ができる、犬を放して遊べる、そんな感じが私は好き。

要するに、住んでる者にとってはイメージなんてどうでもいいわけですよ。帰ってきた時に疲れがとれて、「よし、また東京へ行って金を稼いでこよう」という感じを起こさせるまちであってほしい。今は名古屋もどこも一緒だな、という感じしかしない。

80歳まで生きるとしても、もうあまり時間がないけれど、その間に名古屋って変わるかな。これから市に陳情したら、いつになるんだろう。コンクリートで埋めるのは速いけど、逆に、これをはがす話になると20~30年かかる気がする。そういう流れの中では、本当に私たちなんて泡沫ですからね。エッという間に終わってしまう。だから、変わらないでいてほしい部分もあるし、変わってほしい部分もある。ただし、優しさを残しながら。もう一度、名古屋は優しさというものを考え直した方がいいと思う。優しくなさすぎているような気がするからね。

名古屋ってどんな街 どんな顔 紅白名古屋合戦

堀内：兵藤さんと天野さんのお話の中で一番印象的だったのは、「ほどよい」という言葉です。「名古屋ってほどよいね」と言いながらどんどん話をふくらましておられましたね。

今からは、親名古屋派の赤組と、少し離れた立場から名古屋を客観的に見ている白組に分かれて、ディベートをしてみたいと思います。たぶんいろんな料理が出てきます。赤組の作った料理、白組の作った料理。会場の皆さんにも味付けをしていただきたいと思います。

それでは最初に、名古屋では非ここはお友達に紹介したいという場所があるとしたら、それはどこですか。またその理由は。赤組の方からお願ひいたします。

小堀：中村公園です。理由は、会社が近いので詳しい。説明しやすいからです。熱田神宮のような観光地は改めて行ったことがないので、あまり知らないんですよ。

井沢：私の職場は矢場町にありますので、若宮大通りと久屋大通り。あれはあれなりにインパクトがあるものですから。先ほどのホームレスの話も含めて（笑）。

兵藤：面白い、話が尽きない所ならば、若宮大通のアスレチックの所と島田橋と金鯱の

船ですね。

堀内：では、今度は白組の方に質問します。岩中さんはたくさんご本をお書きになってますが、「名古屋学」は何部売されましたか。他の著書と比べて売れ行きはどうでしたか。

岩中：4万部です。あれは値段が高いですね。名古屋の人はしまり屋だで、あんまり買ってもらえないわね。「名古屋の謎だぎやあ」は文庫本だったので、ドエリヤア売れた（笑）。

堀内：いいですね。橋爪先生は名古屋の人が名古屋にどういうイメージを持っているかをお調べになったんですが、その中で一番面白かったのはどんなことですか。

橋爪：「面白くない」という回答が多いのが面白いですね。それから「バランスがとれていてほどほどで良い」というようなのが僕らから見たら面白い。

堀内：なるほど。新田さんは名古屋へ来られてまだ数年とのことですが、名古屋へ行けと言われた時のお気持ちはいかがでしたか。

新田：名古屋のお笑いをつくる、新しいことができると思ってワクワクしてました。今はちょっと壁にぶち当たってますけれど。

堀内：新たな挑戦をなさっているわけですね。では料理の仕方を変えて、小堀さん、作って



堀内 守（ほりうち まもる）

元名古屋大学大学院教授
1932年長野県生まれ。東京大学卒業。名古屋大学教育学部長を経て、現職。「やろまい」「大正村」の企画など、ユニークなまちづくり活動を展開している。著書に『なごや深層ウォッチング』『手の宇宙誌』など。



小堀 誠（こほり まこと）

タウン誌「CHEEK」代表取締役
1951年三重県生まれ。名城大学卒業。（株）CBC広告勤務の後、85年株式会社流行発信を設立。月刊「CHEEK」发行人。その他マスコミ関連会社の役員等を兼任し、文字どおり名古屋の情報・流行を発信している。

らっしゃる雑誌の宣伝を名古屋式でやってみてください。

小堀：「490頁で、たったの500円」。名古屋で物を売る時は、重厚長大でお得、がキーワードです。ぶ厚いけれど安い。東京の雑誌を名古屋の人が読まされる時代はもう終わりかな、という気がしてます。

井沢：「これからは東京の雑誌を読む時代じゃなくて」というところはホンマかな、と思いながら聞いてました（笑）。

堀内：岩中さんは「名古屋学」を書かれた時、どういう読者を想定されたのですか。

岩中：名古屋の人です。名古屋人は他からどう思われるかをすごく気に掛けとる。だから、「あんたらが思つることは間違つませんよ」とメッセージを送ろうと思った。

●名古屋には川がない、歌もない

堀内：では最初のテーマは、名古屋の川についてです。他都市と異なり、名古屋は街の真ん中に川が流れていません。堀川がありますが、これはかつては運河だったわけです。これを今変えようと努力していますね。

小堀：私は名古屋には川がないと思っています。それどころか、周辺にある川が邪魔なために発展が遅れたと思っています。堀川なんかは川ではなくドブとして見てます。

井沢：川と言った時に思い浮かべるのが、東京ならば隅田川、大阪ですと淀川。基本的に名古屋は街の中に川が通ってませんから、確かに視覚的な点でメリハリはない。しかし濃尾平野をつくった木曽三川が周辺にあり、

その恵みはある。狭く名古屋の中だけを見ず、広く見て「木曽三川あるぞ、長良川河口堰もあるぞ」（笑）、と表現できると思ってます。

兵藤：デザイン博の後、堀川に関するテレビの特番で、納屋橋から白鳥まで船で下ったんです。古い橋の欄干とか、いいですよ。街並みもいわゆる表から見る絵ではなく、裏側の生活臭が見える。日本髪を結った人が出てきそうな江戸情緒があったりする。だから、本気になれば何か可能性を持たせてくれる川だと思う。4、5年前に泥をさらえて結構きれいにしたんです。その時に、堀川をペニスの川のようにして憩いの場にしようなんて話があった。でも今だに変わった様子もないし、「ペニスへの道」はいつなんだろう。

堀内：堀川をなんとかするには大変な時間がかかるんです。アイデアはかなり出ています。現在は川に対して家がお尻向きなんですが、家と川が向かい合うようにして、その間を歩道にしたいというのが市民のアイデアであり、市の方もそれを考えておられるんです。

兵藤：5年前にもそう言ってた（笑）。

堀内：また5年ぐらいかかると思う（笑）。では、白組から見て堀川はいかがですか。

岩中：堀川はでっかいドブという感じ。名古屋には川面でのかい川がない。街のネオンが映ってロマンを搔き立てたり、気持ちをホットにさせるような川が流れとらん。僕が東京に出てた時に感動したのは、隅田川も汚い川だけど、川面が広いということ。「川だ、川だぞ、文句あるか」という存在感があった。そういうものと24時間付き合つると、感性もいろいろと培われてくるような気がして羨

井沢知旦（いざわ ともよし）

都市研究所スペーシア代表取締役
1952年大阪府生まれ。名古屋工業大学卒業。
(社)地域問題研究所を経て、90年都市研究所スペーシア設立。明治以降の雑誌の記事タイトルや内容を分析し、生活や文化・風俗から名古屋の都市イメージの形成史を調査研究。

岩中祥史（いわなか しょうじ）

エディットハウス代表取締役
1950年三重県生まれ。小学校より名古屋へ。東京大学卒業後出版社を経て、84年企画・編集プロダクション「エディットハウス」を設立。多くのベストセラーを手がける。著書に「名古屋学」「名古屋のお作法」など。

ましかったです。

橋爪：僕の生まれたのは大阪の道頓堀です。阪神タイガースが優勝して人が飛び込んだとか、浮浪者が放り込まれるとか、ロクでもないイメージしかないんですが、あそこでも大阪市がペニスをつくる言うて(笑)、何年か前にペニスから本物のゴンドラとイタリア人をよんだことがある。非常に好評で、本気でやる気になららしい。一旦川の水を全部抜いて、大きな下水道を埋め、その上に1mぐらいの深さの川をつくりて水道水を流すらしい。そこにゴンドラを浮かべるそうです。大阪市は5年ぐらい前から言うて来年着工です。名古屋も話があるんやったら、是非やったら面白いと思う。

兵藤：でも、それは川じゃないですよね。水溜まりというか、流れるプールみたい。高山とかには生活水が流れ出しているにもかかわらず、メダカが泳いでいるようなきれいな川がありますね。街中の川はああいうふうにはならないんですかね。

橋爪：堀川も汚くしてある原因があるはずやから、それを抜いて、どっかきれいな川から水をダイレクトにとってきて流すと全然変わると思います。

堀内：僕も調べてみたことがあります。堀川の上方から水を流すことは可能じゃないかと。ところが水利権やら漁業権やら、法律以前のいろんな慣習やしがらみがあって簡単にはいかないようです。でも、アイデアとしてはどんどん出していくことが大事だと思います。では新田さん、道頓堀は歌のテーマになりますが、堀川はならないんですよ。

新田：名古屋という土地の名前がついている歌って少ない。なんででしょうね。

井沢：ご当地ソングはどこでもある話で、地場の人が地場で楽しむ。道頓堀にしても東京にしても、いろんな人がグワーッとその場で賑わうステージとしての演出がうまいような気がする。名古屋は区画整理をして、影をつけなかった。つまり全部掃除して、みんな光が当たるから、猥雑さも卑猥な所もあんまりない。ただ堀川沿いにはいろんな水商売関係の店があって、あれはあれで面白いと思う。要は基本的に地場の人たちが出会っても刺激がないわけです。都市として機能しなかった側面があるんだと思う。名古屋はやっぱり名古屋なんですよ。

橋爪：ちょっと、赤組はもっと名古屋をほめなあかん(笑)。

兵藤：歌のシチュエーションというのは、色恋沙汰。道頓堀で男と女が交わす言葉は「お前が好きやねん」「うちもやねん」。ところが名古屋だと「ドエリヤア好きだがや」(笑)。コミックソングが成立するほどお笑いも発達していないし、とにかく、橋や川をテーマにした歌、つまり色恋沙汰はちょっと似合わないと、みんな知ってると思う。別にヒットしなくてもいい。そういうところで勝負しなくてもいいんですよ。

●名古屋の水は美味しいか

堀内：では、次のテーマは、名古屋の水についてです。新田さんは名古屋の水と以前飲んでた水と比べてどうですか。



橋爪紳也 (はしづめ しんや)

京都精華大学助教授
1960年大阪府生まれ。京都大学卒業。京都精華大学講師を経て現職。国際日本文化研究センター共同研究員を兼務。独自の視点にたつた都市の風俗研究を展開している。著書に『化物屋敷』『明治の迷宮都市』など多数。



新田敦生 (にった あつお)

吉本興業名古屋事務所長
1965年大阪府生まれ。関西学院大学卒業後、吉本興業に入社。4年間ダウンタウンのマネージャーを務め、92年より名古屋事務所へ。現在、吉本広小路劇場プロデューサー兼務。名古屋の笑いの仕掛け人である。

新田：僕、水は飲まないんですよ(笑)。だから、たまに飲んでも味がわからない。

橋爪：僕も飲まない(笑)。大阪と京都を比べると、大阪の方がちょっとまずいと思うけど。基本的に大阪のまずい水で体が慣れると、美味しいのはわからんのかなあ。

岩中：この件については赤組へ行きたいですね。地ビールを飲み比べてみると、名古屋のビールは美味しい。ということは、水はやっぱり美味しいということ。

兵藤：水は確かに美味しいですね。愛知用水はろ過の仕方が他都市と違う。昔ながらの方式で、大きな石から小石までの何層にもなった所を通している。だから、ミネラル分などが随分残っていて味がいい。東京や大阪は近代化されているので味気ないということです。大阪の水は味気ないというより、ドブ臭い。

橋爪：あのお、したらあかんねんけど、川でオシッコすることあるじゃないですか。だから下流の人は損です。名古屋の水は、高山とか狸のいる所から来て、上流に人が少ないんちゃうかな。それとも水の量が多いですかね。

堀内：兵藤さんはお詳しいですね。蒸留の仕方が若干古典的な方がお水は美味しいんです。それは水の量が多くないとできないそうです。井沢さんはいかがですか。

井沢：名古屋の水は美味しいと思います。僕も出身が大阪なんんですけど、名古屋でかなり長く住んでから神戸で飲んだ水は目茶苦茶まずかったです。まずいのには慣れず、僕は研ぎ澄ましていく感じですかね(笑)。古い浄化方式といえば鍋屋上野がそうですから、あそこから給水されてる所は美味しいと思いますね。木曾川から直接引いてきますから、橋爪さんが言われたようなモンはあんまり流れていません(笑)。

小堀：僕は生水は飲んでません。というのは、マンションの風呂場の床にピンク色の塩

素の跡を見つけたからです。これは比較論で、田舎のきれいな水を飲んでた人には名古屋の水はドブ臭いし、名古屋の水に慣れていれば大阪の水はドブ臭い。だから大都市比較では名古屋の水は美味しいと思う。ただ、そのことを自慢するのはやめた方がいい。手元の資料に、名古屋は金印わさびやコンタクトレンズのシェアが全国一だと書いてあるけれど、それは、たまたまその会社が名古屋にあったからで、名古屋の市民性やこの地域がそれを日本一にしたわけでも何でもない。そういうつまらないことを自慢する必要などなくて、さらりと「ほどよく」生きていける環境じゃないですか。車で1時間北へ走るとスキーができる、1時間南へ走れば海に沈む夕日を見ながら食事ができる。東へ1時間で富士山が見えて、西へ1時間で京都があり、南へ1時間で伊勢がある。そういう恵まれた所に我々は住んでいる。それなのに、こういう資料を書いたり、マナーが田舎者だからイヤになる。例えば今日、この会場へはエレベーターに乗って来られましたよね。降りる人が降りてから乗られましたか。そういうちょっとしたところで格好をつけてほしい。

堀内：馴れ合いになっていてはいけない。ここを直すべきだという意見を持つ人が増えることが大事なんですね。では、岩中さん、名古屋は何を直すべきでしょう。

●名古屋はケチじゃない

岩中：お金をパンパン使ってもらいたい。いろんなことにね。やっぱりケチだね。

小堀：いや、ケチじゃないです。名古屋のような中型都市は行政に榨取される分が多いので、個人や企業レベルで使える金が東京に比べて格段に少ないんです。使える金が残っていないだけです。うちの「CHEEK」は490頁。名古屋市は30頁ぐらいのPR誌を作っていますが、ソフトの部分の製作費は、うちが300

万かけるとすると市は600万。行政に金がありすぎる。

兵藤：ギャラもすごく安いですよ。東京や大阪と一桁違う。

岩中：僕が名古屋の人をケチだと言うのは、要するに文化とか芸能という目に見えないものに金を使わんからですよ。本とか映画とかにね。逆に、目に見えるもの、形のあるものにはお金を使う。タンス、家、車。ギャラなんか安いに決まつるわ（笑）。

小堀：違うんですよ。見極める目があるんです（笑）。つまらないものには金をかけない、いいものには使うぞという。それを別の言い方をすると、ケチということになる。

兵藤：東京に出て全国区のテレビに出たら名古屋でもギャラがバッと上がりましたね。東京から来た人や全国区になった人に対しては、なんか弱いところがある。それから名古屋は上映映画のバリエーションが少ない。人が入らないから悪循環になってるのかな。

芸能にお金をかけないのに、何故名古屋が「芸どころ」と言われるのか。江戸時代、殿様は京都からいろんな文化をとり入れ、その時に町の娘たちにも芸事を奨励したという。だからケチではない。外より内に投資する発想なんだと納得したんです。関西や東京でいう芸とは意味が違うんです。皆さんもお茶とかお華とか何かお稽古事をやってません？会場より：高校生ぐらいになりますと、母親から強制的にお茶とお華は行かされるんですよ。女の身だしなみということで。

堀内：お茶とお華が多い。商家の子に対する躊躇として定着するのが江戸時代の中頃からです。それをやらないと一人前とは見なされない。名古屋の場合は男性もやっています。

兵藤：男たちにお金をかけた後、娘にもかけるだけの金があったから嫁入りにもお金をかけたらしい。つまり、濃尾平野というのは歴史的に豊かな土地だったんです。

堀内：岩中さんの「名古屋人はケチ」という

ご発言から、こんなふうに話が盛り上がりました。それでは橋爪さん、名古屋はこうしたらもっといい、ここが気に入らない、ってのをおっしゃってください。

橋爪：名古屋には基本的にまだ城下町の氣風が残っていると思う。何か問題が起こると役所を仮想敵にしてたたく。昔、各藩から大阪に来てる侍はみんな営業部門だから、大阪の役所は民間企業とうまくやっていく歴史がある。東京は中央集権のピラミッド社会で、僕から見たら名古屋は小さな東京です。お殿様がいろんな分野にいる。そういう社会に見えてしますが、これは間違っています？

堀内：その通りです。名古屋は小型幕府です。大阪は商人が力を持っていたので、武士も今までいう証券マンとか銀行員になってしまった。それで明治維新以後、さっと商都になっていく。名古屋の場合は堅実型で、武士は武士、商人は商人、この壁は厚かった。

●名古屋は競争しない

橋爪：名古屋は各分野一社を頂点としたすごいピラミッドになっていて、競争の原理が見えにくいな。

新田：若手の芸人にも競争意識がほとんどないですね。みんなで仲良く売れていたらしい、という感じ。お笑いの世界でトップの人間が大阪からたくさん出るのは、「負けたくない、絶対勝ち残ってトップに上がっていくねんや」っていう意識が無茶苦茶あるからです。名古屋には型破りというか、人と違うことをやっていこうという人間がいてないですね。

小堀：「名古屋の芸人でーす」と言いながら、「なんやそれ」という大阪弁なり関西弁モドキをわざわざ使ってますよね。あの辺がすごい名古屋の劣等感なんだろうと思う。

新田：吉本でやってるヤツに大阪弁は絶対使わしてないですよ。僕が4年前に名古屋

へ来た時、みんな大阪弁を使ってるんですよ。お笑いといえば大阪弁、という意識があったんかどうか。全然イントネーション違うし、そこでそう使うんちゃうで、っていうの多いんですよ。だから人に伝われへん。大阪で生まれ育って大阪弁を自分のもんとして使ってる人間には勝てない。だから、絶対自分の言葉で勝負せえと、もう徹底させてるんです。

堀内：今の新田さんのお話で面白いのは、下手な真似をすると魂までおかしくなるということ。堂々と名古屋弁なら名古屋弁で喋って自分を出そうという考え方だと思います。

小堀：名古屋の人って本当は日本で一番自信満々なんじゃないかと思う。大阪みたいに、反東京とかいって片意地も張らない。何を言われても、「そうなの、私たち格好悪いの、でも私たちが一番お金持ち」って平気なんですよ（笑）。

堀内：名古屋は、そういう突っ張りがなくてもいいけるホドホドの大きさかもしれません。この街へ来たらこの街を、別の街へ行ったらその街を良くしようという発想の方がいいのかもしれませんね。そこで、仮に名古屋の文化的リーダーになつたら何をやりたいか。

●そして誰もリーダーにはならない

兵藤：どこのリーダーになる気もないです（笑）。街を良くしようと思って何かしようと「でしゃばり」とか言われる。私が通った高校はものすごい管理教育で「みんな仲良く」、要するにナアナアで何とか生きていければいいっていう気風だった。それがものすごくイヤだった。私は私の命だから、私の可能性を試すために街に縛られる必要は全然ないと、その時に思った。チャンスがあって東京や大阪へ出て行って、戻ってくると「わあ一ゆきちゃん」って出過ぎたヤツに対しては異常にヨイショする。もう今は慣れました。私も大人になつたし、日本中そうですから。

どうやって直していくのか。直す必要があるのか、ないのか。いずれにせよ、自分が生きている間には間に合わないわけですよ。だったら名古屋とか東京とか関係なく、自分の好きな所へ行って、好きなことをやって、仕事くれる所で仕事しましょう、とした方が気分いいな。

井沢：東京、大阪、名古屋はよく比較されるんですが、大雑把にいうと人口規模が3対2対1になるんですね。だから名古屋は当然、東京や大阪を目指せないんですよ。人口で支えられる規模には限界がある。私鉄が名鉄しかないと嘆いても、2社にはできない。お金を出して乗ってくれる人がおらんわけですから。そういうふうなことで、東京たくさん、大阪いくつか、名古屋は1つという、こういう経済的ポテンシャルが前提としてある。だから、まず1つは、規模とか量で勝負しても自ずと限界があるから、やはり名古屋独自の道を生きていかざるを得ないということ。地域ごとにいろんな文化があった方がいい。東京がつぶれても、次にひょっとしたら名古屋の時代が来るかもしれません。それで、長い目で見るしかないということが2つ目です。といっても名古屋は1千万人の人口があるから、ワンセット揃えられるだけの容量はあるわけです。それが「3番目の都市」と言われる所以です。基本的に名古屋は、田舎から大都会の東京や大阪へ行った人間にとて、ちょうどいい精神安定剤、トランキライザーなんだと思う。「名古屋はグサイ」と酒の肴にする。もっと小さな規模の都市をたたくと立ち直れないけれど、名古屋は多少言っても何とかなる。だから、それはそれで受けて立つたらえんやないかと思う。僕が言いたいのは、東京とか大阪の物差しで名古屋を測らん方がいいということ。

ただ、行政に対して皆さん批判されるけど、市民自身が議員を選び、議会運営させ、行政のチェックをさせてるわけです。だから、

行政が悪いというのは天に対して唾をやってるようなもので、結局市民のレベル問題だと思う。他力本願でなく、自分の物差しで自信を持ってやればいい。たぶん自信持つとるんでしょ、名古屋人は。

小堀：文化的リーダーになりたくないという兵藤さんの意見に同じです。それから、名古屋の物差しで測ることには賛成だけど、全国民の精神安定剤の場になるのはイヤです。

兵藤さんは「私は私でやっていく」と言ってても、グランパスのために応援歌の作詞をしてくれてるんですよ。思いは皆それぞれ持ってるんです。ただ、出る杭は打たれるし、小さいピラミッドの固まりを御上がりにいいようにするわけだから、そこに逆らう一方の旗を立てなきゃいかん。経済的リーダーになれるなら、やりたいことはいっぱいあります。競争原理が働かないマーケットが存在してることは、本当は良くないですよね。でも一方では、変えなくても平和だからいい、という気もある。ならば、余所と比較せずに、名古屋は日本で一番いい所だということで話を終わらせた方がいいかもしれない。

堀内：名古屋を批判しつつ、なおかつ、こういうふうにやっていくべきだという問題状況がかなりクリアに浮かび上がりました。では、白組は橋爪先生からいきましょうか。

橋爪：文化的リーダーになった場合、これは名古屋に限らず、おそらく今後大事なのは、子供方に何を伝えるかです。さっきのエレベーターの話も、子供に叱られたら、大人はみんな直しません？ 子供がきちんと見るような、そういう場のありようがあってもいいんやないかと思うんです。例えば、日本の子供たちが塾で勉強している間に、アメリカではいろんな民族の子供同士が混じりあって、すごいクリエイティブなことをしているわけです。その辺でなんか今後は考えていかんとあかんのやないかと思うんです。

新田：僕も小堀さんの話は本当にその通

りだと思った。ほんまに東京や大阪と比較をしなかったらしいと思う。「名古屋が一番やねん、何が一番かわからへんけど」と思ってたらしいと思う。ただ、あまりにも排他的すぎることが、ええもんまでも受け付けへん。ええ思想なり考え方なりをどんどん受け入れて名古屋独自のもんを作っていくらしい。

岩中：名古屋の特徴だと思うんですが、何やるにしても役所がリーダーシップをとる。住んでる人はみんな役所を信頼します。だから、東京や大阪と比較したり、日本一になるとか、そういうことを名古屋人は少しも思つとらんはずです。だったら開き直ればいい。それから町内会や老人会が名古屋では機能しとるのは、まだすごく心が通い合つとる面があるということ。心の中に踏み込んでほしくない人は東京へ行けばええんです。少しぐらい踏み込まれてもいい人は名古屋にそのまま住む。今まで本当に何も変わらぬ必要もない、国際都市なんかにならんでもええと思いますけどね。むしろ、こんな話がある。日米貿易摩擦の元は愛知県だから、日米ではなく、愛米とか名米というのが正しい。そういう意味では、名古屋は一つ別の国になってもいい。何かで突出しようとか、国際都市で世界に売り出そうとか、そんな大それたことを考えんでも、今のまんまで十分ええことだと、私は思ってます。

堀内：どちらが赤か白かわからなくなりました。結局、新しい物差しが大事だということ。もう一つは、批判をしつつ、なおかつ育てていこうとする姿勢は、名古屋を大事にすると同時に自分を大事にすることもあるということ。兵藤さんは「リーダーにはならず身軽に飛び回りたい」とおっしゃいましたが、それは重要な選択ですよね。我々はどこかに忠節を尽くしたり片意地を張る必要はないんです。できるだけ柔らかい発想で皆で議論していく中で、こういう人間的なつながりができるければ、それが一つの宝として生きてくる

と思います。またこういう会がありましたら、
お目にかかりたいと思います。お帰りになる
時には、先ほどのご指摘のように、エレベー
ターをマナー良くご利用なさってください。
ありがとうございました。

「名古屋へのラブレター」結果報告

名古屋都市センターは、去る平成7年9月より2ヶ月間にわたり、“名古屋へのラブレター”を募集しました。名古屋に宛てて手紙を書くことで、無関心でいた“まち”に対する想いを喚起し、愛着心を育む機会とする、また、集められた情報をテレビなどを使って紹介し、名古屋の魅力づくりに役立てようという試みです。

身近かにあるまちのおもしろさを再発見し、新しい名古屋の魅力を掘り起こすことに主眼を置き、応募内容は特に限定せず、「名古屋への熱い“想い”を書いてください。」という自由なものとしました。

全国版の公募雑誌に掲載されたこともある、名古屋圏以外にも広く全国の都道府県から多くのラブレターが寄せられました。応募総数813通。応募概要は次のとおりです。

◆応募者分布（不明13点を除く）

名古屋市247点、東海3県（名古屋市を除く）196点、東京都63点、神奈川県44点、大阪府33点、他37都道府県215点、海外2点

◆年齢構成

| | 女性 | 男性 | 不明 | 合計 |
|-------|-----|-----|----|-----|
| 19歳以下 | 36 | 13 | | 49 |
| 20代 | 122 | 20 | | 142 |
| 30代 | 114 | 45 | | 159 |
| 40代 | 80 | 42 | | 122 |
| 50代 | 52 | 29 | | 81 |
| 60代 | 20 | 45 | | 65 |
| 70歳以上 | 11 | 11 | | 22 |
| 不明 | 130 | 38 | 5 | 173 |
| 合計 | 565 | 243 | 5 | 813 |

◆ラブレターの内容

風景 140点、食べ物 87点、まちの楽しみ 25点、言葉 32点、人物・人情 69点、思い出 155点、その他 305点

平成7年11月10日に“名古屋へのラブレター選考委員会（堀内守委員長）”が開催され、これらの作品の中から最優秀賞1点、優秀賞5点、努力賞1点が選ばれました。受賞作は、講評とともに

に以下に掲載します。また、優秀な作品十数点をもとに1時間の特別番組を作成し、12月28日に中京テレビで放映しました。

◆最優秀賞 朴 明子（主婦）名古屋市中区

《講評》

主婦という視点から、日常的な堀川の魅力を鋭い観察力で表現した作品です。

堀川に対する愛情が一つひとつの文章から出ています。絵が目に浮かぶような描写力が素晴らしい、過去から現在、未来へと時空を移動していくところがおもしろい。

わが家はマンションの十四階。眼下に堀川が流れている。毎朝、港の貯木場から筏に組まれた大きな木材が、小舟に曳航されて通る。それが楽しみで「ポン、ポン、ポン……」と音を残しながら悠然と去っていく様を、家事そっちのけで見入っている。

七、八年前までは、筏の上に人が乗って巧みに竿を操っていたが、近頃は人が乗っているのは稀である。船を操縦している人が後を振り返りながら曳いていくのだが、ときには船体で竿を押していくこともあります。その様子はとてもユーモラスだ。

五年前のデザイン博以来、電飾船パレードが行われるようになった。夜の川を三日間、イルミネーションいっぱいの船が何艘も、賑やかな音楽を流しながら、港から納屋橋方面へ流れていく。今や夏の風物詩ともいえる楽しい催しで、私は友人達を招いてショッキを傾けながら、船を待つ。

堀川は、名古屋の街のいろんな「夢を運ぶ川」でもある。

◆優秀賞 佐藤 良子（主婦）愛媛県

《講評》

はがきに短い文章に端的に表現され、ユーモアが光る作品です。何度も食べてはじめて良さが分かる味噌煮込みうどんを名古屋とダブルさせているセンスもなかなかのものです。

名古屋名物のみそ煮込みうどんさん。私は二度もあなたに失礼なことを致しました。初めてあなたを食べたとき、「なんだ、煮えてないじゃない！」二度目に食べたとき「いくら客が多くてもちゃんとゆでろよな！」と心の中で叫んでいました。でも、三度目にやっとわかったんです。そして四度目にはとりこになってしまいました。どうぞ、あなたの偉大さに気付かなかった私をお許し下さい。

◆優秀賞 上 紀男（自由業）東京都

《講評》

意外な人物発見を東京の方がしてくれたことに注目。心あたたまる話で、名古屋にこんな素敵なお人がいることを知らされて感動しました。

「名古屋のモーツアルト」

名古屋にはモーツアルトの大ファンで、『ウォルフガング・アマデウス』という洗礼名を持つ一人の音楽家がいます。瀬戸市の高校で音楽を教える彼は、名古屋では知る人ぞ知る有名人です。

彼の晴舞台は「セントラルパーク広場」で、年に一度「クリスマス・イヴ」にだけ脚光を浴びています。約七百名の女生徒を階段に整列させ、約八千人の市民を前にして贊美歌の指揮を執るのが彼の役目ですが、その聴衆の特異さが彼のユニークなところです。

彼は毎年、愛知県某所で『堀の中のクリスマス会』を開催していて、そのO Bやホームレスの人達が大挙して駆け参じるというわけなんです。寒々とした堀の中で聴いた贊美歌が忘れられないらしいのですが、罪を犯した人々の耳を魅了させるのはとても大変らしいのです。「笑わせてから聴かせ、また笑わせてから聴かせ、最後には泣かせる」というのが彼の極意です。「罪を犯した人を救うには音楽しかない」と、名古屋のアマデウスは聖夜の空に向かって祈りのタクトを振り続けています。

◆優秀賞 藤本 美代子（主婦）名古屋市中村区

《講評》

さまざまにかたちを変えながら再生するひとつの建物に対する愛情が感じられる作品です。ラブレターとして素敵な文面に好感が持てました。

「拝啓 アクテノン様」

拝啓 アクテノン様

大阪育ちの私が名古屋に嫁ぎ、はや26年。見知らぬ土地に来て初めてあなたを見た時はまるでギリシャのパルテノン神殿の様だと感激しました。

あなたが実は図書館だと知り、私はせっせと通い続けました。後で知ったのですが図書館となったのは昭和40年、それ以前の昭和12年～19年の間は配水塔として活躍されたんですね。だから平成3年に新しい図書館が中村公園内に新築された時は、あなたの今後が心配でたまりませんでした。

建築物としては古いあなたが取り壊されるという話が出た時は心を痛めました。でも多くの方達のご尽力で今年12月1日から演劇練習館“アクテノン”として再び活躍されると知り、心からうれしく思います。

“おめでとう”。あなたは私にとって名古屋城やテレビ塔にも勝る名古屋のシンボルです。これからもその勇姿をますます輝かせて下さい。あなたのものとから演劇界のスターが誕生する日をお待ちしております。

敬具

◆優秀賞

星野 央子（事務パート）名古屋市瑞穂区

《講評》

テレビで間違った名古屋弁が伝わっているいま、名古屋弁の素晴らしさ、美しさを再認識させてくれました。余韻があり完成度の高い文章です。

「おばあさんのやさしい“なも”」

新瑞橋の駅近く、老舗の茶屋のおばあさんに会ったのは、初夏だった。ガラガラと音をたてて引き戸を引くと表通りの喧騒を忘れる物静かな店内に年季の入った茶箱が並び、一輪差しには青紫の鉄線の花がそつといけてあった。のれんの奥から八十過ぎと思われる小柄なおばあさんが「ようきてちょうどいた。きょうは暑くてきついなも。」目がぱっちりしてまるで一輪差しの鉄線そのものの気品のあるおばあちゃんだ。何よりこんなやさしくて綺麗な名古屋弁を聞いたのは初めてだ。私はうっとりしてしまった。名古屋に嫁いで随分名古屋弁に親しあつたりだったが、自然に語尾の「なも」を使う人には会ったことがなかった。

私はその後もおばあさんの「なも」が聞きたくてよく茶屋に訪れた。最近はちょっと事情があって御無沙汰している。

「お元気ですか。おばあちゃん。」

◆優秀賞

若松 学（小学生）名古屋市中川区

《講評》

「栄だけでない名古屋」を9歳の体いっぱいに感じている生活感の表現された作品です。ゆとりある生活を子供の目で的確に捉えていて、胸を張って自然と近い自分の町を自慢できる感性がいい。

「ぼくのすんでるまち」

ぼくのすんでいるところは、名古屋でも一番西で、まわりには、田んぼや、畑があり少し行くと戸田川りょくちもあり、自然がいっぱいある所です。さかえに行くと、ビルがいっぱいあるけど、ぼくのすんでいる所は、さかえみたいな大きなビルはありません。

秋になるとぼくと弟の二人でたもを持って、トンボをつかまえます。

ぼくの家の近くでは、もうすぐいねかりをするけど長島おんせんのほうは、もうおわっていました。ぼくは、家の近くのいねかりがおわったらボールをなげてあそびます。

ぼくは、田んぼが、好きです。どうしてかとゆうと田んぼに行くと、かまきりやバッタがたくさんいるからです。かまきりのオスは、体が小さくてスマートです。メスは、体が、大きくて、おなかがふくれています。

ぼくのすんでいる町は、自然がいっぱいです。

◆努力賞 宮崎 俊治（無職）名古屋市名東区

《講評》

金鯱をキミと読ませるように金鯱へのひたむきな愛情が込められた作品。きちんとした文章の手紙とともに9枚の写真が同封してあり、その想いの深さに心打たれました。

“わが愛する金鯱よ永遠なれ”

幼い日、母の背中から仰ぎ見た金鯱の英姿。長じては少年の頃、望遠鏡から覗き見た金鯱の、きらびやかにして端麗な容姿。B29の空襲で、お城と共に金鯱が焼け落ちるのを、涙ながらに目撃した昭和二十年五月十四日の夜。お城が再建されて金鯱が甦り、燐然として輝き、喜びに湧いた昭和三十四年の秋。それらのことどもが恰も走馬灯のように、イマ彷彿として眼前に去来するよ。

“尾張名古屋は城でもつ”。城は名古屋のシンボルであり、金鯱はわれら市民の誇りだよ、金鯱が始めて名古屋の大空に光彩を放ってから、もう三八三の星霜が流れたね。

そんな金鯱を愛し続けながら、すでに古稀を過ぎた僕だが、金鯱を愛し金鯱を想う心は、昂りこそすれ衰えることはないよ、金鯱こそわが終生忘れ得ぬ心の恋人なのだ。

折りにふれては、愛機を構えて金鯱を撮りまくっている今日この頃だよ、「わが愛する金鯱よ永遠なれ」と心の裡に希いながら。

この他、賞には漏れはしましたがおもしろい作品、また心に滲みる手紙はいくつもありました。応募された手紙の中から約200点を選んで、平成8年秋には出版もする予定です。この本が全国の書店に並ぶことに…どうぞご期待ください。

すべてのラブレターは、応募者の住所・名古屋での居住歴・性別・年齢・大まかな内容の分類と書かれている区や地域・キーワードとなる言葉をそれぞれのデータとして整理しました（下表参照）。

ラブレターデータシート（恋愛・デート）

| 番号 | 分類 | 住所 | 性別 | 年齢 | 内 容 | 区 名 |
|-----|-------|-----|----|----|-----------------------------|-------|
| 61 | 思い出 | 三 重 | 女 | 41 | 広小路、神宮、東山公園、栄、テレビ塔、デート場所 | 中区・熱田 |
| 228 | 人物・人情 | 三 重 | 女 | 25 | デート場所、遠距離恋愛 | |
| 236 | 風景 | 神奈川 | 男 | 25 | 失恋ひとり旅、三国山、夜の景観、デート場所 | |
| 368 | 思い出 | 奈 良 | 女 | 一 | 名古屋港水族館、東山公園、名古屋城、遠距離恋愛、新幹線 | 千種・港 |
| 374 | 思い出 | 静 岡 | 女 | 22 | デート場所、遠距離恋愛、テレクラ | |
| 376 | 思い出 | 千 葉 | 女 | 48 | 名古屋港、デート場所 | 港 |
| 424 | 人物・人情 | 福 岡 | 女 | 31 | 山田屋、人、遠距離恋愛、地下街、名古屋駅 | 中村 |
| 444 | 思い出 | 香 川 | 女 | 43 | モディリアニ、おさげ髪の少女、恋愛 | |
| 545 | 思い出 | 長 崎 | 女 | 28 | 名古屋城、デート場所、遠距離恋愛 | 中区 |

図-1 居住歴別にみたラブレターフレーミング

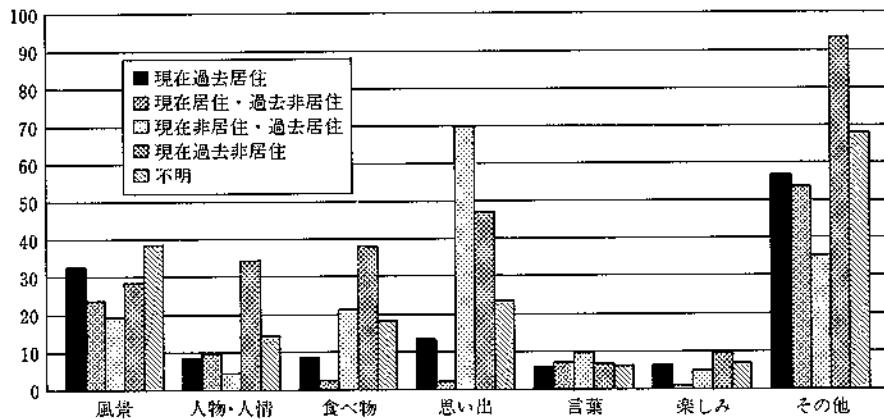
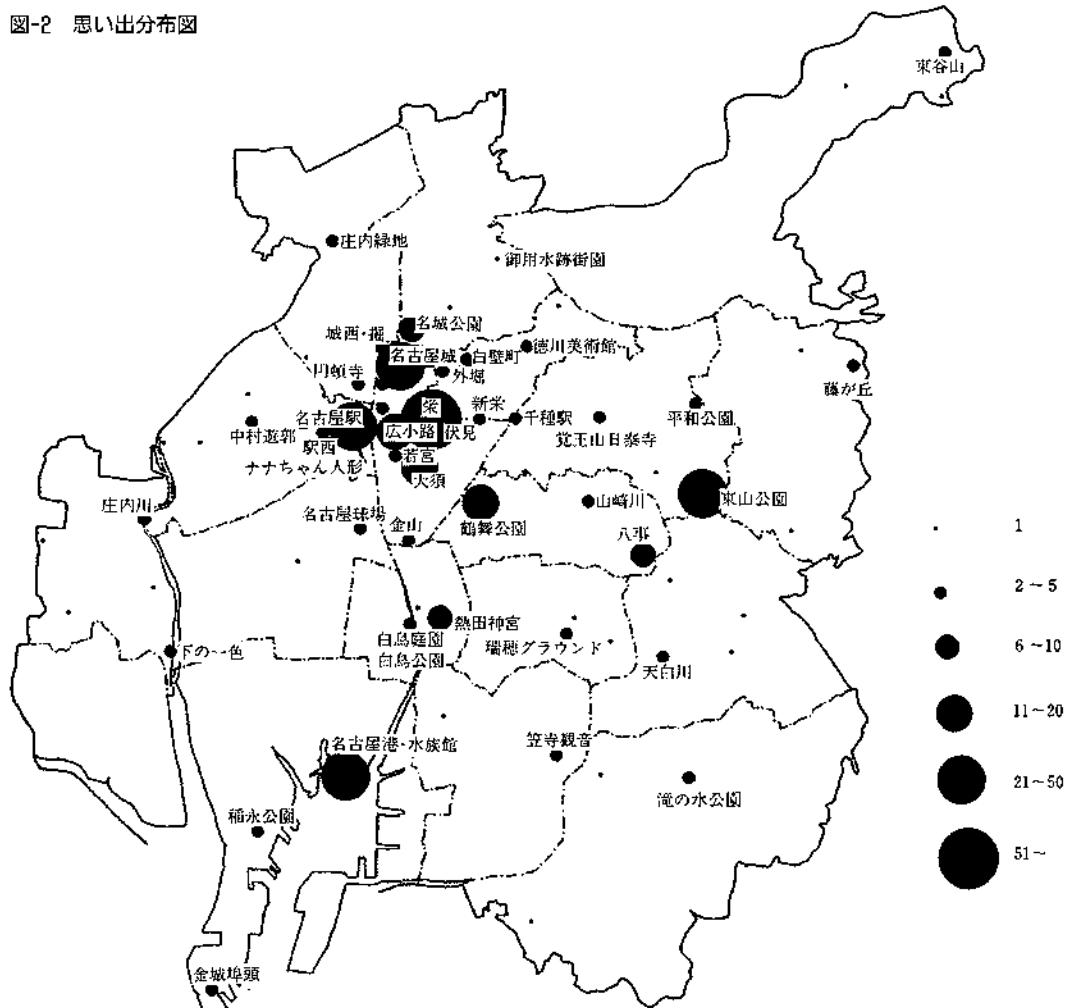


図-2 思い出分布図



“名古屋へのラブレター”とは、いったいどこに、何に宛てて書かれているのでしょうか。ラブレターの中に出でてきた場所を地図の上に落としてみました(図-2)。栄・名古屋駅・東山公園・名古屋港、と“想い”的ある場所が集中しているのが分かります。それもとても一般的と言うかポピュラーな所です。意外性のある場所というのはなかなか出できません。また、何らかの魅力があると捉えられているところは、1点1点としては現れてくるのですが、そのポイントが繋がって線となるような、また面となるような広がりを持っていくことは、極稀のようです。

とは言え、“名古屋へのラブレター”は名古屋のイメージや魅力を考える上での貴重な資料やデータと考えています。車社会と言われる名古屋ではありますが、車を降りて歩いてみたくなるようなまち、線となり面へと広がっていくまちの魅力発掘を目指して、また生き生きとしたまちの表情と人々の想いが詰まった素晴らしい名古屋を見つけるためにラブレターに続く第2弾・3弾の企画を考えております。どうぞご声援をお願いいたします。

編集後記

情報化が、国際化、高齢化等とならびまちづくりの課題として認識され、様々な情報化技術を取り入れた都市開発が鳴り物入りで計画、実施されて10年余りが過ぎました。初期の頃は、バブル経済の膨脹期にもあたり、テレポートや高度情報センターによる地域管理など拠点型の情報施設整備が都市開発のセールスポイントとして注目され、情報化技術が可能にする様々な都市生活の将来像がバラ色に描かれたりしました。しかし、バブル経済の崩壊は様々な都市開発に暗い陰を落とし、東京臨海部に象徴されるように拠点開発型の情報都市建設は岐路に立たされているところが少なくありません。ところが情報化は休むことなく着実に都市生活者の中に浸透してきており、都市生活者のライフスタイルを大きく変えるほどの進展をみせているのが現在です。

今回の特集では「情報化と都市」と題し、インターネットに代表されるように拠点型でなく分散型で進みつつある情報化の行方や双方向性を活用してCATVで実現されると考えられてきたバラ色の世界の実態など情報化が都市生活に実際に及ぼしつつある影響を現場で肌で感じながら取り組んでおられる方々のレポートを中心に編集いたしました。

今回の特集が情報化時代のハード、ソフト両面にわたる都市づくりの様々な取り組みや研究のきっかけとなり、利便性が高いだけでなく心豊かに安心して暮らせる都市の実現に向けて、ますます活発な議論がなされることを期待します。

アーバン・アドバンス No.7

1996年6月発行

編集・発行

財団法人名古屋都市センター
〒460 名古屋市中区金山二丁目15番16号

Tel: 052-321-1441

Fax: 052-321-1491

印刷

長苗印刷株式会社



アーバン・アドバンス

Urban Advance
NO.7 1996.6